



一般社団法人 PMI日本支部
創立20周年記念誌

PMI とは

米国防総省が国防、航空宇宙など大規模プロジェクトを管理するためにマネジメント手法を体系化したのが始まりとされるプロジェクトマネジメント。その後、製造・建設・エンジニアリング・化学産業等への展開を経て、プロジェクトマネジメントを職業とする職業人団体として1969年に米国ペンシルバニア州フィラデルフィアのとある民家のダイニング・ルームから始まったのがPMI (Project Management Institute)でした。

PMI がまとめたプロジェクトマネジメントの知識体系「PMBOK® (Project Management Body of Knowledge) ガイド」は、1984年のプロトタイプ版を基とし初版出版は1987年。その後もボランティアの献身的な作業により4年ごとに改訂が繰り返され、現在の最新版は2017年の9月に発行された第6版となっています。

世界標準となった「プロジェクトマネジメント」は、世界中のさまざまな分野で実践されています。

PMI 日本支部とは

1998年、PMIの日本国内唯一の支部として「PMI 東京支部」が設立されました。その後、2009年に「一般社団法人 PMI日本支部」と名称を変え、国内におけるプロジェクトマネジメントの普及を目的に、さまざまなステークホルダーと共に活動し、2018年には創立20周年を迎えました。

その「協働」は、会員ボランティアや法人スポンサーに支えられつつ、各種イベントや研究会の開催、PMI 出版書籍の日本語訳・販売等を通じて、会員の方々ご自身のPMスキルの研鑽につながっています。また、プロジェクトマネジメント、プログラムマネジメント、ポートフォリオマネジメント、そして近年注目を浴びているビジネス・アナリシスなどの手法の啓蒙へと活動の質的拡大も続けています。

INDEX

会長挨拶

2 …PMI日本支部 会長 奥澤 薫

祝辞

3 …PMI本部 Chair, Board of Directors Caterina La Tona

4 …プロジェクトマネジメント学会 会長 関 哲朗
日本プロジェクトマネジメント協会 理事長 光藤 昭男

5 …情報サービス産業協会 会長 横塚 裕志
日本情報システム・ユーザー協会 会長 石原 邦夫

6 …PMI韓国 会長 Kwang Ho Choi
PMI台湾 会長 William Chen

7 …PMI香港 会長 Rossana Ho
PMIモンゴル 会長 Battulga Norolkhoojav

8 …PMI中国 会長 Bob Chen
PMIサンパウロ 会長 Alex Sander M. Urbano

9 第1章 20年の振り返り

10 …PMI日本支部の20年

12 …1997年～1998年 主要活動記録
初代会長 西野 弘コラム

14 …1999年～2000年 主要活動記録
第二代会長 山根 孟コラム

16 …2001年～2002年 主要活動記録
初代事務局長 清水 計雄コラム

18 …2003年 主要活動記録
事務局 田中 洋一郎コラム

20 …2004年 主要活動記録
第三代会長 瀬尾 恵コラム

22 …2005年 主要活動記録
教育委員会 第二代委員長 山戸 昭三コラム

24 …2006年 主要活動記録
情報・宣伝委員会 委員長 東谷 上コラム

26 …2007年 主要活動記録
PM実践研究会 代表 橋本 欽司コラム
事務局(当時) 伊東 緑コラム

28 …2008年 主要活動記録
セミナー委員会メンバー 鬼束 孝則コラム
第四代会長 神庭 弘年コラム

30 …2009年 主要活動記録
関西ランチ代表 浦田 有佳里コラム

32 …2010年 主要活動記録
元教育担当理事 当麻 哲哉コラム

34 …2011年 主要活動記録
元社会貢献担当理事 顧問 高橋 正憲コラム

36 …2012年 主要活動記録
Women OBF元代表 坂上 慶子コラム
事務局 三島 邦彦コラム

38 …2013年 主要活動記録
標準推進委員会 鈴木 安而コラム

40 …2014年 主要活動記録
医療プロジェクトマネジメント研究会
代表 宮原 勅治コラム

42 …2015年 主要活動記録
中部ランチ代表 木南 浩司コラム
リーダーシップ推進リーダー 伊熊 昭等コラム

44 …2016年 主要活動記録
IRC研究会 坂本 健太郎コラム

46 …2017年 主要活動記録
組織拡大委員会 担当理事 森田 公至コラム

48 …回想コラム
第二代事務局長 永谷 裕子
第三代事務局長 田坂 真一
副会長 端山 毅
標準推進委員会 理事 中嶋 秀隆

50 …PMI日本支部 理事・監事・顧問・事務局紹介
第四代事務局長 吉田 一弥コラム

51 第2章 20周年記念プログラム内容紹介

52 …20周年事業紹介
20周年記念プログラム プログラム・マネジャー
浦田 有佳里
組織拡大委員会 担当理事 斉藤 学

54 …20周年記念セミナー報告

56 …コラム
20周年記念セミナー プロジェクトリーダー 川崎 健
20周年記念イベント 担当理事 森田 公至

57 第3章 これからの10年アンケート 座談会

58 …PMI日本支部20周年記念アンケート結果

60 …PMI日本支部 アクティブメンバー座談会
PMコミュニティ活性化委員会 松本 弘明コラム

64 …PMI日本支部 長期展望

66 …さいごに
20周年記念誌編集委員長 片江 有利

資料

67 …PMI日本支部 理事および事務局長一覧

69 …スポンサー一覧

70 …PMI日本支部(PMI東京支部)発行の出版書籍一覧



PMI日本支部
会長 奥澤 薫

ご挨拶

今年にはPMI日本支部創立20周年にあたります。これを記念して様々な事業を遂行しております。その一環として創立から現在までの歴史を振り返り、日本支部の活動に関わられた方々やご支援を賜った方々からご寄稿いただきました。お忙しい中、ご寄稿いただいた方々、座談会にご参加いただいた方々、そしてこの20周年記念誌をまとめていただいた方々に心から感謝いたします。

おかげさまでPMI日本支部の会員は4,000人を超えるまでになり、規模では世界で10位圏を窺うところまでできております。一方、もはや個人の力だけでは運営することが難しくなっているとも思っております。そのため、組織の再編成、中期計画と年度活動との同期、理事参加による支部施策の実施、部会リーダーの合宿研修であるリーダーシップ・ミーティング(PMI日本支部版LIM)、新入会員向けのオリエンテーション、その基礎となる諸規定の整備など、様々な仕組みづくりを進めてまいりました。

PMI日本支部は支部会員のためのものです。会員に価値を提供することが日本支部の使命です。海外の最新動向の紹介、それを国内事情に適合させる模索、情報の共有と発信、政府・自治体への働きかけ、人脈形成の機会提供、発信の場の提供、等々日本支部が提供する施策を支部会員の皆様に価値あるものとするために常に見直していきます。

現在のPMI日本支部は、先輩諸氏、ご支援を戴いた方々のご尽力の賜物です。皆様が築き上げた土台の上に、PMI日本支部の次の20年を始められるのだと改めて実感します。

PMI日本支部の創立に関わられた方々のご寄稿をお読みすると、いまさらながら日本支部がどのような経緯で産声をあげ、成長していったかを再認識します。創立から間もない時期のご苦勞や皆様の高い志、神庭前会長をはじめ先輩会長や理事の方々には、強いリーダーシップでPMI日本支部を導いていただいたと思っております。諸先輩方の志や思いに触れ、これからの私たちの活動に決意を新たにいたしました。

PMI日本支部は、先輩の方々には温かく見守りいただき、関係者の方々のご支援と支部会員の方々の積極的な関わりをいただきながら、次の20年に向け新たなスタートラインに立ちたいと思っております。引き続きご支援を賜りますようよろしく願いいたします。

On behalf of the PMI Board of Directors, congratulations on your 20th anniversary!

I am pleased to celebrate this anniversary with the members of the Japan Chapter, which has become one of the largest in the world in terms of membership due to your support. Over the past two decades, the PMI Japan Chapter has delivered enormous value for professionals across Japan, offering more than 40 seminars each year – including major events like the PMI Japan Forum and PMI Japan Festa - bringing together hundreds of practitioners to share ideas and best practices.

Volunteers have long been the heart of PMI and our spirit of volunteerism is one of our greatest competitive advantages as an association. Members of the Japan Chapter have selflessly devoted hours of service, including translating certified project management books and educational materials into Japanese. Your contributions have helped strengthen the profession and built a foundation of knowledge to benefit your colleagues.

Your skills and expertise are more important today than ever. As project managers, we are the ones who help organizations realize their strategic visions and navigate through change in a fast-moving world. We create positive change in everything around us. Our ability to continuously learn and apply that knowledge drives our success in enabling change.

The world has seen enormous technological advances over the past 20 years – just imagine what the next two decades will hold. In a world where the only constant is change, it is critical for all of us to ask how we can keep growing and developing our capacity as leaders and creative thinkers.

Our aspiration at PMI is to empower people to make ideas a reality. As we approach our 50th anniversary as an association, we are intensifying our efforts to prepare practitioners for the future, advocate for our industry, and apply our expertise to serve our communities. All of you will continue to play a critical role in this work.

On behalf of the PMI Board and all of our staff, I thank you for your commitment – not only to advancing your own career, but advancing our profession.



Caterina La Tona

Chair, 2018
PMI Board of Directors



一般社団法人
プロジェクトマネジメント
学会
会長 関 哲朗

創立20周年、おめでとうございます

創立20年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。PMBOK® Guideの初版が発行され、当時の建設省や通産省といった官主導による産業界へのプロジェクトマネジメント導入が示唆される中、後に「PM3団体」と呼ばれるようになる性格の異なる3つの団体が相次いで設置された当時のことが昨日のことに思い出されます。

20年と一言で言いますが、二昔もの歳月が流れ、昔ばなしを知る方も少なくなってきました。ここでは、お祝いの席での無駄話の1つとして、当時のエピソードでもご披露したいと思います。この3団体は、PMI東京(現PMI日本支部)と日本プロジェクトマネジメント・フォーラム(後の日本プロジェクトマネジメント協会)が1998年に、PM学会は1999年というように、設置の時期が僅かにずれています。これには、同様の母集団からの会員の参画を想定、期待する当時の「忖度」がありました。忖度の結果というか、兄貴分からの「助言」に従った結果というか、PM学会が最後の設置で落ち着き、今日に至ります。そうこうして設置された3団体の初の共同作業は、日本語によるPMP試験のための用語集づくりでした。書籍自体はPMI東京編として発行されてはいますが、当時の諸事情によってPM学会が著作権を持つことで「PM3団体」で合意し、発行に至りました。もっとも、この用語集の大凡は日本IBMから提供頂いたものでしたので、功労の実は日本IBMにあるものでした。

かくして20年。米国PMIの会員数は前年比20%近い増加を続け、日本のPMプロフェッショナル団体の会員数も飛躍的に増加しました。当時、数百件のヒットだったproject managementの検索結果は、日本語で3千万件、英語で10億件に達する勢いです。もっとも、Googleの日本語サービスが始まっておらずYahoo全盛、PCよりもWS、ブラウザもNCSA Mosaic全盛のころの話ですから、今とは比べようもないのかも知れませんが、米国PMIの会員数も今ほどは多くなく、長閑だったannual conferenceには日本企業からそれなりの規模の見学ツアーもあり、国内のPMがPMIの躍進と共に進化、拡大していく様子が実感できた時代でもありました。

これからも、我が国のPMの歴史がPMI日本支部の発展と共にありますように、重ねて20周年の節目にお祝いを申し上げます。



特定非営利活動法人
日本プロジェクト
マネジメント協会
理事長 光藤 昭男

PMI日本支部 祝設立20周年

世界の体系立てられたプロジェクトマネジメント方法論は、PMIに依って導かれました。先駆的なコンセプトは、今から40年近く前の1976年モントリオール・シンポジウムで発表され、瞬く間に、標準(PMBOK)、認証、検定、倫理規定の制定に至りました。PMBOK®ガイドの原型は、1987年夏にPMIボードにより承認され、発刊されました「The Revised PMBOK」でした。当時、石油メジャー向けプロジェクトのPMに従事していましたので、企業内プロジェクト標準でない業界横断的で抽象度の高い標準の発刊にはカルチャーショックを受けたことを覚えています。以来、世界のPM標準のデファクトとしてPMBOK®ガイドはグローバルに急速に普及して行きました。

その伝統を引き継ぎ、PMI日本支部のミッションとして掲げられているのが、次の主要三項目です。

- 1) プロジェクトマネジメントの適用基盤の整備
- 2) プロジェクトマネジメントの標準とその活用技術を広める
- 3) プロフェッショナリズムの醸成とコンピテンシーの向上

これを通してプロジェクトマネジメント実践組織や社会の発展に貢献するとされています。これらは大変重要な活動です。また、当協会の設立以来、長年相互交流を通じて、良好な関係を維持させて頂いております。

日本企業の活動は、世界の隅々まで広がっています。その活動が良い結果を出し続けるには、さまざまなプロフェッションに支えられた仕事の基盤が必要です。プロジェクト業務は、全業務の4割を占めると云われています。これを支えるのは、まさに上記の主要三項目を使命とする活動です。これからもこの使命のもと、過去の20年の伝統をベースに、今後も日本のPMコミュニティをリードし続けて頂きたいと祈念いたします。

設立20周年を祝い、支部ならびに支部会員皆様のご清栄とご繁栄を心から祈念いたします。

PMI日本支部 設立20周年を祝して

PMI日本支部設立20周年に当たり、心よりお祝いを申し上げます。20年の長きにわたり、「プロジェクトマネジメント」の定着を担ってこられた歴代会長を始め役員各位並びに会員の皆様のご功績、ご貢献に対し深甚の敬意を表する次第です。

この20年を振り返りますと、ソフトウェアの重要性ひいては産業としての存在感が大きく高まった時代でした。この間、ソフトウェア業を始めとする情報サービス産業は次々と登場するイノベーションを積極的に取り込み、経済や社会の仕組、更には人々の生活を大きく変える原動力の役割を果たしてきました。

そして今、いわゆる「第四次産業革命」が産業構造そのものを大きく変革しつつあります。世界のIT投資は基幹系（SOR）からIoT、FinTech、AI、ロボテックス、ビッグデータ解析等の先端技術活用（SOE）に重点が移り、競争優位性の高い新たなサービスやビジネスモデルを実現する、いわゆる“ビジネスのデジタル化”への取組が本格化しています。我が国でもITによる新しいビジネス指向が急速に浸透しつつあり、当業界への期待も高まりを見せています。

このような流れを受けて、プロジェクトマネジメントも高度化してきています。顧客との共創において、ITを活用したビジネスを一緒に作り上げていくアジャイル開発といった新しい方法論が定着してきており、プロジェクトマネジメントがカバーすべき分野は、ビジネスアナリシスやベネフィットマネジメントといった、よりビジネスに近い分野に広がりを見せてきました。そういった中、複雑化するプロジェクトを滞りなく進捗させることがますます重要となっており、貴会に求められる役割がより一層重要になっていると考えます。

経営環境が大きく変化する今、リスクを取り、スピード感を持って、変化をチャンスに変えることに挑戦し、諸課題の解決に取り組んでいかななくてはなりません。貴会並びに会員の皆様がトップランナーとしてこの変革の大きなうねりを乗り越え、次の10年に向かい更なる発展を遂げられますよう心よりご祈念申し上げます。

PMI日本支部 設立20周年を祝して

一般社団法人PMI日本支部様が設立20周年を迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。

御団体が誕生しました1990年後半は、インターネットを始めとする情報基盤が地球レベルで発展し、国際的な商取引や国を跨がるコミュニケーションへのIT活用が進み、日本国内においても人や社会、企業が様々な形態でITを使い始めた時代でした。

それから20年の間、ITが社会生活や企業活動に一層浸透し、数え切れないほど多くのシステム開発プロジェクトが遂行されてきましたが、御団体はプロジェクトの形態や性格の変遷に応じて次々と新たなプロジェクトマネジメント標準や方向性を打ちだされ、多くのプロジェクトの実践を支えてこられました。PMP試験や国内ブランチ設置を通じてPMBOKの普及や会員数の拡大に努めてこられたひとつ一つの活動が、日本におけるITの高度活用を導いたのだと確信しております。

御団体の日本のITへの貢献は多大であり、長年に亘る着実なご活動に敬意を表するものであります。

昨今、AIやIoTといった新しい技術が誕生する中、ITに対する期待やITが果たす役割は益々大きくなってきております。一方で、新しい技術を適材適所で効果的に活用していくためには、未来思考での発想・創造が重要であり、プロジェクトはスピードアップを求められ難解さが増しプロジェクトマネジメントの新たな標準が求められております。

また、日本企業の海外進出が進展する中、ITグローバルガバナンスの重要性が増し国際標準であるPMIへの期待は高まってきており、今後益々御団体が重要かつ大きな役割を担っていかれることと思料しております。

弊協会としましても、教育研修事業においてプロジェクトマネジメントに関するカリキュラムを充実させるなど様々な取り組みを展開して、多くのユーザー企業のプロジェクト成功に向けて助力いたす所存です。

御団体との連携を深めご協力を賜りながら進めてまいりたいと考えております。何卒よろしくご祈念申し上げます。

PMI日本支部様と御団体会員各位の益々のご発展を祈念申し上げまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



一般社団法人
情報サービス産業協会
会長 **横塚 裕志**



一般社団法人
日本情報システム・
ユーザー協会
会長 **石原 邦夫**



Kwang Ho Choi

President,
PMI South Korea
Chapter

Hope Another Leap Forward

First of all, congratulate the 20th anniversary of Japan chapter.

Many of the results achieved in the Japanese chapters of the last two decades have become the model of all existing national chapters, as well as the direction to follow for newly formed chapters. I think this result is due to the constant efforts of many stakeholders and chapter members to promote and develop project management over the last 20 years. It is also a result of the active participation of members in the many events held in Japan chapter and the continued support of corporate sponsors.

In addition to this, the Japanese chapter is not only activities in Japan but also an opportunity to expand the scope of activities through active exchanges with overseas chapters such as the Indonesian chapter is a breakthrough for mutual understanding and long-term goodwill. Furthermore, by activating such regional seminars, it is expected that the number of members will be further increased due to satisfaction with various needs of members and improvement of service.

Now that the Japanese chapter has reached the age of majority, I hope that another leap forward and the partnership will be well established for the development of project management in the Region 9.

Finally, I would like to comment that these results are inconceivable without the dedication of Volunteers such as the Chapter President, the Board of Directors, and without the Secretariat.

I would like to sincerely congratulate the 20th anniversary of the establishment of the PMI Japan Chapter and pray that this will be the starting point for another leap forward.



William Chen

President,
PMI Taiwan Chapter

Appreciate Your Openness and Sharing Experience

Please accept my warmest congratulations on celebrating the 20th Anniversary of the PMI Japan Chapter.

Since its inception, your Chapter has been faithfully committed to advancing the practice of Project Management, continually expanding over the two decades to become one of the largest chapters and a tremendous resource for the industrial, non-profit, education and government entities throughout Japan and in Asia. I greatly appreciate that you have been open to sharing your experience with me and many fellow chapters.

On behalf of all members and friends at the PMI Taiwan Chapter, I commend the exemplary leadership and efforts of everyone affiliated with your chapter and extend my gratitude for your many valuable contributions to the development of Project Management in Taiwan and the Asia-Pacific region.

Congratulations again, and best wishes for many more years of success.

生日快樂

Celebrating An Important Milestone

The 20th Anniversary marks an important milestone in the development of the PMI Japan Chapter and is a truly memorable occasion for executive board, individual and corporate members, staff, other project management professionals and friends. In my capacity as PMI Hong Kong Chapter president, it is my greatest pleasure to be part of joyous celebrations.

PMIJ has come a long way since its establishment. Throughout the past 20 years, PMIJ has nurtured project management talents to suit the changing needs of Japan. Along the way, PMIJ has built up an enviable reputation as a hub of knowledge transfer and a pioneer in promoting project management in corporations. PMIJ is in fact the biggest chapter with largest number of members in Asia Pacific.

For many years Hong Kong and Japan Chapters have been working closely and trustfully in a variety of programs. In fact, our two chapters have many in common - Hong Kong Chapter just celebrated our 20th anniversary last year, and we both have strong support from corporations on sponsorship and training needs.

With the dedication and concerted efforts of the PMIJ board of executives, staff, chapter members and volunteers, I am confident that PMIJ will continue to rise to challenges ahead and nurture project management professionals for the globalized and knowledge-based economy of the 21st century. I also look forward to a continuing and fruitful relationship between PMI Japan and Hong Kong chapters for the years to come.

My warmest congratulations to PMIJ on celebrating this landmark 20th anniversary.



Rossana Ho

President,
PMI Hong Kong
Chapter

Enjoyed the Corporation and Support from PMI Japan

With great pleasure and respect, I on behalf of the PMI Mongolia Chapter extend the warmest congratulations and best wishes to you and dear colleagues of PMI Japan Chapter on the 20th anniversary of your Chapter! I am very thankful for friendly relation and cooperation between our Chapters promoting the shared principles and values of the PMI. The PMI Japan Chapter's wealth of leadership, experience, practice, wisdom is such an inspiration for PMI Mongolia to systematically advance the knowledge and practice of project management.

2018 also marks the 5th anniversary of PMI Mongolia Chapter and, ever since our establishment, PMI Mongolia Chapter enjoyed the cooperation and support from PMI Japan Chapter. We are very thankful for guest speakers from your chapter in our key events, and particularly grateful for pivotal mentorship and invaluable strategic advices of Mr. Hirotooshi Kamba since 2016. I am positive that we further strengthen and grow our friendly relationship through exchanges of project management practices and active involvement in PMI community engagements in years to come.

On behalf of PMI Mongolia, I happily share the joy and pride of PMI Japan's 20th Anniversary!

Sincerely,

President of PMI Mongolia Chapter, Mr. Battulga Norolkhoojav



**Battulga
Norolkhoojav**

President,
PMI Mongolia Chapter



Bob Chen

President,
PMI China

Continue To Collaborate with PMI Japan Chapter

Dear Okuzawa-San, members of PMI Japan Chapter, and all project management practitioners,

Congratulations to the 20th Anniversary of the foundation of PMI Japan Chapter! As the biggest chapter in Asia Pacific area, PMI Japan Chapter has earned its prestige among its peers through a manifest of competency by stable member growth and robust partnership with local organizations and thus is acknowledged as a de facto role model, which makes its 20th anniversary all the more a memorable milestone. PMI (China) and myself is honored to be a part to commemorate this historical moment, and cannot help feeling proud to have such a revered representation of PMI in Asia! More importantly, the development and longevity of the chapter has successfully showcased not only that project management is a proven enabler of organizations' survival and sustainable growth, but that being engaged in advancing the profession is both respectable and rewarding. PMI (China) is fortunate to witness and engage in all these along the way, and we will no doubt continue to collaborate with PMI Japan Chapter to bring value to both Japan and China as to Asia Pacific area.

The industriousness and pragmatism are widely acknowledged to be merits of Japanese People by the whole world, and that I believe is what brought PMI Japan Chapter to this far, and will continuously make it prosper. And this Commemorating Booklet will let the readers have a glimpse of all these appreciable activities and achievements. Join me in savoring this collection of endeavor and glory, and I encourage you to participate in this chapter now, because Good things will happen when you get involved with PMI.



**Alex Sander
M. Urbano**

President,
PMI São Paulo
Chapter, Brazil

Salute From the Other Side of Planet

On behalf of everyone here at PMI São Paulo Chapter Brazil, I would like to sincerely congratulate PMI Japan Chapter for the celebration of 20th Anniversary of its foundation.

We are on the other side of planet , but we share the same good values regarding professionalism, volunteerism and ethics. I should confess that I was not surprised by your success.

During the last two years I noted how bright this chapter is and how special are its leaders and volunteers. Combine those qualities with your relentless work ethic and commitment to quality service for its member, and it is obvious that you have a wide-open future ahead of you. I can only hope that Japan Chapter continues growing and delivering the best values to this amazing people from Japan.

On behalf of the management, staff and all members of PMI São Paulo I thank you for your inspirational work and salute the values and passion which motivate your commitment to community service.

I wish you all the best for the next 20 years future and endeavors, whatever they may be.

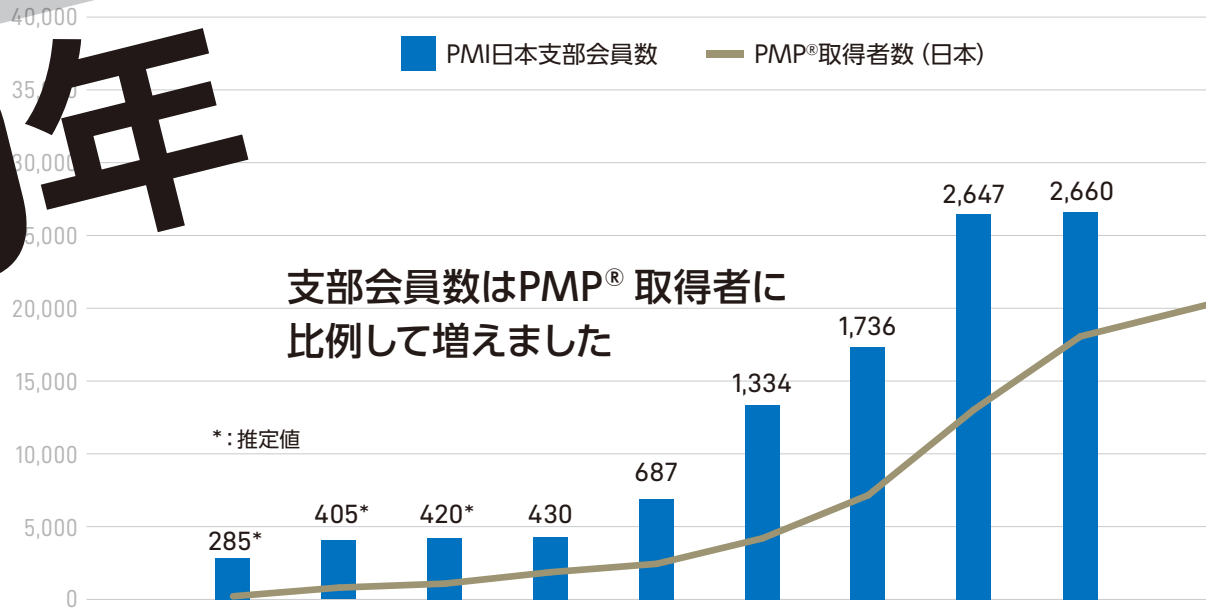
Yours sincerely, From the desk of: Alex Sander M. Urbano

1

第1章
20年の振り返り

PMI日本支部の

20年

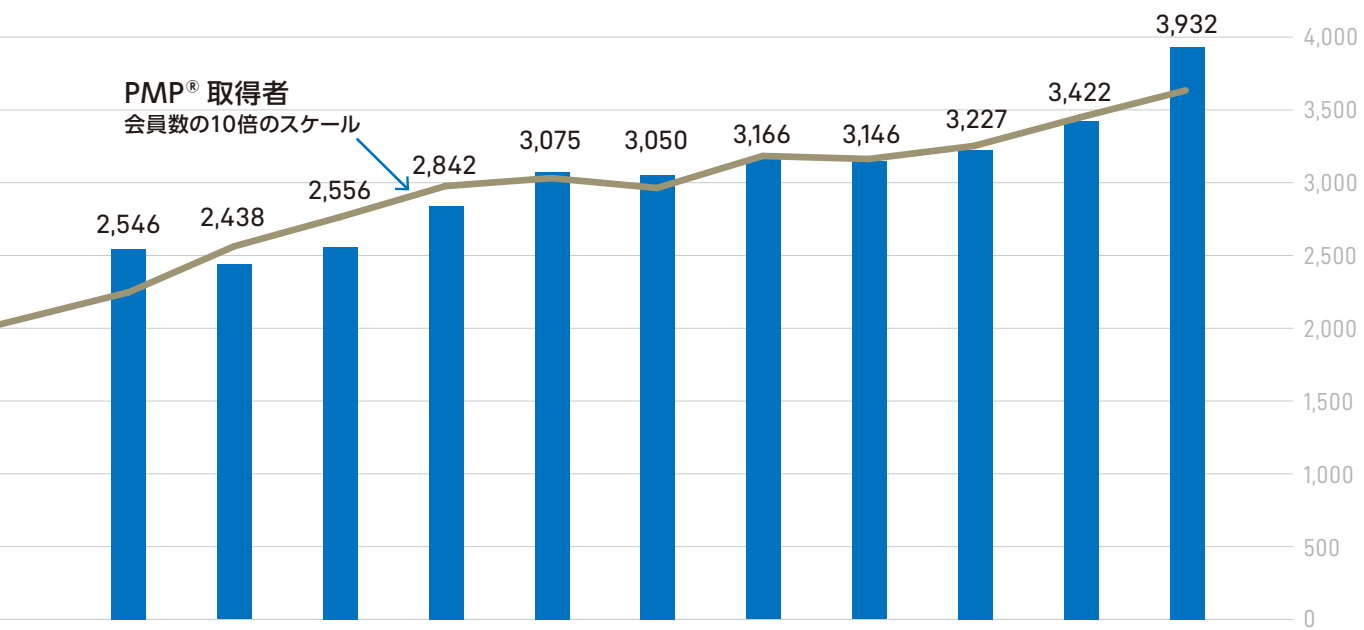


支部会員数はPMP®取得者に
比例して増えました

立上期

急成長期

	1969	...	97	98	99	2000	01	02	03	04	05	06
PMI日本支部				先端建設技術センター (ACTEC)に運営移管 PMI東京支部設立	建設省からの支援が決定	PMI-Tの存在意義をかけて PMI本部と交渉	ミッション委員会立上げ 経営理念を設定	PMI東京フォーラム開催 法人プログラム開始	PMBOK®ガイド2000出版	PMI功労賞を受賞	中間法人PMI東京支部発足 ACTECから独立	地域活動の展開を開始
プロジェクトマネジメント関係	PMI本部創立		エンジニアリング振興協会から PMBOK® Guide 1996 日本版刊行	日本プロジェクトマネジメント・ フォーラム(JPMF)設立	プロジェクトマネジメント学会 設立	PMBOK® Guide 2000 発行		プロジェクトマネジメント 資格認定センター(PMC) 設立		PMBOK® Guide 3rd Edition発行	日本プロジェクトマネジメント協会 (PMAJ)が発足	
世の中の動き			消費税が5%へ	建設省がプロジェクト マネジメント導入を発表		就職氷河期ピーク NHK「プロジェクトX」 放映開始	ITバブル崩壊			ライブドア旋風		



安定成長期

	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
	中期計画の策定	サマーフェスタ開催	一般社団法人PMP日本支部発足 関西地区(後にブランチ)設立	センタービル3階へオフィスを 移転	アカデミック・スポンサー制度を 開始	グローバルリーダー育成コース 開始	PMBOK®ガイド第5版 日本語版の翻訳・監訳活動	リージョン9各国との連携強化に 向けR9ミーティング開催	中部ブランチ発足 リーダーミーティング開催	機構改革ガバナンス強化 新入会オリエンテーション開始	PMBOK®ガイド第6版 日本語版の翻訳・監訳活動	創立20周年プログラム	
		PMBOK® Guide 4th Edition発行				PMBOK® Guide 5th Edition発行		PfMP/PMPBA資格開始	Business Analysis を基本標準に格上げ	PMTalent Triangle®制度開始	PMBOK® Guide 6th Edition発行		PMP本部創立50周年
	世界同時株安	リーマンショック発生			東日本大震災		アベノミクス効果で デフレ転換傾向へ	消費税が8%に			働き方改革 PMPが昇進・転職に役立つT 資格の第1位に(日経ITプロ調査)		

1997-1998

PMI東京支部発足

運営体制を確立し、
PMP受験対策セミナーやPMP試験を開始

主要活動		PMI本部動向	国内の動き	海外の動き
組織	PMI本部とCharter Agreement締結	<ul style="list-style-type: none"> PMICCP/SIGC会議 (支部長会議)、GPMF (年次フォーラム) を10月にロングビーチにて開催 	<ul style="list-style-type: none"> 長野オリンピック開催 明石海峡大橋開通 小淵首相就任 日本長期信用銀行、日本債券信用銀行破綻 Windows 98日本語版発売 初代iMac発売 	<ul style="list-style-type: none"> FIFAワールドカップフランス大会開催 ロシア財政危機
	西野弘氏を会長としてPMI東京が発足 (1998/1/16)			
	護国寺の財団法人先端建設技術センター内に事務局設置			
	山根孟氏を会長に選任 (1998/4/30)			
	会員総会、理事会、8部会による運営体制を確立			
その他	建設省がPM導入を発表 (1998/6)			
PMP試験	第1回PMP試験を東京、大阪で開催 (1998/11/17) 244名が受験、98名合格			
イベント	PMIの会議、シンポジウムを始め我が国の産業に対するPMの適用性を検討するため、欧州、米国調査を実施			
セミナー	第1回PMP受験対策セミナー実施 (1998/10/14)			
会員数	244名 (1998年10月末)			
PMP	資格取得者数 1997年末7名からスタート100名を超える			

会長挨拶 (ニューズレターVol.1より)

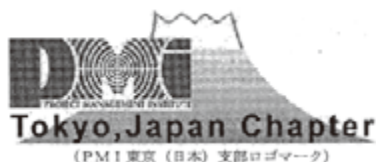
今年 (1998年) 1月から発足したPMI東京 (日本) 支部も、現在では会員数153人 (1998年8月時点) となり、建設業界をはじめ多くの企業から関心を持たれるようになってきております。アメリカ、カナダなどでは、既にPM (プロジェクトマネジメント) 手法が広く普及しており、この中で最小のコストで最大の効果をあげるPMの業務を遂行することができることと認定されたPMP (プロジェクトマネジメントプロフェッショナル) という資格保持者も高く評価されています。一方、日本では、PM手法の存在は知られているものの、PM事例は未だ少なく欧米に遅れをとっています。しかし、ISO9000シリーズ、ISO14000シリーズなどマネジメント規格の急速な普及を鑑みると、PM手法が評価されるのもそう遠くはない未来であると予想されます。

PMI東京 (日本) 支部は、PM手法に関する普及、情報提供、啓蒙と教育プログラム実施支援などの活動とともに、世界の動きを啓蒙すると同時に、伝統的な日本の組織構造、社会制度を踏まえたPM手法の開発にも力を注ぐため

発足されました。これからのPMI東京 (日本) 支部での活動がより充実したものになるよう、われわれのさらなる努力に加え、皆様のご支援、ご協力が得られることを心から願っています。 (PMI東京 (日本) 支部会長 山根 孟)

PMI東京支部 支部運営体制

支部活動計画、および運営体制が1998年5月29日に行われたPMI東京 (日本) 支部総会にて決定されました。



PMI支部設立の思い出

きっかけはビル・ゲイツ

PMI日本支部創立20周年、誠におめでとうございます。

歴代の会長、理事各位、また事務局の方々のこれまでのご尽力とご努力に改めて感謝と敬意を申し上げます。

私がPMIを日本に設立したきっかけは、実は偶然でした。

設立当時、私は42歳で、プロシードと言うコンサルティング会社の社長として活動しておりました。仕事の一環で、マイクロソフト日本法人の社長であった成毛眞氏に対して、政府関係や教育関係のアドバイスやプロジェクト推進を行っていたのですが、ある日、来日中だったマイクロソフト創業者のビル・ゲイツ氏とたまたまエレベーターに3人で乗り合わせました。ビル・ゲイツ氏と言えば「数字の天才」と言われていて、過去の経営情報等もつぶさに記憶していると聞いていたのですが、エレベーターの中でもゲイツ氏が成毛氏に矢継ぎ早に商品別の売上について質問し、これまた頭の切れる成毛氏がピンポンのように回答をしている現場を目の当たりにしました。ところが、ゲイツ氏の「MSプロジェクトは何故日本では売れないの?」という質問については、成毛氏は「よくわからない」と返答したのです。

私はその会話に興味を持ち、すぐに成毛氏に「プロジェクト」とはどういうソフトで、なぜ日本では売れないのかと聞いたところ、「プロジェクトマネジメントツールで、世界では売れているのに日本ではどうしても売れない。エクセルで良いと言われる」という返事でした。マーケティングの天才である成毛氏が「売れない理由がわからない」商品、なんて面白い!

米国と日本の差に愕然!

その後私はプロジェクトマネジメント(PM)について調査を始めたのですが、当時の日本にはプロジェクトマネジメント関係の本は80年代に出版されたものしかなかったため海外にも調査を挙げたところ、米国にPMIという組織があるのを見つけました。仕事上のつながりがあった米国の政府関係者や国防省でも情報を集めたところ、PMIとPMBOKという言葉がどこにでも出てきていることもわかりました。

ちょうどPMIの年次コンフェレンスがボストンで開催されることがわかったため、すぐに米国に飛び参加しました。日本からの参加者は非常に少なく、その当時PMIと提携していたエンジニアリング協会の方々などが来られているだけでした。

コンフェレンスに参加してまず驚いたのは、その規模の大きさに加え、多岐にわたる産業でPMの活用が大変活発に行われていることと、多くの学習プログラムがコンフェレンスに合わせて実施されていることでした。PMに関する広さと深さが日本とあまりに違うのと、これからますますPMの活用が拡大するであろうことが想像できるイベントであったことに大きなショックを受け、ITとマネジメントの融合をしていかないと、競争力が高まらないということをはっきり理解しました。

この時はPMI本部への再訪の約束を取り付けて、ボストンを後にしました。

帰国後、PMBOKやマネジメントを活用していくべきと、IT業界をはじめ色々な業界の方々に説明し、日本でのPMI設立

PMI東京支部創設者
初代会長
西野 弘



に向けて参加のお誘いをしたのですが、皆さまの答えは以下のようなものでした。

1. 日本のPMは相当レベルが高く、米国から学ぶべきことなどない。
2. 米国は人種やレベルもまちまちなのでマネジメントが必須だが、日本は人も真面目で能力も高く、出来上がるものの品質も高い。
3. PMBOKのような共通言語は必要なく、今のままで十分に戦える。

1998年当時はこのような状態でなかなか賛同が得られず、設立に必要な15名のメンバーを集める目途も立ちませんでした。とにかたく再度渡米して東部の田舎町にあった平屋の小さなPMI本部の事務所を訪問し、日本支部の設立について何とか協力を取り付け、PMI東京が誕生しました。

船出後もいつ漬れるかわからない!

設立後はPMBOKの試験の普及を試みましたが、日本語化や広報活動など大変な事も多く、マイクロソフト社の一部支援も仰ぎつつ、初年度は細々と活動しておりました。

節目が変わったのは翌年の事でした。当時の建設省(現国土交通省)が公共工事におけるPM成熟度を上げたいとの話があり、関連団体に調査と具体的な施策検討が求められた中で我々の活動が目にとまり、1999年に省として支援することになり、何とかPMI東京を継続できる資金と人材を得る事ができました。

その後2001年にオープンシステムでやってきたITバブルが弾け、私の所にPMについて話を聞きたいとの問い合わせが多く来ました。それをきっかけにPMはIT産業に浸透し、PMBOKの試験数も伸び始め、PMI東京は何とか活動基盤ができたのです。

その後は皆さまご存知の通り、多方面の産業界において認知度も上がり、3万人を超えるPMPも誕生しました。

今後のPMIへの期待

あれから20年、PMIの活動基盤はかなりしっかりしたものになり、PMPもIT業界では各社が取得を行う定番資格になりました。

PMの世界にも多くの革新や新たな手法が生まれ、今後ますます高度なPMの実践力が求められると思います。現状に甘んじ井の中の蛙にならないよう、世界をけん引するようなPMI日本支部にぜひ進化を遂げていていただきたいと思います。

20年前の設立時に私が聞かされた日本人の自己満足型PMに戻っていないか、日々問い続けていただきたいと思います。

1999-2000

運営体制の充実

PM用語英和対訳集他を翻訳出版、PMセミナー等のイベントを開始、推進するための部会が新設

主要活動		PMI本部動向	国内の動き	海外の動き
組織	支部総会開催 (1999/3/12)	<ul style="list-style-type: none"> 北米以外でもコンピューター試験へ移行 (2000/3以降) PMBOK® Guide 2nd Edition発行 (2000年) 世界でPMP取得者が25,000名突破 (2000年10月末) 	<ul style="list-style-type: none"> NTT分割 東邦生命破綻 ソニーAIBO発売 iモードブーム 三宅島全島噴火、避難 2,000円札、新500円硬貨発行 みずほフィナンシャルグループ発足 NHK「プロジェクトX～挑戦者たち～」放映開始 	<ul style="list-style-type: none"> 欧州通貨統合でユーロ誕生 ロシアでプーチン大統領誕生 シドニーオリンピック開催
	支部新ロゴ決定 (1999/9)			
	支部総会開催 (2000/1/27)			
	支部役員選挙、2000年、2001年体制として山根 孟会長以下総勢10名の理事が決定			
	ニューズレター1999年Vol.3～6、2000年Vol.7～10を発行			
新設部会	用語辞典編纂委員会			
	翻訳出版委員会			
	セミナー企画委員会			
	IT-SIG (IT研究会)			
	ML-SIG (組織成熟度研究会)			
PMP試験	1999年7月・11月、2000年3月・6月試験実施 2000年秋以降は随時試験に移行			
標準・出版	PM用語英和対訳集を発刊 (1999/10)			
	PM用語定義辞典 (2000/4)			
	建設プロジェクトマネジメントの基礎			
	プロジェクトにおける決定分析発刊			
イベント	「米国政府を中心とするプロジェクトマネジメント」講演会開催 (1999/2)			
	PMセミナー開催 (2000/4/4、8/31、11/6)			
セミナー	PMP受験対策セミナー1999年3回、2000年3回実施			
PMP	資格取得者数 1999年860名、2000年1,000名を超える			

PMI東京支部 新ロゴマーク

PMI本部の指示により、PMI支部ロゴマークを変更することになりました。本部の提唱としては下記左の四角枠の中に挿入する図により、支部の地域の特徴を象徴するもの（植物や地理的マーキングなど）を使用することです。PMI東京（日本）支部としては、日本を象徴する富士山と桜をあしらった図柄を採用し、右記のロゴマークとすることに決定しました。



PM用語英和対訳集、PM用語定義辞典

支部では、共通の認識のもとにプロジェクトマネジメントに関する業務を推進することを可能にし、プロジェクトマネジメントメソッドの発展に資することを目的として、PM関連資料の邦訳のベースとなる用語の日本語表現を

統一することにしました。その内容を盛り込んだ用語辞典を編纂するために用語辞典編纂委員会を設置し、プロジェクトマネジメント学会と協力して活動を進めてきました。このたびPM用語英和対訳集が完成、発行することになりましたので報告します。



PM用語英和対訳集

PM用語定義辞典はPM特有の用語をPMIの出版物から抜粋し、その定義を英語と日本語で対比して掲載しました。PMを初めて学ぶ人はもとより、PMの専門家や研究者にも座右の銘として役立つものです。



PM用語定義辞典

PMI日本支部の黎明期におけるあれこれ

PMI東京(日本)支部(PMIT)として立ち上がってから20年という年月を経過したわけですが、すでに社会的に重要な役割を果たしていた先達にとっては、その人生に大きな影響を与えるに十分な年月だと思われます。現PMI日本支部(PMIJ)の黎明期に会長を務めた山根 孟氏もその一人です。氏は本州四国連絡橋公団の総裁を務めた後、建設省の外郭団体である財団法人先端建設技術センター(ACTEC)の理事長を務める傍ら、1998年5月から2期にわたりPMIJの会長を務めています。その折に、私はプロジェクトマネジメント(PM)の専門家として1999年10月からACTECにお世話になり、PMITの事務局長としての仕事を始めました。

ご承知の通り、PMITは西野 弘氏が主導して1998年1月16日にPMI本部から支部としての認証を受けて設立されました。当初の会員数は26名となっています。

一方、当時の建設省(現、国土交通省)は、その公共事業について「良質なモノを低廉な価格でタイムリーに調達し、提供すること」が求められていました。そこで、品質や環境に関わるISOよりも広範な対象を扱い、海外でその効用が認められていたプロジェクトマネジメントの可能性に着目しました。ACTECは、建設省関連のISOに取り組んできた経緯からPMに関わる役割も担うことになり、そのベースとしてPMIにPMの知財や情報を求めることにしました。

そのような状況のもとに両者が出合い、ACTECがPMITの運営を担うことになりました。1998年4月30日の支部理事会においてPMITをACTECに移管することを決議し、事務所をACTEC内に移しました。立ち上げに当たっては水谷 敏則理事を中心に建設省を始めとし、主に建設業界の関係者のヒアリングと協議を経て、5月29日の総会において正式にPMITを引き取りました。この時点の会員数は、建設関係者を中心に56名に達しました。

新生のPMITはその運営を始めるに当たって、最初にPMIとの関係についてPMIと協議を開始しました。それらは、領域内のPMP試験の実施権、PMI発行文書の翻訳権、PMITの対象領域を1都3県とするなどです。後に、「支部以外の他のPM団体とPMIとの関係」という課題も加わりました。これらの事項をめぐって、後に、PMITはその存在意義をめぐってPMIとのハードな交渉をすることになります。

1998年9月にはニュースレター第1号が発刊されました。それによると会員数は153名となり、PMITとして掲げた目標は、PM手法に関する普及および情報提供、PMの啓蒙と教育のプログラムの実施支援、世界の動きの啓蒙、日本に適したPMの開発等が述べられています。

1999年に至って事業計画に基づき実施した活動は、

第二代会長
山根 孟



PMP受験対策セミナー、PMP試験、翻訳出版、海外PM動向調査などです。同年3月の会員数は311名となっています。

一方、PMI本部は1995年頃から急激に発展を始め、その規模が大きくなったことから法人化を進めることになり、その一環として支部にも法人格を取得することを求められました。しかし、PMITはこれまで日本におけるPMIの支部として活動において実績を挙げてきたにも拘わらず、支部としての妥当な取扱いをされていないとの認識を持っていました。この法人化の要求をきっかけに、PMITを存続する意義を問い直すことになりました。8月時点での会員数は398名になっています。

2000年の3月からコンピューターによる試験に切り換わりました。これまで多数の受験者を対象にPMP試験を実施してきましたが、この変更によりPMITの日本における求心力が大幅に低下する事態になりました。さらに日本におけるPMの知見を広めるために必要なPMI図書の日語版の作成も、著作権の交渉がスムーズに進まない状況にありました。

その折、PMI執行役員は、PMIと支部の関係を公式に規定したこと、それには支部も法人化することが必須条件であるとして法人化を求めてきました。同時に、PMIと外部のPM団体との提携関係についても協業する規定を設けたとの通知もありました。実際に、PMITに何の通告もなく、PMIは日本における他のPM団体との提携活動を行っていました。PMITが求めたPMBOK®ガイド2000年版の翻訳についても、必ずしもPMITに委託するわけではないとのスタンスでした。

こうした状況を受けて、PMIとPMITの存在意義をめぐって交渉を開始すると同時に、当面の課題とPMITの将来の展開を見据えたベースとなる経営理念を設定することにしました。そこで、2001年3月7日にミッション委員会を立ち上げ、ミッション委員会は12回にわたる集中した討議を行い、年末にその成果物を理事会に報告しました。その後、ミッション委員会の成果を基にコーポレート・プランを作成し、活動の逐次パフォーマンスの評価を行いました。こうしてPMITはミッションの実現に向けた活動を実践する基盤を整えることができました。

2001年12月、任期2年の規定に従って山根 孟会長はPMITを退任しました。

清水 計雄(初代事務局長)

2001-2002

運営体制の充実継続

7委員会・4研究会・8プロジェクト(検討中を含む)で業務運営を行うため
ボランティアを募集、法人プログラム新設、PMI東京フォーラム開催

	主要活動	PMI本部動向	国内の動き	海外の動き
組織	第4回支部総会開催(2001/1/25) 第5回支部総会開催(2002/1/25) 法人プログラム開始(2002/7) 2002年～2003年新体制、瀬尾 恵氏が会長に就任、7委員会・4研究会・8プロジェクト(検討中を含む)で業務運営を行うためボランティアを募集 ニュースレター2001年4回、2002年4回発行 ホームページの刷新と活用(2003/1移行)	<ul style="list-style-type: none"> ・PDUのオンライン申請開始(2002/1) ・PMP試験制度変更(2002/4/3) ・CAPM(Certified Associate in Project Management)、特定分野資格(CAQ)自動車、IT、PMOの認定制度開始 ・プロジェクトマネジャー・コンピテンシー開発体系(PMCDF)発刊 ・政府PMBOK®ガイド拡張版発刊 ・WBS実務標準発刊 ・PMI会員7万人突破(2001/1)、9万人突破(2002/9) 	<ul style="list-style-type: none"> ・小泉内閣発足 ・JR東日本「Suica」登場 ・ディズニーマー、ユニバーサルスタジオ・ジャパン開園 ・住民基本台帳ネットワーク稼働 ・UFJ銀行誕生 ・小柴昌俊氏、田中耕一氏ノーベル賞受賞 ・ITバブル崩壊 	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ同時多発テロ勃発 ・ソルトレークシティ五輪開催 ・2002年FIFAワールドカップ開催
新設部会	ミッション委員会 認定委員会 教育委員会 情報・宣伝委員会 組織成熟度研究会			
イベント	PMI理事ウィルソン氏を迎え、講演会、PMI東京フォーラムを開催(世界におけるプロジェクトマネジメントの現状と将来)(2001/6/25-26) PMI東京フォーラム開催(2002/11/19) ミッション委員会が初の会員アンケートを実施 スポンサー支援活動を4回開催			
セミナー	PMP受験対策セミナー2001年5回、2002年3回実施 PMP受験対策セミナー、PMの基本とその構成を3回、IT技術者PM養成講座5回を開催			
会員数	2001年末430名、2002年末687名			
PMP	資格取得者数 2001年度1,773名、2002年度2,362名			

PMI東京支部のミッション

PMI東京支部(PMIT)は昨年(2001年)1年間をかけてPMITのミッションを検討しました。内容の一部を報告します。

1. PMITのミッション

世界標準の適用基盤を整備し、その知識とスキルの開発と活用を推進することで、個人および組織のマネジメント能力を高め、持続的な社会の発展に貢献する。

2. PMITは次の目標を実現する

A. 世界に開かれた日本における窓口としての機能を維持し、広くプロジェクトマネジメントおよびその職能の発展に貢献する。

B. PMITはPMIの支部の機能を果たすと共に、PMを実践する日本の産業界全般を対象にした活動を行う組織を目指す。

C. 非営利活動法人としての性格を持つ法人として、自立した活動を行うことを目指す。

3. 今後の組織

PMITの組織体制を上記の目標を実現するための体制へと変革する。

A. 広範な産業に開かれた体制

B. 理事を中心にした活動体制

C. 活発なボランティアによる活動の基盤となる体制

PMITにおける10年間のあれこれ

私はスリランカの科ロンボ港の再開業事業にコンサルタントとして14年間勤めました。それから縁あって先端建設技術センターに勤務することになり、1999年10月1日から事務局長としてPMI東京（日本）支部（PMIT）の活動を始め、約10年にわたってPMIT/PMIJに関わってきました。その頃の記憶に残る出来事について書き出します。

当時、PMITは世界的なPMの動向を把握するとともに、PMP関連の活動を通してPMITの評価を高め、PMIの標準やその他の図書などを基にした活動によりPMITの展開を図ることが基本的な戦略でした。多くのボランティアの活動に支えられた活動の結果、2003年6月11日に会員数は1,000名に達し、1,000人目の入会者の表彰を行いました。その後、2005年6月13日に会員数は2,000名に達しています。

PMP試験

私が事務局長としてPMITに勤務を始めてから2カ月目位で、PMP試験を実施している時にいきなりトラブルに見舞われました。当時のPMP試験では試験の実務をPMITが担当し、試験問題はPMIから委託を受けた大学が用意する役割でした。一つの会場に330名もの受験者が着席し試験開始を告げたところ、18名の日本人受験者に配られた試験問題が英語版であることが判明しました。そこで全員に問題用紙を裏返しに戻して退場してもらい、試験問題を急遽コピーして配布した後に試験を再開しました。

PMITの存在理由

私が体験した2番目のトラブルはPMITの存在意義を問うという大変深刻な問題でした。2000年10月当時、PMITは次のように認識していました。

- PMIは支部との関係を自立した組織同士の関係とする方針を打ち出し、すべての支部に法人化を求めてきた。
- PMBOK®2000の翻訳はPMI自身が行うとの方針が出された。PMITは日本における唯一の支部であることから、当然のこととしてPMBOK®ガイド2000の翻訳を行うことを想定して動いていたが、この通知を受けて活動を中止させた。
- PMI図書の翻訳について、翻訳の許可を求めても前向きな反応が得られなかった。
- 2000年3月にコンピューター試験が導入され、PMP試験はPMITの手から離れた。

特に、PMITはPMBOK®2000年版の翻訳を行う旨を申し入れたにも拘わらず、PMIはPMITの領域内で競合する他の団体へ委託する可能性があることを示唆し、その帰趨をめぐってPMIと合意できませんでした。

次のような認識の下に、PMITの存在意義を改めて問い質すことにしました。

1. PMP試験がコンピューター化され、PMITの関与が外れ、求心力が低下する。
2. PMIと外部団体との提携により、領域内の団体と競合する関係が生じる。
3. PMIの知的資産であるPMI文書の翻訳出版が進まず、知的資産の利用が滞る。
4. PMBOK®2000の翻訳をPMITが実施できるかは不明である。
5. 会員数は400名で頭打ちの状態になっている。求心力や会員サービスの低下は将来の展開に致命的である。

この現状を打破するために、一つはPMIと交渉して事態を開閉すること、いま一つはPMITの経営理念を確立することにしました。

PMITの深刻な事態を打破するために交渉を申し入れ、オランダにて開催しているPMI国際大会の会場にてPMIの執行役員、コ

初代事務局長
清水 計雄



ンポーネント部長、資格部長との交渉に臨みました。そこで、PMITには支部である存在意義が失われている状況や、万一PMBOK®ガイド2000年版の翻訳をPMITが実施できないような場合、PMITは支部を返上することになると伝えました。

それに対し、PMIからはPMBOK®ガイド2000の翻訳については提案依頼書を発行する、それを基にプロポーザルを提出すれば公平に審査するとの方針を示したに過ぎませんでした。

その後、PMIから提案依頼書（RFP）が送られてきました。PMITの存続はプロポーザルにかけられなかったのが相当なプレッシャーを感じましたが、幸いにも、当方のプロポーザルが採用され、支部の返上までには至りませんでした。

経営理念については、3月にミッション委員会を立上げ、PMITのミッション、戦略の見直しを鋭意行いました。2001年末にはミッション委員会の成果を理事会に報告しました。

PMBOK®ガイド第3版翻訳プロジェクト

3番目の挑戦はPMBOK®ガイド第3版を翻訳するプロジェクトでした。PMIの理事会は10月に開催するPMI北米大会に間に合わせてPMBOK®ガイドの外国語版を発刊することをいきなり決定し、9月末までに翻訳を完了するように通告してきました。しかも、PMBOK®ガイドの全文を渡すのではなく、完成した部分を2004年7月末から順次提供するというものでした。翻訳の期間は正味2か月弱しかありません。数々の葛藤はありましたが、PMITのチームはもの見事にこの制約条件をクリアしました。

PMIの功労賞

私は2004年10月にアナハイムにて開催されたPMI国際大会において「PMI功労賞」を受賞しました。これは、PMBOK®ガイドの日本語への翻訳をリードし、図書販売を通して日本におけるPM標準を普及したことが評価されたとのことでした。

日本語版PM図書の出版

PMITの活動はPMIの知的資産を活用することをベースにしています。よって、日本語のPM標準やPM図書を作成することが欠かせませんでした。

翻訳した図書には次のようなものがあります。

組織的プロジェクトマネジメント成熟度モデル、ポートフォリオマネジメント標準、プログラムマネジメント標準、PMBOK®ガイド（2000年版、バージョン3と4）、アード・バリュー・実務標準、アード・バリューによるプロジェクトマネジメント、PMP教科書、PMツールボックス

PMITの法人化

PMITは事業規模が大きくなるに伴い法人化の模索を始めました。最初に任意法人として発足した後NPO法人を模索しましたが、制度上実現できないことが分かり、中間法人、一般社団法人へと変遷して行きました。

PMITの独立

山根会長がACTECを退任後、PMITはACTECから独立することを求められました。2005年3月末には5,500万円の基金をもって東京・水天宮に新しい事務所を構え、PMITは独立を果たしました。私は同時にACTECを退職し、常勤の理事として務め、2009年末にPMITにおけるサービスを終了しました。

2003

法人化の検討、事務局体制、
教育体制の充実に取り組む

会員数1,000名突破、PMBOK®2000出版

主要活動		PMI本部動向	国内の動き	海外の動き
組織	法人化を理事会で決定	<ul style="list-style-type: none"> PMI Global Congress 2003 (9/20-22) メリーランド州ボルチモア 組織的プロジェクトマネジメント成熟度モデル(OPM3)を発刊(12月) 建設PMBOK®ガイド拡張版発刊 	<ul style="list-style-type: none"> 郵政事業庁が日本郵政公社に オレオレ詐欺横行 六本木ヒルズオープン 地上デジタルテレビ放送東京、名古屋、大阪で開始 宇宙探査機「はやぶさ」が打上げ 	<ul style="list-style-type: none"> スペースシャトル・コロンビア地球帰還の際空中分解 イラク戦争開戦 サダム・フセイン政権崩壊 SARS世界的大流行
	事務局業務体制強化に向けた取り組み			
PMI東京会員数1,000名突破、1,000人目の会員に記念品贈呈				
新設部会	認定委員会			
	PMBOK®2000インストラクタープロジェクト			
	PMP教科書インストラクタープロジェクト			
	未来へのPM(少年・少女のPM教育)			
標準・出版	PMBOK委員会			
	PMP教科書出版(2月)			
	PMBOK®2000出版(4月)			
イベント	PMITオリジナル下敷き制作(11月)			
	PMBOK®2000出版記念セミナー(4/24)			
	ジョン・パットン氏講演会(5/14)			
	第1回PMI-CPMカンファレンス(EVMを使った調達マネジメントの研修コース)を開催(10/27-29)			
セミナー	PMI東京フォーラム2003(テーマ:PMによる組織変革と組織成熟度モデル)開催(11/15、17)			
	PMP講座(翔泳社共催)6回開催(5月以降)			
会員数	PMP受験対策セミナー、IT技術者PM養成講座継続開催を研修期間と共催で開催			
	1,334名			
PMP	資格取得者数 4,116名			

PMBOK®ガイド2000年版発行

この度、PMI東京(日本)支部のPMBOK®2000翻訳プロジェクト・チームは、プロジェクトマネジメント協会(PMI)からの委託により、PMBOK®ガイド2000年版を日本語に翻訳しました。本書はその成果を基にして、PMIから公式版として出版されました。

PMBOK®基礎知識体系2000年版翻訳にあたって、次の基本的な方針を基に翻訳を実施しました。

1. 原文に忠実な文章とする
2. 意味が理解できる文章とする
3. 日本語として読みやすい文章とする
4. 統一した用語を用いる

本書の翻訳には多くの有志がボランティアとして参加しました。翻訳の質を確保するため、PMIから正式に翻訳業務の委託を受ける以前から、多数のボランティアにより翻訳に着手しました。PMIから翻訳業務の委託を受けた後、25名のメンバーにより本格的な翻訳作業を開始しました。メンバーは翻訳者、校訂者、用語管理者、コアメンバー、リーダー等の役割をそれぞれ分担し、作業を進めるに従って順次集約を行い、最終的にPMBOK®ガイド全体を通して見直し、統一の取れた文章として行きました。(PMBOK®ガイド2000年版の序文「日本語版の翻訳にあたって」より)



PMBOK®2000セミナー

PMBOK®2000ガイドの翻訳版の出版に伴い、PMBOKインストラクター・プロジェクトの有志により、4月24日、NTT研修センターにおいてPMBOK®2000に関するセミナーを開催、64名の参加者がありました。PMP受験を目指す方、PMBOK®1996との違いを知りたい方などさまざまでしたが、みな真剣に講師の一語一句に聞き入っていました。

プロジェクトでは8名の委員が参加し、5つのパートに分かれ、各パートと全体のリハーサルを繰り返し、万全の準備を行いました。

PMI東京(日本支部)会員数 1,000名突破!

2003年6月10日、PMI東京(日本)の会員数は1,000名を超えました。7月8日、瀬尾 恵理事から1,000人目の会員への記念品贈呈が実施されました。1,000人目の会員は日本ヒューレット・パッカード株式会社にお勤めの国谷政廣さんです。



記念品贈呈

第1回 PMI-CPMカンファレンス

10月27～29日、六本木ヒルズにて「第1回 PMI-CPMカンファレンス」が開催されました。PM東京(日本)支部も共催という形で参加させていただきました。今回のカンファレンスは、CPM(パフォーマンス・マネジメント・カレッジ)にとって「EVMを使ったプロジェクトマネジメント手法」を初

めて米国以外で紹介した本格的な教育研修プログラムであったこともあり、200余名の参加者を得て、成功裏に終了しました。



カンファレンス

「PMP教科書」メンタープログラム

2003年2月に発売された「PMP教科書」をテキストに、メンター(指導者)・メンティー(学習者)計27名の参画を得て、12週にわたり、メンタープログラムが実施されました。メンタープログラムとは、メンティーがメンターの知識や経験を活用することで、互いにプロフェッショナルとして啓発しあうプログラムです。

今回のメンタープログラムでは、PMP教科書第1章の「プロジェクトとは?」から第12章の「プロフェッショナル責任」まで、IT、建設、銀行、メーカー等、業種を超えての勉強会は、時には週末、時にはお酒の席にまで持ち込まれ、大変意義深いものでした。「同じ目的を持つ人と知り合えたこと」「1章1章、じっくりディスカッションを重ね理解が深めることができた」「今後、実際の業務を行う上で自信が持てる」(参加者のアンケートより)など、プロとしての能力を啓発するという目的を十分に達成できた内容でした。

毎週、ボランティアという立場にも拘わらず、惜しみなく知識や技量をさずけていただいたメンターの方々、本当にありがとうございました。



メンタープログラム

設立当時の思い出

「お前が行って、当社の赤字プロジェクトが一つでも減れば儲けものだ、すぐにでも行ってこい」の社長の一言で、私のPMI東京支部(以下PMITと記述)への出向が決まりました。2003年2月のことです。

当時PMITは先端建設技術センター(ACTEC)に間借りをしていました。スペースには机2つ、清水事務局長と、事務の山田さんの2名分の席があるだけで、大久保理事、田中洋一郎および池田さん(同じく出向)は近くの民間1DKマンションが仕事場でした。事務局長との打合せはACTECで行い、理事会は日本アイ・ビー・エム様の会議室をお借りするなど、非常に慌ただしい生活をしていました。

ACTECは先端的な建設技術の調査研究、開発および普及に注力しており、海外案件のプロジェクトマネジメント

事務局
田中 洋一郎



についても研究されていました。何度か成果発表会にも参加させていただきました。

残念ながら当時は建設業界でPMBOK®が普及することはありませんでした。しかしながら最近途上国の社会インフラ(鉄道、道路、電力、上下水道等)の建設&保守で、日本のシステムが見直されていると聞いています。今度こそ社会インフラの分野でPMBOK®が普及すると期待しています。

2004

法人化の具体化、
月例セミナーを開始

事務局体制が充実し、現在の支部体制の原型が確立

主要活動		PMI本部動向	国内の動き	海外の動き
組織	法人化に向けた具体的作業開始 事務局体制2名から5名へ池田将明氏、田中洋一郎氏が参画	<ul style="list-style-type: none"> PMI LIM、Global Congress カリフォルニア州アナハイムで開催(10/21-26) 12月PMBOK®ガイド第3版 発刊(翻訳作業に着手) 	<ul style="list-style-type: none"> 新潟県中越地震 鳥インフルエンザ流行 新紙幣発行 ニンテンドーDSとプレイステーション・ポータブル発売 iPod mini発売 	<ul style="list-style-type: none"> アテネ五輪開催 スペインマドリード列車爆破同時多発テロ ブッシュ大統領再選 インドネシアスマトラ沖地震
	第1回部会連絡会開催(6月) 顕著なサービス提供、会員獲得、PMBOK®ガイドの翻訳・販売により、清水事務局長がPMI特別功労賞を受賞			
新設部会	ステークホルダー委員会			
	国際委員会			
	EVM研究会			
	ITPM翻訳プロジェクト			
標準・出版	アーンド・バリューによるプロジェクトマネジメント第2版			
	PMP教科書問題集			
	PMP教科書直前対策			
イベント	CPMジャパンカンファレンス(9/8-9)			
	PMI東京フォーラム(テーマ:組織とプロジェクトマネジメント)開催(11/29-30)			
セミナー	セミナー委員会企画による月例セミナー開催(5月以降)			
	OPM3とは何か、どうなるのかをテーマにセミナー開催(10月、11月)			
会員数	1,800名超			
PMP	資格取得者数 6,500名超			

PMI特別功労賞—清水事務局長が受賞

米国カリフォルニア州アナハイムにて開催された2004年PMIグローバル・コンGRESSにおいて、清水事務局長はPMIの特別功労賞(Distinguished Contribution Award)を受賞しました。特別功労賞とはPMの専門分野およびPMIの発展に寄与した個人を認定し、表彰するもの。

清水事務局長は次の点が評価されて表彰されました。

- PMIおよびPMの専門分野へおける顕著なサービスを提供することによる貢献。
- PMI東京(日本)支部が1,400人を超える会員数を抱える支部に発展した原動力となったこと。
- PMBOK®ガイドの翻訳作業の受注、翻訳および販売を通して、日本の読者がPMBOK®ガイドに接する機会を作り、PMPおよびPMIの認知度を高めたこと。



PMI特別功労賞受賞

多くの支援者に支えられて

PMI日本支部の設立20周年、おめでとうございます。2000年から支部の会長を6年間勤めましたが、今日の日本支部の盛況を目にして、支部の立ち上げと変革を支えた多くの支援者の努力が報いられたことは、大きな喜びです。当時の状況を皆様にお伝えし、20周年を共に祝いたいと思います。

PMI東京支部は、初代会長の西野様のご尽力と先端建設技術センター（以下、ACTEC）の方々の強力なご支援の元、1998年に発足しました。事務局は、東京都文京区のACTEC内に設置されました。まだ、PMP試験が紙で行われていた時代で、理事と事務局の方々が、会場の設営から試験問題の配布まで、全てを行っていました。東京支部は、山根会長、水谷理事、そして清水様他ACTECのスタッフの方々のご支援に支えられてスタートしたわけです。

支部変革の第一段階は、“**支部の独立**”でした。いつまでもACTECの皆様の好意に甘えているわけには行きません。自立するためには、活動拠点となる事務所の開設、財務基盤の確立、そして支部ガバナンス体制の整備が急務でした。まずは、何をにおいても拠点となる事務所を確保することでした。ACTECに近い文京区大塚のマンションの一室を仮事務所としました。この時、ご尽力されたのが、大久保理事（故人）でした。物件探し、事務所の整備を殆ど一人で行われました。約1年後に仮事務所から箱崎の猪子ビルへ事務所を移転しました。財務基盤を強化することも急務でした。会費だけでは経費の2割弱しか賅えません。そこで法人スポンサー制度を創設しました。スポンサー企業の勧誘のため、趣意書の作成や封筒詰めなど、現業を抱えながら業後に慣れない作業に奮闘している様子を事務局の方がご覧になられて「支部が独立するところなのですね」としみじみ申されていたのが思い出されます。ご理解をいただいた多くの経営者の方々のご支援のもと、法人スポンサープログラムも順調に滑り出しました。また、任意団体ではありますが、従業員を抱えるわけですから、ガバナンス体制の整備も急務でした。“定款”、“支部規約”に加え、“就業規則”他、各種の規程を整備しました。

支部変革の第二段階は、“**支部活動の充実**”でした。主な変革は、法人化、各種部会の創設、事業の計画サイクル確立、主要標準の翻訳、出版、フォーラム、セミナーの充実、支部名称の変更、ランチモデルへの移行、事務局の増強、PMI本部との関係強化などでした。ここでは、そのいくつかを紹介しましょう。

まず、**支部の法人化**です。PMIは、グローバルな急成長に対応するため、2000年、全支部に対して2～3年以内に法

第三代会長
瀬尾 恵



人化することを義務付けました。つまり法人化しない限り、支部として認めないというわけです。PMIは、各国の法人法に基づいたガバナンスに準拠させることにより、各支部の事業運営品質の向上を図ったわけです。PMI自身は、ペンシルベニア州の法律に基づいた“NPO”ですから、当然、東京支部も本来の組織性格に合わせ、“NPO”にすべきものと考えましたが、これには乗り越えられない壁がありました。つまり、日本のNPO法とPMI本部のルールの方を満たすことができませんでした。日本のNPO法は、市民活動に根ざした法律ですから、他からのコントロールを受けることを嫌います。まず、名称の一部に“支部”が入っていることが許されません。支部であることは、コントロールする本部があるはず、との発想です。また、会費の徴収がPMI（米国組織）であることも自立が保てないとの理由で認可の阻害要因でした。やむなく、当時の中間法人法に基づいて2005年に法人格を得ました。

4年後に中間法人法の廃止に伴い、現在の一般社団法人に変更し、同時に名称をPMI日本支部に改名しました。

次に紹介するのは、**各種部会の創設**です。中期計画の策定・モニタリングの役割を担うミッション委員会では、100頁近い中期計画をまとめ上げられた渡辺（善子）理事のご活躍は、めざましいものでした。教育委員会の設立にあたっては、北海道大学の本間教授の絶大なご支援をいただきました。主要標準の翻訳では、清水事務局長のご努力は、忘れられないものでした。特にPMBOK®日本語訳は、その後の支部の主要な資金源にもなり、支部活動の礎となりました。

その他、世界に先駆けて（4番目位）のランチモデルへの移行では、最初のランチとなった関西を支えてくださった橋本様、浦田様、超多忙な事務局を支えられた永谷事務局長、伊藤様をはじめとするスタッフの方々などなど、支部の変革は、多くのリーダーの方々の献身的なご努力により行われました。他にも、紹介しなければならぬ多くの方々がいっぱいいますが、誌面の都合上、かないません。ご容赦願えればと存じます。

設立20周年を迎え、支部の変革を担われた多くのボランティア・リーダーと事務局の方々に改めて感謝申し上げますと共に、PMI日本支部の今後一層のご発展をお祈りします。

2005

支部活動の急速な広がりの中、2005年度はPMI東京支部にとって大変意義のある1年となった。

- PMI東京支部の法人化
- 新PMI東京事務所の開設
- 新事務所体制の強化

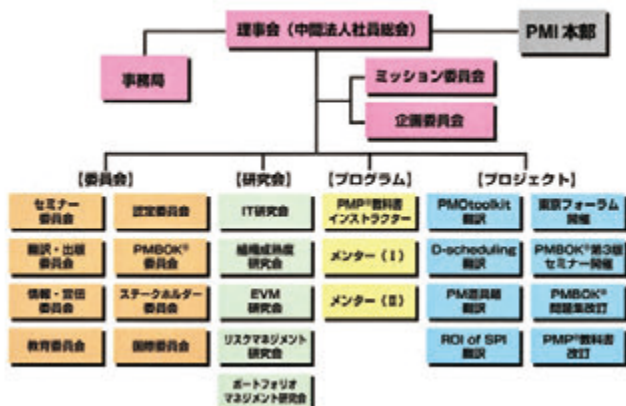
中間法人 PMI東京支部発足

	主要活動	PMI本部動向	国内の動き	海外の動き
組織	有限責任中間法人化(3/9) NPO法人PMI東京(日本)支部から、中間法人PMI東京支部へ 新PMI東京支部事務所(箱崎)の設置(1月) 護国寺の財団法人先端建設技術センターから移転 新事務所体制の構築 PMI本部とCharter Agreement締結	<ul style="list-style-type: none"> ・アジア初のGlobal Congressをシンガポールで開催 ・米国外では、ヨーロッパに引き続きシンガポールにサービスセンターを開設 ・北京にPMI事務所を設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・小泉首相の郵政解散 ・個人情報保護法全面施行 ・クールビズ開始 ・iPod/iTunes登場 ・宇宙探査機「はやぶさ」が小惑星イトカワに着陸 	<ul style="list-style-type: none"> ・米国南部に過去最大級のハリケーン「カトリーナ」上陸 ・京都議定書発効
新設部会	教育委員会 リスクマネジメント研究会 ポートフォリオマネジメント研究会			
標準・出版	PMBOK®第3版(日本語版ハードコピー)発刊(2月) プロジェクトマネジメントオフィス・ツールキット PMP教科書(PMBOK®ガイド第3版対応) PMP問題集(PMBOK®ガイド第3版対応)			
イベント	東京支部設立記念セミナー開催(5/31)			
セミナー	PMI東京フォーラム2005(組織とプロジェクトマネジメント)(11/4-5)			
会員数	2,600名超(全世界の支部で9番目、北米以外ではUK支部に続き2番目)			
PMP	資格取得者数 13,000名弱(対前年度比72%増)			

部会活動

PMI東京支部会員の増加と共に、会員による自主的なボランティア活動を基盤とする部会活動も活発化。8つの委員会、5つの研究会、3つのプログラム、8つのプロジェクト

■ PMI東京支部組織図(2005年12月現在)



トに約500人の会員が参加し、自己研鑽と共に他の会員に質の高いサービスを提供いたしました。

課題としては会議形式での活動が多いため、首都圏の会員の参加が中心となる傾向がありました。今後はインターネットなどによるEミーティング等の方法を検討することで、さらに広い地域からの会員参加が期待されます。

PMI東京支部会員数が2,500名を突破

8月にPMI東京支部の会員数が2,500名を越えました。1998年1月の発足以来、会員は増加の一途を辿っています。2,500番目の会員となられたのは、日本総合研究所にお勤めの酒井栄一さんです。



有限責任中間法人化

2004年度に紆余曲折のあった法人化も、有限責任中間法人という法人格で明確になり、また新事務所も昨年中に契約が出来たので、2005年度は法人化および新事務所への移転に向けて下記のような具体的活動を行いました。

- 1) 年初に創設以来お世話になった護国寺の財団法人先端技術研究センターの事務所から、水天宮の新事務所へ事務局を移転しました。
- 2) 法人化に関し、登記関係、規約・細則、拠出基金、税務処理、旧団体の清算、事務局体制などを整理し、設立の準備を進めました。
- 3) 3月9日、「有限責任中間法人PMI東京支部」の登記を行い、ここに法人化は終了しました。
- 4) その後、旧任意団体の残務整理(税金関係など)、新法人の拠出基金の増加、事務局体制確立、PMIとのCharter Agreementの締結などを行い、8月、その任務終了と共に法人化推進委員会は解散しました。

PMI東京支部設立記念セミナー

5月31日にPMI東京支部の法人化を記念して、設立記念セミナーを実施しました。

プロジェクトマネジメントを実践する会社のエグゼクティブの方々、国土交通省、総務省、経済産業省および文部科学省の方々をはじめ、360名の方々のご出席を得て成功裏

に開催されました。PMI本部からはイアン・フレーザー副会長(翌年会長に就任)もご出席され、ゲストスピーチをいただきました。

PMBOK®第3版の出荷

従来のPMBOK®2000版を更改し、新たに、第3版として、全世界で9カ国語に翻訳され同時発表されました。日本語版の作成にあたっては、記録的とも言える短い期間にPMBOK委員会の方々の努力のもと、翻訳されました。2000年の日本語版出荷から合計35,000部のPMBOK®日本語版が出荷されました。



計画的偶発性理論による交流

PMP資格を取得したのが2001年9月。すぐにPMI日本支部(当時は東京支部)の会員になりました。直後からPMPQ調査チームでの活動、翔泳社のPMP試験対策プログラムへの参加、そして2003年のPMI東京フォーラム開催に向けた対応も積極的に行いました。

現在、法政大学で現役教員を続けることができていることのきっかけは、教育委員会への参画です。北海道の大学向けに、産業界から実務家委員が集まり、田町CICから遠



教育委員会後の懇親会(芝俱樂部にて)

教育委員会
第二代委員長
山戸 昭三



隔で「プロジェクトマネジメント」に関する授業を行うことになりました。初代委員長のN先生が北海道大学の教授として転出され、私が二代目教育委員長に就任しました。教育委員会のメンバーは、若い学生にプロジェクトマネジメントの重要性を伝えたいと熱気にあふれていました。毎月の例会で議論をした後は、ほとんど懇親会をしていました。私は、田町駅を挟んで山手線の内側にある企業に所属しており、その会社の和室宴会場を予約することで貢献していました。

計画的偶発性理論というものがあります。資格を取るだけでは価値は生まれず、思い切って「交流の場」に飛び込むことです。そしてその場には、きっと、あなたを盛り立ててくれる人がいるはずで

2006

次の大きな飛躍に向けての
基盤構築を開始した年であった。

- ミッション委員会を組成し、次期中期計画策定を開始
- 地域活動の展開を開始
- 支部総会実施方法の変更
- 支部事務所の借増し

次ステップへの変革点の1年

主要活動		PMI本部動向	国内の動き	海外の動き
組織	2008年から3年間のPMI東京支部のミッションと中期計画を策定するため、理事を中心とした7名のメンバーと数名のオブザーバーで設立	<ul style="list-style-type: none"> ・ PMI Learnを立ち上げ ・ Program Management Standard 1st Editionを発行 ・ Portfolio Management Standard 1st Editionを発行 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ライブドア証取法違反容疑で強制捜査 ・ ワンセグ放送開始 ・ 第1回WBCで王ジャパンが世界一に 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北朝鮮が初の核実験を実施 ・ フセイン元イラク大統領の死刑執行
	関西地区で初の研究会発足、積年の課題であった地域における支部活動の展開が緒についた			
	支部事務所の活動キャパシティを支えるべく、倍の借増しを行った			
新設部会	<ul style="list-style-type: none"> ・ ミッション委員会(再立ち上げ) ・ 用語委員会 			
標準・出版	ダイナミックスケジューリング			
	ソフトウェアプロセス改善のROI			
	プロジェクトマネジメント・プリンシプル			
セミナー	PMI東京フォーラム2006(イノベーションを実現するプロジェクトマネジメント) (11/3-4)			
	PMBOK®ガイドセミナーを首都圏以外で開催(関西地区で2回、東海地区で1回)、月例セミナーを関西地区で1回開催			
	他社の教育機関との提携セミナーの拡張			
サービス	企画委員会でPMI東京支部会員へのサービス向上策の検討と実施			
	アニュアルレポート発刊(2005年度より)			

北海道大学大学院との提携カリキュラム

北海道大学大学院情報科学研究科からの依頼により、教育委員会の下に北大プロジェクトを立ち上げ、大学院におけるプロジェクトマネジメント教育プログラム(6科目×15講義)の計画、資料作成および講義実施を行いました。

なお、本講座では、ネットワーク回線を用いた遠隔地教育プログラムの一環として、講師が北海道大学で行うだけでなく、東京都田町駅近傍に位置するキャンパス・イノベーション・センター(CIC)に設けられたサテライトオフィスからも実施されました。

- (1) プロジェクトマネジメント特論
- (2) プロジェクト計画特論1
- (3) プロジェクト計画特論2
- (4) プロジェクト運営特論
- (5) ソフトウェア開発プロセス特論2

(6) パーソナルスキル特論



企画委員会の活動

主な活動テーマは、会員増強対策を検討するとともに、各部会における次の実施事項を支援しました。

- ① 委員会の立ち上げ・体制整備(用語委員会、ミッション委員会)
- ② 部会、研究会の運営ルール見直し
- ③ PMI東京支部における各種制度の整備

例：表彰制度、宣伝広告規程、PMI東京著作物の使用承認プロセスの明確化(図書・講師認定制度の創設)

④ コミュニケーション・ツールの整備

情報・宣伝委員会の活動について(紹介)

当委員会は、情報の伝達を主な使命として活動しています。この委員会活動で皆さんが一番身近に感じられるのは、ニューズレターの発行を通してだと思います。また、空気のように当たり前ですが重要な役割として、ホームページの維持があります。これらの定期的活動の他に、イベントのお手伝いや「PMBOK®下敷き」、「会員1,000人目、2,500人目インタビュー」などの個別イベント活動も行っています。今回、紹介記事を書くにあたり、情報・宣伝委員会の生い立ちを、簡単に振り返って紹介します。



■ 第0世代(情報・宣伝委員会の無い時代)

2002年以前、PMI東京支部が東京・音羽の先端技術開発センター内にあった頃です。事務局にて現在の二本柱であるニューズレター(紙ベース)とホームページ(簡単なもの)を制作していました。事務局の要員も少なく、八面六臂の活躍をされていました。

■ 第1世代(情報・宣伝委員の発足)

2002年、ホームページでの情報・宣伝委員会員の募集に応じたメンバーにより、ニューズレターとホームページのWorking Groupが立ち上がりました。まだ、ニューズレターは紙による郵送ベースでしたが、現在に近い形になりました。また、ホームページも現在のレイアウトの原型が作成され、色々な情報発信が可能になりました。

■ 第2世代(情報・宣伝委員のメンバー増強)

2004年、ニューズレターの作成・発信手順が順調に回りだし、また、電子化に伴いホームページ会員の広場から参照可能になりました。ホームページでは個人認証が適用され、情報発信やスポンサーの広告などの充実が図られました。この背景には新メンバーによる新しいノウハウの活用や、PMI東京支部の法人化がありました。

約4年間の流れを紹介しましたがこの間、東谷委員長、喜多河前委員長の尽力、情報・宣伝担当、島崎前理事および、各委員の努力によりここまで来られたものと考えます。

さて、過去を振り返りましたが現在、定常的作業としてニューズレター、ホームページが順調に運用できるようになりました。今後、この作業を継続すると共に、Customer Satisfactionを目指しての継続、そして次の第3世代のステップとして東京以外の会員のバーチャルな活躍場所やCustomer Delightfulな企画(例えば、下敷きに続き、マグカップやキーホルダーなど)を検討して行きたいと、密かに計画しています。(情報宣伝委員会 石橋和雄)

2006年当時のメディア企画と運営概況

PMIJから本原稿執筆依頼があり、時期は2006年とのことでした。流石に12年前のことは覚えていないので、当時のネタを探して記憶を遡らないといけません。

2006年はPMI東京、事務局は4人で体制的にも弱く、各部署が事務局運営をサポートしていました。本委員会はPMI東京のホームページとニューズレターの2大メディアの企画立案・運営支援の役割を担って活動していました。

この当時、ホームページは英文HPやPM図書販売などの新規開設を行うと共に、従来コンテンツのカテゴリーを会員目線で見直しリニューアルを企画、画面デザインを实

情報・宣伝委員会
委員長
東谷 上



施しています。

ニューズレターは年4回発行するため、年間と各号のテーマを決め、号毎に編集体制を構築・WBSを作成し、原稿執筆依頼から入稿までのフォロー、入稿後の校正および編集取り纏めの全てを行っていました。この他、ニューズ

レターもデザインを一新、紙媒体郵送からPDFダウンロードにサービスの内容も見直しました。

数年後、事務局体制強化に併せ、本委員会の役割は事務局へ移管、発展的解消を遂げました。

当時を振り返り「よくあれだけのことができたな」と我ながら感嘆する機会となりました。

◆デザイン刷新(TOPページ)



◆デザイン刷新(表紙)



2007

会員サービスの向上に
チャレンジした1年であった。

- 中期計画の策定
- すぐれたガバナンスの発揮
- 業務遂行基盤の充実

会員サービスの向上

主要活動		PMI本部動向	国内の動き	海外の動き	
組織	第4代会長に神庭弘年理事が就任 ミッション委員会で、2008年～2010年の「東京支部3カ年計画」を作成、理事会で承認	<ul style="list-style-type: none"> ・「コミュニティ・トランスフォーメーション・プロジェクト」により、2007年から大きなトランスフォーメーション実施を開始 ・Leadership Institute Departmentを組織化 	<ul style="list-style-type: none"> ・郵政民営化スタート ・教授・准教授・助教・助手の新職制スタート 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界同時株安 ・サブプライムローン問題発生 	
新設部会	プロジェクトマネジメント実践研究会（関西地区初）				
新設プロジェクト	各種標準の翻訳プロジェクト（4標準） HCAS（プロジェクト・マネジャー人財評価システム）企画プロジェクト PMOプロジェクト				
	プロジェクトマネジメント・ツールボックス ポートフォリオマネジメント標準 第1版 プロジェクト・マネジャーの人間術 アード・バリュー・マネジメント実務標準 第1版 組織的プロジェクトマネジメント成熟度モデル（OPM3®）基本知識				
セミナー	国際委員会主催で「公共セクターにおけるプロジェクトマネジメントの実践」を開催（10/18） PMI東京フォーラム2007（企業変革を実現するプロジェクトマネジメント）（11/10-11） 遠隔地の会員および既会員へのサービス向上を目的に、Webセミナーを4コース開発し、受講を開始				※ISOによるプロジェクトマネジメント標準化検討開始（ISO TC258）
	PMP				資格取得者数 20,000名超

PMI東京支部3カ年計画

PMI東京支部では2007年にミッション委員会にて、2008年～2010年の「PMI東京支部3カ年計画」が作成されました。渡辺委員長（PMI東京支部理事）以下、委員の皆様が年間20回にもおよぶ議論の成果は、2007年11月22日の理事会にて承認されました。

1. 3カ年にフォーカスするビジョン

PMI東京支部の目的は定款・支部規約に記載されていますが、とりわけ、この3年間の支部活動展開の上でのビジョンを以下のように設定しました。

- イノベーションを実現する手段として、世界水準のプロジェクトマネジメントが、幅広く実務の世界で受け入れられている

重点分野

- ① コンピテンシー
 - ② 組織のプロジェクトマネジメント成熟度
 - ③ プログラムマネジメント、ポートフォリオマネジメント
- 首都圏以外の都市において、PMI東京支部活動が展開されている
 - IT以外の産業においてもプロジェクトマネジメントの重要性が認知され活用されている
 - 多様なプロフィールを持つ人材が、プロジェクトマネジメント分野で活躍している
 - プロジェクトマネジメントを活用する行政、教育機関、企業、その他関連団体とコラボレーションが起こっている
 - PMI東京支部の法人としての活動基盤が確立されている

- ① ガバナンス
- ② 安定的・高品質のリソース
- ③ 財政

2. PMI東京支部戦略

これらのビジョンを達成するための戦略として、以下の戦略のもとに支部施策を展開することとしました。

- ①サービスの充実
- ②PM知(ナレッジ)の高度化・啓発
- ③新事業の展開
- ④PM認知度の向上
- ⑤革新思考とアイデア交換の促進
- ⑥PM実務改善手法の提供
- ⑦PM組織間の連携
- ⑧グローバルブランドの活用
- ⑨活動資源の確保
- ⑩市場・事業開発力の強化
- ⑪ガバナンスの強化
- ⑫執行体制の強化
- ⑬事業基盤の充実

PMI東京支部セミナールームの開設

支部活動の活性化に伴い、ボランティアの皆様のご活動拠点となる「PMI東京支部セミナールーム」を4月に開設いたしました。PMI東京支部事務局と同じ建物の中で20～30名の収容能力(78㎡)を持ち、既に90%の利用率で、好評をいただいています。



PM実践研究会発足の経緯

PM実践研究会は、関西PMコミュニティの構築を目指して設立した関西初の研究会です。2007年2月7日、大阪マルビル30階のTop30にて、PM実践研究会のキックオフを行いました。3年間の活動実績が評価され、2009年12月に関西ブランチが発足し、その後5つの研究会に発展しています。昨年は発足10周年の記念イベントを実施しました。

ここで、PM実践研究会発足の経緯を紹介します。発端は、2006年7月に開催されたPMI東京支部主催関西セミナーのネットワークの席で、「関西をベースとした活動を是非実現したいね」という声が多く上がったことでした。PMコミュニティが関西に必要であると確信した私は、当時メンバーとして参加していた組織成熟度研究会の平石委員長に、関西での研究会設立について相談しました。平石委員長から永谷事務局長に参加の依頼をいただき、9月に東京で第1回準備会を行いました。ここで支部の戦略と一致することが確認され、具体的に進めていくことになりました。10月に永谷事務局長、平石委員長、関西からは

PM実践研究会
代表
橋本 欽司



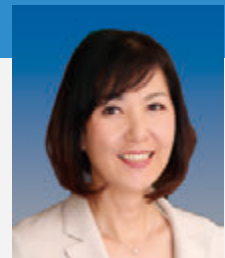
大久保さん、新宮さん、羽田さん、橋本が参加し、神戸で第2回準備会を開催しました。ここで関西研究会の活動計画の概要、研究会の名称などについて議論を行い、関西研究会の基本構想を決定しました。11月に瀬尾会長や関係者が集まり、東京にて第3回準備会を開催しました。ここでは新研究会の趣旨の確認、理事会への提案について議論を行いました。その後関西のコアメンバーで準備会を重ね、12月にPM実践研究会の募集を開始することができました。

PM実践研究会は、発足20周年記念イベントの開催を目標に、新たな10年の創造にチャレンジしています。これからもPM実践研究会へのご支援、よろしくお願い申し上げます。

PMI標準書の翻訳—頑固で超被虐的な人たち

PMIの支部活動として標準書の普及は欠かせません。PMBOK®ガイドに続く標準書として世に広め、あわよくば支部の売上に貢献を!ということで始まった「ポートフォリオマネジメント標準(第1版)」「プログラムマネジメント標準(第1版)」の翻訳プロジェクト。平日に翻訳を進め、土日や祝日には水天宮の猪子ビル2階に集まり、朝から晩までディスカッション。原文を正確に伝えるのが標準書翻訳の原則。そこでは意訳や安易なカタカナ表記は許されません。原文が言わんとする解釈に喧々諤々、次いで日本語表現に火花を散らします。「PMI標準書の翻訳は日本のPMの夜明け、小さな一歩がPMの大きな礎となる」、そんな熱くて青い使命感のもと、用語1つの訳語に半日を費やすこと

事務局(当時)
伊東 緑



もありました。長い1日の終わりには居酒屋で楽しく1杯のはずが昼間の熱は冷めやらず、PMネタをつまみに酒を呑む頑固なドMたち。

おーっと、「ドM」なんて安直な表現では、彼らの本質が伝わりませんね。適切に表現するならば、標準書に虐げられても動ぜず、嬉々として日本語と戯れる超被虐的な人たちなのでした。

2008

引き続き、会員サービスの向上に
チャレンジした。

- 中期計画の策定
- すぐれたガバナンスの発揮
- 業務遂行基盤の充実

PMI東京支部からの名称変更を決定

主要活動		PMI本部動向	国内の動き	海外の動き
組織	中間法人法の廃止に伴い、法人格が「一般社団法人」へ変更。併せて「PMI東京支部」から「PMI日本支部」への名称変更を決定(2009年1月より)	<ul style="list-style-type: none"> ・ PMBOK® Guide 4th Edition発行 ・ Program Management Standard 2nd Edition発行 ・ Portfolio Management Standard 2nd Edition発行 	<ul style="list-style-type: none"> ・ リーマンショック発生 ・ 後期高齢者医療制度始まる ・ iPhone3G発売(日本) ・ Twitter日本語版公開 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北京オリンピック開催 ・ リーマン・ブラザーズが破綻 ・ オバマ氏が米大統領に当選
新設部会	地域サービス委員会			
標準・出版	プログラムマネジメント標準			
	ワーク・ブレイクダウン・ストラクチャー実務標準 第2版			
セミナー	サマーフェスタ2008開催(理論と実践から考えるプロジェクトマネジメント)(6/28)			
	設立10周年記念セミナー開催(11/22) PMI東京フォーラム2008(進化するプロジェクトマネジメント～変革達成の方法論～)(11/23-24)			
説明会	PMI R.E.P.(認定教育プロバイダー)向け説明会を開催(6/27)			
PMP	資格取得者数 25,000名超			

PMI Japan Festa 誕生秘話

2008年6月28日、日本教育会館・喜山倶楽部。3トラック計10セッションとネットワーキング構成で、PMI東京サマーフェスタ2008は初お披露目となりました。

夏を先取りした会場雰囲気の中、これまでにないセミナースタイルと講演がプログラムを飾り、アロハシャツとムームーを着たスタッフ達がイベントを華やかに彩りました。

一般的なセミナーとは異なる新鮮な内容とイベントの雰囲気、多くの参加者から感謝と激励の反響があったことを、今でも鮮明に覚えています。



当時のネットワーキングの様子



夏を感じさせるトロピカルな料理

PMI東京フェスタは月例セミナー受講者の声とセミナー委員会メンバーの想いから生まれました。

参加者の多様なニーズや当時は9つだったPMBOK®知識エリアに対する網羅性への対応、聴くだけの一方向の講

セミナー委員会
メンバー
鬼束 孝則



演から参加型を実現させるためのワークショップ形式セッション、PMP保有者にとって本当に欲しい情報を提供するためのボーナスセッションなど、参加者視点をとことん追求したプログラムへのこだわりとスタッフの一体感は、今日のPMI Japan Festaにもしっかりと受け継がれています。

創意工夫満載のPMのための『お祭り』に、これからもご期待ください!



当時の運営メンバー

一般社団法人PMI日本支部への変更

有限責任中間法人PMI東京支部は2008年12月施行された「中間法人法の廃止」に伴い、法人格が「一般社団法人」へ変更となりました。

さらに、東京を中心とした関東圏のみならず、その他の大都市圏へも広がりつつある状況を踏まえ、今回の法人化に併せて設立以来10年間慣れ親しんできた「PMI東京支部」の名称を「PMI日本支部」(略称:PMIJ)へ名称変更しました。英語名称は“PMI Japan Chapter”です。

2008～2013 東京支部から日本支部へ

私は2008年に瀬尾さんから引き継いで、2013年まで6年間、会長を担当させていただきました。沢山の事がめまぐるしく起こり、とてもエキサイティングな期間でした。

まず、2007年から支部の組織を「Chapter with Branchモデル」に変更する検討が始まり、併せて支部名称も変更する事とし、2年間の検討と準備を経て、2009年PMI東京支部は日本支部となり、国単位の体制となりました。企画委員会(瀬尾リーダー)達の活躍のお陰で、大きな支障もなく切り替えることができました。以降アジア各国の支部体制は国単位のChapter with Branchモデルが普通になっていきます。

2008年は折しもリーマンショックの最中で、企業は急激な不況に直面し、私達の支部会員も急激に減るというピンチに陥っていました。しかしボランティア主導の組織がこんなに強いものかと思わせる程、元気なボランティアの皆さんの頑張りで、活気を失う事は全くありませんでした。自分の意志で行動すると言うことが、揺るがない事の根源なのです。

2009年には、待望の関西ブランチが設立されました。2010年には、新事務局長を迎えると共に、事務所の移転を行いました(現在のセンタービル3Fへ)。8月の暑い最中でしたが、広くなった教室や事務室がとても嬉しかったです。

会長在任中の一番強い記憶は、2011.3.11の東日本大震災と、それに続く福島原発事故の発生です。あのように大きな地震、津波、原発事故と想像を絶する被害に呆然とした事は忘れられません。現在、復興途上にあるとはいえ、未だに苦しんでいる人達が沢山いらっしゃる事に胸が痛みます。当時、私の元に世界中から、特にアジア各国からの安否を気遣う温かい励ましのメールを本当に沢山いただきました。多数の犠牲者や被災した方へのご支援の申し出は、全て赤十字を通じていただくようお願いし、日本支部としても寄付を続けました。PMI日本支部の沢山の会員が、“何か出来る事を”探す意欲的な行動にも感銘を受けました。

日本支部では災害復興支援プログラムを立ち上げ、支援活動を模索すると共に、PMIEF(Education Foundation)の持っている災害復交のプロジェクトマネジメント(PMMPDR: Project Management Methodology for Post Disaster Reconstruction)の翻訳と配布も目指す事としました。これは2004年12月のインド洋津波災害に際し、PMI

第四代会長
神庭 弘年



が災害復興メソドロジー&トレーニング・プロジェクトとして開発し、救済機関や非政府組織(NGO)の非営利活動に無償で提供されたものです。応急対策と復旧フェーズのプロセスは通常多くの救済機関と政府が確立しているので、災害後の復興のマネジメントにフォーカスしたものに、本業をもつボランティアとして活動を検討している我々には、とてもフィットすると思ったのです。この活動は形を色々とも変えながらも、PMI日本支部の社会貢献活動として現在に至るまで続いています。多くの会員がボランティアとして活動に参加して頂いている事を誇りに思い、心から感謝しています。

2011年12月には理事改選の選挙がありました。翌年最初の理事会で会長を互選するのですが、驚いた事に全理事から継続要望をいただき、感激しながらもう一期、通算6年も担当する事になりました。しかし後継者計画を明確にしなかった事については深く反省し、副会長ポストを設けたり、理事のPMI北米Leadership Institute Meetingへの参加機会を増やしたり、支部運営に関心を深めて頂けるように配慮しながら、何とか任期を全うする事ができました。

私達の組織は、とてもユニークなものです。正会員は個人会員しかなく、法人会員を持ちません。それが個人のボランティア精神、自発的な参加意欲をもっとも大切なものとするバックボーンになっています。2018年時点では4,100名の会員になりましたが、会員は個人として平等で、企業の序列などは無関係です。高度にプロフェッショナルでありながらボランティア精神を中心において、これほど充実した成果を上げ、発展と向上を続けている団体は他に類を見ません。PMI自身も既にPM団体としては会員数世界No.1ですが、決してNo.1になることを目的にはしていません。むしろいつもOnly Oneとしてユニークな価値を提供する事を願っているのです。私個人は1997年からPMI会員ですので、既に20年以上会員です。今でも、学ぶ事の多い専門家集団でありながら、お互いに自由で平等な人間関係を築ける事や、専門家の意見を聞きながら切磋琢磨できる事を、とても楽しんでます。

2009

新たな飛躍の1年。
これまで築いてきたPMI日本支部の活動基盤を更に拡大し、充実させることに力を注いできた。

- 法人格の変更
- PMI新標準の日本語版発行
- 関西地区の設立

一般社団法人PMI日本支部

	主要活動	PMI本部動向	国内の動き	海外の動き
組織	「PMI東京支部」から「PMI日本支部」に変更(2009年1月より)	<ul style="list-style-type: none"> ・ PMI創立40周年 ・ 15年先を展望する Project Management Circa 2025を発行 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 民主党へ政権交代 ・ 裁判員裁判開始 ・ ハイボールが人気 ・ 事業仕分けがスタート ・ Windows7発売 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ハドソン川の奇跡(航空機事故) ・ 米国GM経営破綻 ・ マイケルジャクソン死去
	PMI日本支部 関西地区 設立(12月)			
	PMI-GOC(Global Operation Center)との協業が正式に発足			
新設部会	PMI Component Award for Volunteer of the Yearを受賞			
	PMO研究会 法人スポンサー・スタディグループ活動の開始(5月)			
標準・出版	プロジェクトマネジメント知識体系ガイド(PMBOK®ガイド)第4版			
	プログラムマネジメント標準 第2版			
	ポートフォリオマネジメント標準 第2版			
	組織的プロジェクトマネジメント成熟度モデル(OPM3®)第2版			
	スケジューリング実務標準			
	プロジェクト・マネジャー・コンピテンシー開発体系 第2版 戦略的PMO～新しいプロジェクトマネジメント経営～			
セミナー	サマーフェスタ2009(～Change! Change! Change!～プロジェクトマネジメントの変革に今何が求められているのか。)(6/13-14)			
	PMI日本フォーラム2009(今こそ、プロジェクトマネジメント～目標達成の方法～)(10/24-25)			
イベント	JICA意見交換会開催(6/2)			

PMIの標準改定と日本語版の発行

PMI本部から発刊された「プロジェクトマネジメント知識体系ガイド(PMBOK®ガイド)第4版」の日本語版に続き、PMI標準群の日本語版が次の通り発刊されました。

- ・ 「プログラムマネジメント標準 第2版」
- ・ 「ポートフォリオマネジメント標準 第2版」
- ・ 「組織的プロジェクトマネジメント成熟度モデル(OPM3®)第2版」
- ・ 「プロジェクト・マネジャー・コンピテンシー開発体系(PMCDF)第2版」
- ・ 「スケジューリング実務標準」

瀬尾元会長がPMI本部より表彰

PMI日本支部の会長として2002年から2007年まで支部活動の普及に貢献された瀬尾元会長が以下の3つの業績を評価され、世界中のPMI組織から4名の「PMI Component Award for Volunteer of the Year」の一人として表彰されました。

- 中期計画の策定と定着の仕組み作り
- 法人格変更プロジェクト
- PMI日本支部の会員更新の日本語化



PMI日本支部関西地区の設立

地域サービス委員会のもとブランチ設立の準備が行なわれてきましたが、2009年12月1日にPMI日本支部として初めてのブランチ「PMI日本支部 関西地区」が発足しました。

関西地区代表には、ニッセイ情報テクノロジー（株）取締役常務執行役員の弓削公樹氏が就任されました。また運営委員にはコアボランティアとして応募された、20名を超える方が参加されます。運営委員からはPMの研究活動やセミナー・研修などのイベント、幅広いコミュニティー活動ができることなどが期待されています。

12月1日には大阪・淀屋橋近くのニッセイ情報テクノロジー様の会議室にてキックオフ会が開催され、続いて懇親会が盛大に執り行われました。

法人スポンサー・スタディグループ活動の開始

PMI日本支部法人スポンサー間での情報交流をより一層深めるために、法人スポンサー・スタディグループの活動が2009年5月から開始されました。現在、人材（財）育成スタディグループとPMO運用・管理スタディグループが、月1回のペースで活発な活動を展開しています。

関西ブランチ発足

関西にPM実践研究会が発足して1年。メンバーも30名近く、研究会での実践的な事例をもとにディスカッションを活発に行っていました。

当時は法人スポンサーであるジェーエムエーシステムズ社の会議室をお借りしていましたが、膨らむ人数に会議室に入りきらないという状況に向かっていました。

そんなとき、PMI日本支部でも初のブランチとして関西にブランチを立ち上げようという話がありました。

私は立ち上げワーキンググループに、同じ研究会の新宮さんと参加しました。

まずは、ブランチのモデルから検討を始め、ブランチ設立規約を策定。ブランチ立ち上げに必要なことをリーダーの渡辺理事（初代の地域サービス委員長）を中心にまとめ、進めていきました。ブランチ代表もニッセイ情報テクノロジー社の弓削理事が代表、TIS社の会田理事が副代表を引き受けてくださいました。

運営を一緒に推進してくれる運営委員会の前身であるアクティブメンバーの募集を行い、20名近くのメンバーが集まりました。いくつかのチームに分かれ、今後の関西ブランチを検討しました。関西ブランチの愛称は「あかね」。茜色に空が染まった頃に皆が集い、学ぶ、そんなコンセプトで始まりました。

2008年12月には、関西ブランチが発足し、発足イベントを開催しました。

場所は、中の島にある大阪中央公会堂。歴史ある建物をお借りし、100名以上の方々が参加されました。

ブランチの発足から研究会の様相も変わりました。

2年ほどの活動からPM実践研究会は人数が増え続けており、新たなフェーズとして定量的PM研究会、IT上流研究会、PM創生研究会がPM実践研究会から分かれ、それぞれの研究会が発足し、さらに医療PM研究会も立ち

関西ブランチ代表
浦田 有佳里



上がりました。ブランチの運営を担う重要な役割の運営委員会も合わせ、6つの組織が活動を始めました。

ブランチは、PMI日本支部の下部組織ではありませんが、一つの組織として、多くの機能を持ち、ボランティアの方々に支えられています。ブランチの立ち上げや活動は、PMI日本支部としても初めてのことであったため、瀬尾会長や永谷事務局長、田坂事務局長をはじめ多くの方々にもご支援いただき、進めることができました。

現在も首都圏だけでなく、地域も支援していこうという支部の方々の思いは変わらず、地域サービス委員を中心に活動を進めています。その後、関西ブランチは、PMI日本支部のブランチモデルとなり、中部ブランチの立ち上げに続きました。運営委員会の開催場所も大阪梅田グランフロントのナレッジサロンに移り、来年は関西ブランチ設立10周年です。新たな関西ブランチの発展も進めていきたいと思います。



2010

これからの10年を俯瞰する
方向性を出せた1年となった。

- 関西地区の順調な活動拡大
- 地域サービスの充実
- PMI主要5標準の着実な浸透
- 新事務所移転

これからの10年を俯瞰

	主要活動	PMI本部動向	国内の動き	海外の動き
組織	PMI日本支部関西地区の活動が拡大(設立記念セミナー、シンポジウム) PMI日本支部地域活動プログラムとして、名古屋・広島・金沢・福岡でセミナーを開催。札幌会場に中継 新事務局長として田坂真一氏が着任(4月) 猪子ビル2階からセンター・ビル3階へオフィスを移転(8月)	・ Career Central (求職サイト)をPMI.orgに立ち上げ ・ PMBOK®ガイド発行が300万部を超える	・ 小惑星探査機はやぶさ帰還 ・ 尖閣列島で中国漁船衝突 ・ 菅内閣成立 ・ iPad発売	・ 「アラブの春」が起こる ・ 「ウィキリークス」 ・ 中国各地で反日デモ ・ 欧州ソブリン危機
標準・出版	PMBOK®問題集(PMBOK®ガイド第4版対応) プロジェクト・リスクマネジメント実務標準 プロジェクト・コンフィグレーション・マネジメント実務標準			
セミナー	関西地区設立記念セミナー(1/25) サマーフェスタ2010(スマート・マネジメント～現場で生かせる最適化されたECOなプロジェクトマネジメント)(6/12-13) PMI日本フォーラム2010(進化するプロジェクトマネジメント～グローバルへの発信～)(10/30-31)			
イベント	関西地区設立1周年記念シンポジウム(12/4) JICA沖縄国際センター研修生意見交換会(5/24、10/5) Academic WorkshopをPMI-GAC(主催)と共催(3/2-3)			
プロジェクト	中高生向け教材制作を行う「夢実現支援プロジェクト」発足(5月)			

PMI日本支部関西地区の活動

2009年12月1日にPMI日本支部の初めてのランチとして「PMI日本支部関西地区」が発足し、2010年には様々な活動を行ってきました。

2010年1月25日に関西地区設立記念セミナーが大阪市中央公会堂で開催されました。約150名の参加者を迎え、続いて懇親会も盛大に執り行われました。

関西地区では月1回、20名を超える運営委員による会合が開かれております。また5つのワーキンググループに分かれ、それぞれの活動としてセミナーやワークショップの開催など幅広く実施しております。

また12月4日には大阪国際会議場で設立1周年記念シンポジウムが開催されました。

金井壽宏 神戸大学大学院教授の基調講演「エンパワーメント、支援と奉仕型リーダーの意味」やパネルディスカッション「上流を極める」などが行われ、約180名の参加者を得て盛大なイベントとなりました。

PMI日本支部 地域活動プログラムの活動

首都圏以外の会員の方に距離の不便さを解消し、PDU獲得機会の時間制約から解放していただくことを狙いとして、この数年「地域プログラム」に取り組んでまいりました。

2010年度は別項での関西地区活動にとどまらず、名古屋・広島・金沢・福岡においてポートフォリオ/プログラムマネジメントの浸透をテーマとしたセミナーを開催すると共に、同セミナーを中継して札幌会場で参加いただきました。

中継のトライアルとして今後の展開の基礎とする所存です。さらにはセミナー内容を蓄えてセミナー・アーカイブとして後日参照いただけるような仕組みづくりにも取り組みを始めました。年末には名古屋において講演会も開催いたしました。

アカデミック・ワークショップ

2010年3月2日・3日に主催PMI-GAC (Global Accreditation Center)、共催PMI日本支部、エンジニアリング振興協会、日本プロジェクトマネジメント協会、後援経済産業省によりアカデミック・ワークショップが開催されました。PM教育に実績を積んだ欧米5大学を迎え、日本からは17大学、18名の参加を得ました。産業界や経団連からのPM育成の必要性に関するプレゼンテーション、日本の大学のPM教育の現状や方向性に関するプレゼンテーション、そして欧米5大学のプレゼンテーションなどを通じて相互理解を深め、2日目の活発な議論へと繋ぐことができました。

本ワークショップは日本での様々なレベルのプロジェクトマネジメントの科目／コースを取り込む教育機関の数を増やし、関心のある日本の教育機関と協働してプロジェクトマネジメントのコースを単位認定レベルまで引き上げるのを支援することを目的として開催されましたが、そのほかに多くの画期的な意義を包含しています。

即ち、「大学でのプロジェクトマネジメント教育に関する初めてのPMIからの働きかけである」、「エンジニアリング振興協会(ENAA)、日本プロジェクトマネジメント協会(PMAJ)との共催という事実に見られるように、特定の

PM標準にこだわらない懐の深いアプローチをとった」、さらに「産学人材育成パートナーシップ参加大学やその受け皿である経団連設立のNPO「CeFIL (Center for Future ICT Leaders)の参加を得た」ことにより海外・日本の大学間だけでなく、日本での種々の動きをも話し合える包括的な会合となったことなど、今後の発展への素晴らしい礎を築くことができました。

オフィス移転

PMI日本支部は8月29日、猪子ビル2階からセンタービル3階へオフィスを移転しました。前オフィスでは事務局が2階、セミナー・ルームが4階とフロアが分かれ不便をおかけしていましたが、新オフィスは事務局とセミナー・ルームが同一フロアにあり、利便性が改善されました。

さらに、オフィス設備の充実とともに、前オフィスに比べテナントとしての運用の柔軟性も大きく改善され、セミナーや部会活動での利用が大幅に増加しています。



セミナー・ルーム



新オフィス(センタービル)

アカデミックへのアプローチ

日本支部20周年に際し、理事をさせていただいた8年間を振り返ってみました。就任したのは2010年、教育担当となって最初のイベントが「アカデミック・ワークショップ」でした。新宿のヒルトン東京を会場に、欧米のGAC認定校6校を集めて、日本におけるPM教育の役割と今後の取り組みについて、議論をしながら海外の教育機関との橋渡しをしようという企画で、私自身、たいへん大きな刺激を受け、これを機に私が所属する大学院もGAC認定を目指そうと志を与えられた貴重な体験となったのを今でも憶えています。さっそくその夏、私は米国内の認定校4校を回って情報収集に努めました。少しずつ準備が整ってきており、ようやく数年後には申請にこぎつけそうです。アカデミックスポンサー制度を支部内に開設したのはその翌年2011年になります。当時はなかなか認知されず、スポンサーへの勧誘が遅々として進まない時期もありましたが、今では42の教育・研究機関が登録する大きな組織となりました。

元教育担当理事
当麻 哲哉



プロジェクトマネジメント教育の必要性が高まり、社会の流れが変わってきたことを感じられる理事生活の8年間でした。



2011

これまで築いてきた活動基盤を更に拡大し、充実させることに力を注いできた。

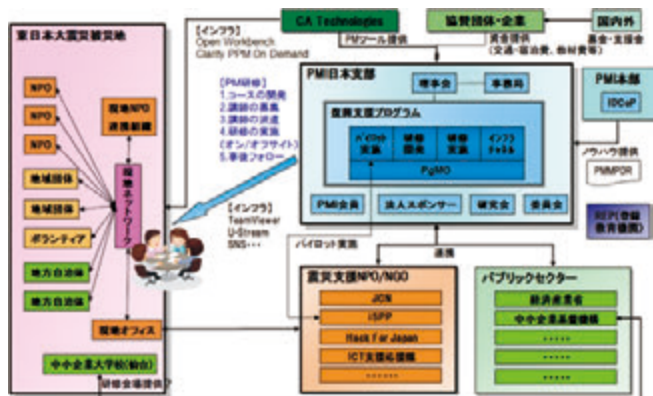
- 関西地区の順調な活動拡大
- 地域サービスの充実
- グローバル化に向けたリーダー研修の新規開発
- メンタープログラムとしてのヒューマン・スキル系の研修の充実

新たなる飛躍の1年

主要活動	PMI本部動向	国内の動き	海外の動き
組織 災害復興支援プログラムを立ち上げ アカデミック・スポンサー制度を開始(6月) PMI Educational Foundationのスポンサー支部となる アジア各国のPMI支部との連携を強化(リージョン9ミーティング参加、各国大会への相互登壇) 理事選挙(12月) 副会長職2名を置くことに決定 表彰制度を開始	・ PMIのコア価値はボランティアのサービス経験であることを確認 ・ Leadership Institute Departmentが Volunteer Programs & Servicesに機能拡張	・ 東日本大震災 ・ サッカー女子日本代表がW杯で優勝 ・ 「LINE」サービス開始	・ 北朝鮮、金正日総書記が死去(後任は金正恩第一書記) ・ シリア内戦勃発
標準・出版 PMツールの実践的活用法 さまざまな課題に挑戦するPMたち PMBOK®セミナー副読本 第二版 PMBOK®ガイド 第4版対応 PMBOK®ガイド 第4版リファレンス			
セミナー PMI日本フォーラム2011(進化するプロジェクトマネジメント〜グローバルへの発進第2章〜)(7/16-17) PMI Japan Festa 2011(Project Innovation〜常識を打ち破る革新的なプロジェクトマネジメント〜)(10/9-10) グローバル・リーダー育成コース(10/18〜12/8)			
プログラム PMヒューマンスキル醸成メンタープログラムI 2011 PMメンタープログラムII			
イベント JICA沖縄国際センター研修生企業見学受け入れ(3/8、11/14、11/6)			
会員数 3,000名超			

災害復興支援プログラム立ち上げ

東日本大震災の復興支援のためPMI®が海外で適用してきたPMMPDR(Project Management Methodology for



災害復興支援プログラム概念図

Post Disaster Reconstruction) を利用した災害復興支援プログラムを立ち上げました。支部では長期(数年)にわたる支援を想定し、日本語版PMMPDRへの翻訳やフレームワークのカスタマイズなどにより日本での使用を可能とする等、活動を開始しています。



アカデミックプログラム

今後10年間に日本のPMやPMPの25%が65歳に達するという急速な高齢化が見込まれています。それに対応して、支部としても若手PM育成のパイプラインの仕組み作りに

貢献すべく大学を中心に大学院大学、中高、高専への働きかけを総合的に強化する再スタートの年となりました。従来から教育委員会を核として大学へのPMコース提供がなされていましたが、2011年は

- PMI Educational Foundation のスポンサー支部となる
- セカンダリースクールへの研修パッケージのモデルとして Educational Foundation が開発したものを翻訳
- IPA 推進の産学マッチングプログラムの一環として 広島市大/広島修道大への共通研修の提供に合意、MRI 殿と共同でシラバス策定(実施は2012年)
- PMI GAC 主催のアカデミック・ワークショップ同窓会開催
- アカデミックスポンサー制度の発表

など新たなきっかけを作ってきました。引き続き総合的なアプローチを継続していきます。

グローバル・リーダー育成

日本支部ではプロジェクトのグローバル化の動向に注視し、理事会で審議のうえ日本のプロジェクト・マネジャーがグローバルなプロジェクトやプログラムで活躍できるよう10月18日～12月8日にかけて全9セッションの「グローバル・リーダー育成コース」を日本支部のセミナールームで開催しました。また、開催に際しては、当コース終了後、早いうちにオプションとして海外で開催する実践コースを提供すべくご案内しました。

9セッションは2セッションが日本語、7セッションが英語で行われ15名の参加を得ました。アンケート結果の評価では、特に英語セッションの評価およびコメントが大変良く、うれしい誤算となったと同時に、次回開催する場合のセッション構成に非常に参考となりました。オプションの海外コースは香港・マカオで現地グローバル・プロジェクトの実例を使いながら進めていく予定です。

災害復興PM支援に取り組んで～次世代プロマネへのメッセージ～

2011年3月11日の東日本大震災で、大津波が町を押し流していく状況は今も目に焼き付いています。直後の理事会で「復興支援プログラム」の立上げを決め、その後3年間はほぼ毎月東北に通って、自治体、NPO、大学などの復興プロジェクトの支援をしてきました。被害が大きかった宮城県南三陸町で、いくつかのプロジェクトのお手伝いをした中に南三陸町図書館再開のプロジェクトがありました。

海辺にあった瀟洒な建物は跡形もなく流され、館長さんが亡くなりました。途方に暮れていたところにプレハブ建物や移動図書館車が寄贈され、9月までには全国から3000冊を超える図書が送られてきました。あるNPOに参加して再開のお手伝いに行きましたが、何から手を付けていいかわかりません。みなさんからアイデアを聞き取り、その晩宿に帰ってWBSを作り、翌日持って行きましたら、「これはよくわかる」と喜ばれました。

ところが2週間後にまた行ったとき、WBSは全く更新されていません。作業は進んでいるのですが、進捗の報告がされていないのです。それでも10月には3日間の合宿作業に全国から30人余りの司書が集まって、書架を整え、図書館を整理してシステムに登録し、無事に開館にこぎつけました。

このプロジェクトで大活躍してくれたのは、図書館スタッフのA子さんという30代のお母さんでした。聞いてみると、中学時代からジュニアリーダー^(※)をやってきたということで、作業の意義や計画を理解し、リーダーシップを発揮してくれました。

その1年半後、オーストラリア・ニュージーランド銀行の

元社会貢献担当理事
顧問
高橋 正憲



寄付によって立派な学習館が建設され、図書館も拡張されました。2年後にフォローアップで訪れたとき、A子さんは、子どもたちが大きな声で本を読み、お年寄りが集まってもよやま話をする場所にしていきたい、と語っていたのが印象に残っています。静まり返った従来の図書館ではなく、町の人々の憩いの場を作ろうという思いで運営を手伝っていました。

この話は私たちに改めて2つのことを示唆してくれます。1つは、プロジェクトは単にアウトプットを作ることではなく、それによるアウトカム(成果)を提供することが目標ということです。もう一つは、子ども時代からPMの素養を身に着けていると、その人の人生は豊かなものになるということです。

ソーシャルPM研究会のキッズPMクラブ(併せてシニアPMクラブ)の意義を再確認することが出来ます。

(※)ジュニアリーダーとは、子ども会活動を中心に地域活動を行う青少年ボランティアのこと。宮城県が発祥の地とされている。中高生が一定の研修を受けて資格を得る。地域の大人と子どもを繋ぐパイプの役割を果たし、震災後は復興していく中での地域活動、コミュニティ形成にも貢献している。南三陸町では、「子どもたちの復興まちづくりプロジェクト」を展開し、町づくりのためのワークショップや意見提案を行うなどの活動をしています。

2012

- サンフランシスコ、インド、ホノルル、リージョン9各国との連携
- グローバル・リーダー研修
- アカデミック・スポンサー制度が順調に進展

グローバルな関係が大きく前進

主要活動		PMI本部動向	国内の動き	海外の動き
組織	理事選挙により理事17名の改選。副会長に奥澤理事、本間理事。社会貢献担当理事を新設	<ul style="list-style-type: none"> ・最初のVolunteer Role Study (Chapters)を開始 ・VRMSを立ち上げ; 850人の支部リーダーが最初の役割調査に参加 ・PMBOK® Guide 5th Edition発行 ※プロジェクトマネジメント標準 (ISO 21500:2012) 発行 (9月)	<ul style="list-style-type: none"> ・東京スカイツリー開業 ・山中教授がiPS細胞作製でノーベル医学生理学賞受賞 ・尖閣諸島国有化 ・衆院選で自公政権奪還 ・第2次安倍内閣成立 ・Windows8発売 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロンドン五輪開催 ・朴槿恵氏大統領選に勝利 ・中国で反日デモがピーク
新設部会	女性コミュニティー立ち上げプロジェクト (Women OBF) PMツール研究会			
標準・出版	プロジェクト見積り実務標準 スケジュール実務標準 第2版 アード・バリュー・マネジメント実務標準 第2版			
セミナー	PMI日本フォーラム2012 (進化するプロジェクトマネジメント〜キーワードは、プログラムとグローバル〜) (7/7-8) PMI Japan Festa 2012 (Project Innovation〜トップリーダーから学ぶ近未来のプロジェクトマネジメント) (10/13-14) グローバル・リーダー育成コース (3月と11月に香港、6月にソウル)			
イベント	JICA沖縄国際センター研修生企業見学受け入れ (5/7、12/19)			

グローバル・リーダー育成

日本支部ではプロジェクトのグローバル化の動向に注視し、日本のプロジェクト・マネジャー (PM) がグローバルなプロジェクトやプログラムで活躍できるよう 2011年10月～12月に日本国内で提供した「英語によるグローバル・リーダー育成コース」を元に、3月と11月に香港、6月にソウルで計3回「英語のみのグローバル・リーダー・トレーニング」を現地支部との共催で提供しました。このような機会を提供できるのも全世界に支部を展開しているPMIファミリー故です。

香港トレーニング第1回目には日本から8名、韓国から3名が3日間受講、香港の第2回目には日本から8名、韓国から3名、台湾から2名、中国から1名が参加し多彩な参加者を得ての3日間の実践コースとなりました。またソウルで開催した2日コースはサムスンSDSの研修センターで開催。同社から20名、日本から3名が集まり、サムスンSDSの選抜社員の厳しい社員研修に直接触れ、世界での飛躍の原動力を垣間見ることとなりました。

これはサムスンSDSが実施した選抜社員に対する2週間の集中トレーニングの一プログラムとして組み込まれ、

期間中社員は朝7:00-8:30 英語のトレーニング、9:00-17:30 グローバル・リーダー・トレーニング、19:00-21:00 ディベートのトレーニングという猛烈なプログラム。今の日本ではなかなか想像できません。9:00-17:30のグローバル・リーダー・トレーニングは2日間のみでしたので、残りは別建ての社員研修プログラムが実施されましたが、日本からの参加者は2日間の参加だけで疲れきって帰ってきました。グローバルな環境下でどれだけ実力を発揮できるのかと一度自問自答してみてください、自信を持って手を挙げられるのは何人でしょう。アジアのPMやPM候補たちの実力は着実に増しています。上記3回のインストラクターはいずれも日本人ではなく全て香港人です。これをどう判断するかですが、日本のPMの皆さんもまだまだ頑張りシロが残されているのではないのでしょうか。



PMI日本支部が魅力的な理由

2005年、旧PMI東京支部PMBOK委員会を訪れたのが最初の出会いでした。故吉沢委員長、高橋副委員長主導の下、造詣を深める議論が繰り広げられており、ボランティアでありながら、これほど真摯かつ熱心に知識探究を行う場であることに感動を覚えたものでした。

諸先輩方の有益な知見をいただきながら、プロジェクトマネジメントの普及・推進に強い思いを抱き、PMBOKセミナー・プログラムを立上げ、代表に就任したのが2009年のことです。熱心な仲間にも恵まれ、共にPMBOK®ガイド解説セミナーを全国展開しました。PMBOK®ガイドの真髄を問うような奥深い対話を、飽くことなく繰り返し、メンバー間のメールがチャット状態になったことも。それも良い思い出です。2011年には栄誉あるボランティア大賞をいただきました。やっただけの手応えを返してくれる、それがPMI日本支部の醍醐味です。

2012年、女性PM活躍推進プロジェクトWomenOBF (A Community Of the Women, By the Women, For the Women!) を立上げました(メンバーの一人として参画さ

女性PMコミュニティ
Women OBF
元代表
坂上 慶子



れた浦田女史は、今では副会長になられています)。一年後、PRJ成果報告会開催の機会をいただき、渋谷ヒカリエの広い会場に150名超を集客しました。総勢23名の女性メンバー達が目をキラキラ輝かせながら発表する姿が今も目に焼き付いています。今でこそ、女性活躍というキーワードが当たり前の世の中ですが、当時はまだ先駆的な考え方でした。神庭前会長、田坂前事務局長の強力な後押しあっての成果です。この場をお借りして感謝申し上げます。

PMI日本支部は、組織の枠を越え、地位や権力に囚われない自由で安全な活動の場を提供します。より大きな成果価値へのブレークスルーを可能にする場の力が、今後も同じ志を持つ人々を巻き込み続けていくことでしょう。

グローバル・リーダー育成

グローバル・プロジェクトで活躍できる人材の育成は、現在も重要なテーマの1つと言えますが、PMI日本支部では2012年から2014年の間、PMI香港支部、韓国支部などと協力して「グローバル・リーダー研修」を開催しています。私は2012年3月の香港・マカオ研修コースへ運営支援で、ソウル研修コースへ日本からの受講者の一人として参加しました。

同コースは、日本以外からの参加者と、チームでワークショップに取り組むことが中心に構成されており、必然的に参加者全員が英語によるコミュニケーションでプロジェクトマネジメントの課題に取り組まなければならないことが特徴です。

香港・マカオでの研修は、香港でのグローバル・プロジェクトやマカオの観光開発プロジェクト事例をテーマにした、迫力のある講師陣がリードする、密度の高いワークショップに加え、実際のプロジェクト現場の見学も含めた多彩なプログラムで実施されました。参加された皆さんからの評価は高く、ソウル研修開催のきっかけともなりました。



研修シーン

事務局
三島 邦彦



ソウル研修では、IT系グローバル企業向けのカスタム開催コースに設けられた、海外からの特別参加枠へ日本から3名が参加しました。若手プロジェクトリーダーに向けた研修で(従って私が最年長)とても熱気にあふれたワークショップでした。韓国からの参加者には、私たちとの研修が開始される時刻前と終了後にも、別のカリキュラムが設定されており、韓国企業における、次世代グローバル・リーダー育成への徹底した取り組みに驚きました。

コース運営に関連しては、現地ですらいろいろとハプニングもありましたが、結果的には、海外での臨機応変な対応能力を向上する機会になったかもしれません。



全員整列。マカオ大学にて

2013

- 引き続きグローバルな関係が進展
- 地域向けサービスの拡充
- 法人スポンサーの勉強会活動の活発化

PMBOK®ガイド第5版へ切り替え

主要活動		PMI本部動向	国内の動き	海外の動き
組織	PMI日本支部設立15周年	<ul style="list-style-type: none"> ・6,000人以上のボランティアが1年でVRMSを利用 ・北米のLeadership Institute Meetingに1,000人以上のボランティアが参加 ・Program Management Standard 3rd Edition発行 ・Portfolio Management Standard 3rd Edition発行 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ブラック企業」流行語に ・アベノミクス効果でデフレ転換傾向へ ・2020五輪が東京に決定 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロシア隕石落下 ・ボストンマラソンで爆発 ・中国、習近平国家主席就任
	2014-2016年度中期計画を策定			
関西地区から「関西ブランチ」に名称変更				
標準出版	プロジェクトマネジメント知識体系ガイド(PMBOK®ガイド)第5版			
セミナー	PMI日本フォーラム2013(進化するプロジェクトマネジメント〜プログラムとグローバル 第2章〜)8/3-4			
	PMI Japan Festa 2013 (No Challenge, No Success!!ここに留まる危機。激動する時代に取り残されないために〜)11/9-10			
	グローバル・リーダー香港育成コース(5/23-24)			
プロジェクト	アジャイル・プロジェクトマネジメント研究会準備プロジェクト			
会員数	3,100名台を維持			

PMBOK®ガイド第5版日本語版の 翻訳・監訳活動

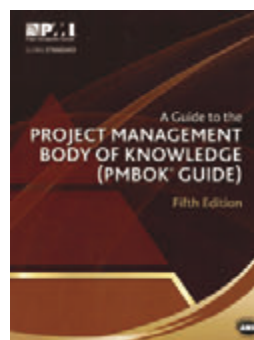
PMI日本支部ボランティア13名による日本語翻訳監修委員会が組織され、約1年間にわたって準備と監修作業が行われました。

従来PMBOK®ガイドの翻訳・監訳活動は、PMIから直接個人に委託する仕組みでした。しかしながら様々な問題が浮上した過去の経験から、今回の日本語版に関してはPMI日本支部が自らプロジェクトを組成し、活動を展開する方針をPMI本部へ申請し許可を得ました。

そこでPMI日本支部の事務局長を中心に体制を構築し、人選の手始めにプロジェクト・マネジャーとして鈴木安而氏を起用しました。翻訳委員会、PMBOK®委員会、用語委員会などからの参加を求めました。その結果、総勢13名のボランティア・チームが構成され2012年7月にキックオフミーティングを開催しました。

体制としてプロジェクト・マネジャーの下に3人ずつの3チームを編成し、さらに図版担当、アドバイザー、および事務局を組織化しました。チームごとに章を担当する役割とし、その結果を全員でレビューするプロセスとしました。

監訳の方針は、第4版と同じ英語表現は翻訳でもなるべく踏襲すること、文章表現は「直訳」ではあるが読者にとって読みやすくわかりやすいことです。一致団結の下、翻訳ガイドを確認し、PMBOK®ガイド第5版日本語訳をお届けするために最善を誓い合いました。



日本側では詳細な作業計画などの準備活動が続けられ、2012年11月に米国から送られてきた用語集をはじめとして翻訳作業が開始されました。その作業完了直後の2012年12月末にPMBOK®ガイド第5版英語版がホームページ上で公式に発表されました。その後は章ごとの一次翻訳文書が米国から五月雨式に送られてきて、2013年2月～

同年9月までにすべての章の監訳を完了しました。10月以降は英語版正誤表のための調整や全体的なレビューが行われ、2012年12月に最終版となりました。

日本チームはボランティア活動という制約条件下でも、通常3週間以内と設定された作業期日を厳守したうえ読みやすさという品質向上に大きく貢献しました。特にPMBOK®ガイド第5版は、PMIにおける他の標準や2012年に発表されたISO21500との整合性の確保に重点を置いたために用語の改訂が多く、日本語として表現困難な用語の翻訳にレビューの多くの時間が割られました。翻訳の途中に英語版が変更されるという事態にも見舞われましたが、プロジェクトには変更があるものとしたPMBOK®ガイドの考え方に従い、全員がモラル高く作業を遂行いたしました。

アジャイル・プロジェクトマネジメント研究会 準備プロジェクト

市場が激変する昨今のビジネス環境において戦略を実行するプロジェクトで成功を収めるには、変化に柔軟に適

応するマネジメントによって成果達成や期間短縮を実現したプロジェクト事例の研究や、アジャイル・プロジェクトマネジメント手法の適用に関する実践的ノウハウの共有が必須であると考え、アジャイル・プロジェクトマネジメント研究会を設立する運びとなりました。

2013年1月、研究会の正式発足と速やかな始動を目標に準備プロジェクトを立ち上げました。2013年度の活動は次のとおりです。

- 「実現されてこそ戦略、事例にみるアジャイル・プロジェクトマネジメントの適用と有効性」をPMI日本フォーラム2013で発表
- メンバーの関心テーマに沿ったリレー・プレゼンテーションによる情報交換
- アジャイルPM読書会を2013年7月より毎月開催。アジャイル・プロジェクトマネジメントの基礎を学習
- イベント・キャラバンを不定期に開催。アジャイル開発を取り入れようとしている企業(GMOインターネットグループ、ソフトバンクモバイル株式会社など)と、事例や課題について情報交換

PMBOK®第5版翻訳・監訳プロジェクト

私が最初にPMIの翻訳活動に関わったのは、当時の事務局長の清水計雄さんからのお勧めで参加した「OPM3」初版の監訳です。その後PMBOK®ガイド第4版の翻訳メンバーに加わることになり、サブプロジェクト・マネジャーとして活動させていただきました。その仲間に故吉沢正文さんがいて、翻訳に関してきめ細かく指導していました。そのご指導の結果がPMI日本支部の翻訳標準となって今日に続いています。そのときの思い出として、第4版から定義された「人的資源マネジメント計画書」と従来の「要員マネジメント計画書」との関係について数週間にわたって議論したことが挙げられます。また「リスク特定」という用語を決めたのもこのときでした。従来「リスク識別」としていたのですが「リスクは当該プロジェクトに影響を及ぼすものを特定することであって、識別することではない」という意味で翻訳を変えました。その直後に「プログラムマネジメント標準」と「ポートフォリオマネジメント標準」の翻訳プロジェクトがあり、当時の瀬尾会長と「識別」対「特定」で深い議論をしたことが思い起こされます。

PMBOK®ガイド第5版では、清水計雄さんから引き継いで翻訳プロジェクト・リーダーを務めました。このときの思い出としては、大先輩が定義された「要素成果物」を思い切って「成果物」に変えたことです。清水さんから「要素成果物」という用語を一般に広めよう、と言われていたの

標準推進委員会
鈴木 安而



ですが、若い人の教育や指導を続けていくうちに無理がわかってきて、やむなく「成果物」というようにしてしまいました。清水さんには変更のご挨拶をさせていただきましたが、英語の「Delivery」は今もなお日本語にならない英語の一つです。その意味では「Engagement」も同様です。PMBOK®ガイド第5版の翻訳・監訳プロジェクトのキックオフにフランスのマルセイユに出張した時のことです。私は挨拶の中で「エンゲージメント」というと日本では婚約指輪のことだ」というと大笑いになりました。結局いい日本語が見つからず、プロセス名はカタカナで、本文では「関与」という用語で翻訳しました。直訳しか許されないという制約の中で、いかにわかりやすく翻訳するかがこれからも大きな課題となっています。

PMI日本支部20周年という節目にPMBOK®ガイド第6版日本語版が発行されたことは、なにかの因縁を感じざるを得ません。PMI日本支部の今後のご発展を祈念いたします。

2014

- リージョン9各国との連携強化に向け R9ミーティング開催
- PMBOK®ガイド第5版を始め 標準類日本語版発刊
- 法人スポンサー、委員会／研究会の成果公開

2014～16中期計画実現に向けて始動

主要活動		PMI本部動向	国内の動き	海外の動き
組織	理事選挙により理事17名の改選。 会長に奥澤理事、副会長に片江理事就任	・P.M.comとHIS (Human Systems International) が PMIファミリーに加わる	<ul style="list-style-type: none"> ・消費税が5%から8%に引き上げ ・ソフトバンク、ヒト型ロボット発表 ・WindowsXPの延長サポート打ち切り ・仮想通貨ビットコイン 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウクライナ内戦勃発 ・韓国旅客船沈没 ・アリババ、NY証券取引所に上場
	行政スポンサープログラム第1号三重県桑名市			
標準・出版	PMBOK®ガイド第5版日本語版			
	プログラムマネジメント標準第3版日本語版			
	ポートフォリオマネジメント標準第3版日本語版			
	関西ブランチ医療PM研究会 「医療プロジェクトマネジメント」出版			
	PMBOK委員会「ここがかわるPMBOK®ガイド第5版」作成、公開			
法人スポンサー人材育成スタディー・グループ 「プロジェクト・マネジャー・コンピテンシー開発体系副読本」作成、公開				
セミナー	PMI日本フォーラム2014(人材育成～グローバルで確固たる成功をおさめるために～)7/12-13			
	PMI Japan Festa 2014 (To the Next (次の舞台へ)～未来を創る新時代のPMを考える)11/8-9			
	月例セミナー(7回)に加え、アジャイルプロジェクトマネジメント・セミナーを9回開催			
	オンライン・セミナー8コース追加			
イベント	PMIR9ミーティング開催7/15-16京都			
	アカデミック・ワークショップ#2開催			

PMI 北東アジア地域ミーティング (Region 9 ミーティング)

北東アジアミーティングはRegion9に所属している日本、韓国、台湾、香港、モンゴル(新規加入支部)、マカオ(支部申請準備委員会)の他にチャイナを加えて毎年開催していますが、新規加入のモンゴル・ポテンシャル支部のあるウランバートルが候補地に上がりましたが、まだ立ち上がったばかりということもあり、日本フォーラム2014開催後の7月15日～16日に京都で開催されました。

アジャイルプロジェクトマネジメント・セミナー

グローバル競争が激化するなか、企業は顧客価値創造によるイノベーションが求められており、イノベーションを成功に導くうえでアジャイルプロジェクトの重要性がますます高まっています。企業全体へのアジャイル適用(エンタープライズアジャイル)も視野に入れ、アジャイルプロジェクトマネジメントの考え方を学ぶセミナーをご提供しています。

2014年度は以下のアジャイルプロジェクトマネジメントの基礎コースを開催いたしました。

- 「アジャイルプロジェクトマネジメントの基礎」(6回開催)

- 「アジャイルプロジェクトマネジメントの基礎(体験編)～SCRUMプロジェクト入門～」
- 「変革リーダーのためのアジャイル変革入門」
- 「アジャイル プロジェクト スタートアップ入門～はじめてのアジャイルプロジェクト～」

今後は基礎コースの充実を図るとともに、アジャイルプロジェクトの実践的なマネジメントスキル向上を目的としたコースや、アジャイル環境でのビジネスアナリシスや要求マネジメントなどのコースなども充実させていく予定です。



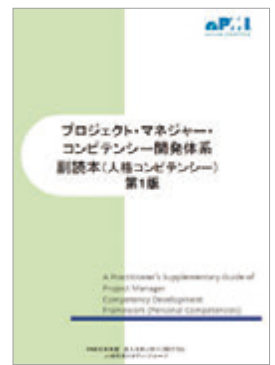
アジャイルセミナー

「プロジェクト・マネジャー・コンピテンシー開発体系副読本」作成

法人スポンサー・スタディー・グループの人材育成スタディー・グループでは、メンバー企業が人材育成に関し、抱えている問題について提起をし、参加企業と幅広く意見交換をしています。

プロジェクトに携わる企業で関心の高い「プロジェクト・

マネジャー人材の育成」に着目し各社事例研究を経て、PMI® 標準の「プロジェクト・マネジャー・コンピテンシー開発体系」のうちの理解が難しく育成にも悩む「人格コンピテンシー」に焦点を当て、理屈ではなく腑に落ちる表現を目指した解説集として、「PMCDF副読本」を作成し公開しました。



オンライン・セミナー

オンライン・セミナー(トライアル)は、プロジェクトマネジメントのスキルアップを目指すより多くの方に、セミナー開催日程やセミナー会場などの制約を受けないスキルアップ手段と機会を提供するもので、2013年12月よりトライアルとしてセミナーの提供を開始しました。2014年度は8コースを追加しました。2015年はトライアルではなく本格的にコースを充実させていく予定です。



オンライン・セミナー(講師:PMIJ中嶋理事)

「医療プロジェクトマネジメント」の出版

PMI関西ブランチ医療プロジェクトマネジメント研究会が、「医療プロジェクトマネジメント」を出版したのが2014年。この頃は電子カルテの導入プロジェクトにおいて、一応の安定はみられるようになったものの、医療業界では共通してプロジェクトの不得手な部分が明らかになってきました。こうした経験をまとめたのが本書ですが、執筆メンバーは原稿を書き進めながら、「これは、単に医療情報システムに限った問題ではない。患者さんの治療自体もプロジェクトであり、そこに医療のプロジェクトマネジメントの課題が潜んでいる」という認識を持つに至りました。出版社(篠原出版新社)の勧めもあり、書名を医療ITに限定せず、思い切って「医療プロジェクトマネジメント」と銘打ちました。

医療プロジェクトマネジメント研究会
代表
宮原 勅治



当時、PMI日本支部の田坂事務局長ら、支部の皆さんの協力を得て、peer reviewをして頂きました。PMI日本フォーラム2014の開催に間に合うようにと出版社に頼み、前日に刷り上がり、インクの匂いの残る新刊書を、PMIフォーラムの書籍コーナーで販売させて頂きました。

うれしそうに販売する執筆メンバーたちの頭の中には、その時すでに次の出版の課題が湧き上がっており、それは2017年に実現することになります。

2015

- 中部ブランチ発足
- 委員会の改組
- 第1回リーダーシップミーティング開催

支部のビジョン、戦略実現に向け組織改革やリーダー育成に着手

主要活動		PMI本部動向	国内の動き	海外の動き
組織	中部ブランチ発足 2015/11	<ul style="list-style-type: none"> ・タレント・トライアングル発表 ・Business Analysis for Practitioners:A Practice Guide (実務者のためのビジネスアナリシス実務ガイド) が基本標準に変更 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全保障関連法が成立 ・マイナンバー制度開始 ・安倍首相が米国議会で演説 ・ラグビーW杯で日本が南アに勝利 ・東芝の巨額不正会計が表面化 経営危機に ・Windows10公開 	<ul style="list-style-type: none"> ・米国とキューバが国交回復 ・パリ同時多発テロ
	支部のビジョン、戦略実現に向け組織改革に着手			
新設部会	組織拡大委員会			
	国際連携委員会			
	PMコミュニティ活性化委員会			
標準・出版	組織的プロジェクトマネジメント成熟度モデル基礎知識 第3版日本語版			
	PMBOK®ガイド第5版ソフトウェア拡張版日本語版			
	PMBOKセミナー副読本PMBOK®ガイド第5版対応			
セミナー	PMI日本フォーラム2015 (リーダーシップ～幾多の困難を乗り越えて成功に導くために～) 7/11-12			
	PMI Japan Festa 2015 (Lead the Way to New Frontiers～未開の地へ踏み出し、未来を創造するリーダーたち～) 11/7-8			
イベント	リーダーシップミーティングLM2015開催 9/12-13 NTT中央研修センター			

中部ブランチ発足

2015年11月、中部地域における日本支部の活動をさらに強化するために、中部ブランチを設立しました。「見つけよう! 地域の発展と幸せにつながるプロジェクトマネジメント」のスローガンのもと、中部地域の取り組みを皆さんと共に見つけ、それらの知識・経験を発信・循環・継承する活動を通じて、プロジェクトマネジメントの大切さを世の中に広めていくことを目指しています。

2015年11月28日に開催した「中部ブランチ設立記念セミナー」では、「PMI拠点開設 ― 世界に窓を開く! さあ輝こう」と題して、このような挑戦の中で見出した中部地域におけるプロジェクトマネジメントに関する先端事例を、



ボランティアスタッフ

中部地域で活躍されている産官学のリーダーをお招きし、講演・発信いただくことができました。

支部のビジョン、戦略を実現するための機構改革

日本支部の変化のみならず、プロジェクトマネジメントを取り巻く社会状況の変化やPMI本部の活動領域の拡大に対応していくために、日本支部の機構改革が必要であるとの認識に至りました。

具体的には、戦略的なテーマに対して理事会が十分な情報収集と検討に基づいて明確な方針を打ち出すこと、支部方針に基づいて事務局等を統制し施策実行に必要なリソースを割り当てること、事務局が実施する業務と会員ボランティアに参加していただく業務を整理し、達成感が得られる活動に会員の方々の積極的な参加を募ること、などを実現できる機構・仕組みを目指していくこととしました。

そこで戦略的テーマの実現を複数の理事で担当し、方針検討や実行策を練ったうえで、理事会で機関決定して、必要なリソースを確保する仕組みを目指すことにしました。

この考え方に基づいて2014年末に組織拡大委員会、国際連携委員会、PMコミュニティ活性化委員会を設置しました。この3委員会と地域サービス委員会を戦略委員会と位置づけました。

リーダーシップミーティングLM2015の開催

日本支部では、PMI本部のLeadership Institute Meeting (LIM) に倣って9月12日、13日にNTT中央研修センターでLM2015を開催し、理事、部会リーダーなど、64名が参加しました。



冒頭、奥澤会長の挨拶に続き、PMI Asia Pacific Service CenterのSoHyun Kang氏に最近の本部の動向・方針を説明していただきました。また、進行中の日本支部機構改革の経緯や方針についてミッション委員会 委員長の端山理事から報告がありました。

午後は慶応大学大学院SDM研究科の白坂成功准教授に「システム×デザイン思考」ワークショップを開催していただきました。協創の効果を実感して参加者全員の一体感が一気に高まりました。

2日目は、グループに分かれて日本支部の重要課題について議論しました。

日本支部初の試みでしたが、理事と部会役員の距離が縮まり、課題と方向性を共有し、創造性を発揮して前向きに行動できるという確信が持てた2日間でした。

2015年の中部ブランチ発足を振り返り今思うこと

中部地域は日本の基幹産業である輸送機器や機械・装置産業をはじめ、じっくりとその道を極めることに長けた地域的・文化的な特徴を持っており、もともとマネジメントの中核であります。支部としてもブランチを立ち上げてより地域に密着してオープンにプロジェクトマネジメントを中心とした情報発信と循環、還元のサイクルを構築できないかと考えておりました。また、地域で活動されていた諸先輩方とこれから社会を背負っていく方々を結び合わせていきたいとの思いも持っておりました。

2015年11月、皆様の想いが結実し、ブランチ発足に至りました。これまで共感して下さった方々が集い、中部にて第一線で活躍されている産業・



中部ブランチ代表
木南 浩司



医療・官公庁の皆様とも各種活動や記念セミナー等で大変意義のあるお話や経験を共有することができました。この場を借りて感謝申し上げます。

今後もこれらの関係を大切にしつつ、さらにプロジェクトマネジメントや関連するマネジメントなど良いところを取り上げ、皆様と一緒にこれらの知見を深めて、さまざまな実課題に適用できるような機会を作っていければと思います。そしてこれらの活動を通じて中部から他の地域や世界に向けてよい活動が広がっていくことを期待しつつ、引き続き皆様とご一緒に活動して参りたいと思います。

リーダーシップミーティング(LM) 開始

部会活動でのリーダーシップ醸成が主目的のLMは、PMコミュニティ活性化委員会にて推進しています。当初、他部会に運営ボランティアの募集があり私は、教育委員会として参加をしました。その他部会からも5名が参加し私が一番年上ということからリーダーになり当麻理事を中心に、6名の運営グループを結成してプロジェクトを開始しました。

LMの内容は、方針・概要は設定されていたものの準備は、殆ど手探り状態でした。プロジェクトマネジメントに精通したメンバーからは、企画・運営方法について積極的な意見を出して頂きましたので、私は適切な役割分担と最終判断をすれば良いという状況でした。

PMコミュニティ活性化委員会
リーダーシップ推進グループ
伊熊 昭等



短期間の準備ながらNTT研修センターで2日間のミーティングを行いました。実際は想定通りにはいかない問題、参加者からの不測の要求などがありましたもののメンバーの献身的な行動と事務局側との連携で無事終了できました。

2016

- 2017～2019中期計画策定
- 新規会員むけオリエンテーション開催
- 国際連携・協業の推進

新体制下でのガバナンス強化とサービスの充実

主要活動		PMI本部動向	国内の動き	海外の動き
組織	PMI日本支部2017-2019中期計画を策定 2019ビジョンステートメントを決定	<ul style="list-style-type: none"> ・PMIがタレント・トライアングルと呼ばれるPMP認定とPDU要件のための新たなコンピテンシー制度を導入 ・オバマ大統領がPMIAA (Program Management Improvement and Accountability Act: プログラムマネジメントの改善と説明責任に関する決議) に署名 	<ul style="list-style-type: none"> ・シャープが鴻海の傘下入り ・熊本地震 ・天皇陛下がお気持ちを発言 ・Pokémon GO国内リリース 	<ul style="list-style-type: none"> ・英国でEU離脱派が勝利 ・リオ五輪 ・日米首脳がそろって真珠湾訪問
	ガバナンス強化のため、戦略運営委員会の設置を決定 (2017年1月より)			
	教育国際委員会発足に向け準備委員会を編成			
新設部会	標準推進委員会			
標準・出版	PMBOK® ガイド第5版ソフトウェア拡張版 実務者のためのビジネスアナリシス:実務ガイド			
セミナー	PMI日本フォーラム2016 (CHANGE&INNOVATIONの時代に何をなすべきか) 7/9-10			
	PMI Japan Festa 2016 (Think outside the box～困難を打開できるプロジェクト・マネジャーに～) 11/5-6			
	月例セミナー (7回)、アジャイルプロジェクトマネジメント・セミナーに加え、デザイン思考コース本格化			
インドネシア支部との初の共催セミナー				
イベント	リーダーシップミーティングLM2016開催 (9/10-11) 新入会オリエンテーション開始 (12月に2回)			

ガバナンスの強化:戦略運営委員会設置へ

2016年度は、引き続き機構改革を進め、標準推進委員会・教育国際化委員会を発足させました。更にガバナンス強化のため、理事会に直結する企画委員会を再編し、従来の「委員会・研究会・プログラムおよびプロジェクトの運営状況を把握し、必要な調整を行う」という責務に加えて、特にミッション委員会との連携及び戦略委員会間の一貫性確保を強化、2017年度から戦略運営委員会として活動できるよう運営内容・方法・規定の検討を行いました。

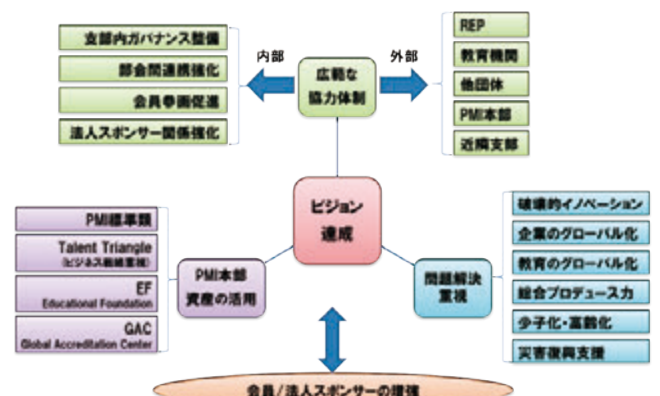
2017～2019中期計画策定

2017年から始まる新しい3ヶ年中期計画の策定にあたっては、新たな機構改革の体制下、各委員会等の協力を得て、次期中期 (2017-2019年) 計画を策定し、11月に理事会承認を得ました。

日本も世界も変革を求められています。技術的な潮流と産業構造の変化を的確に捉えて、変革をリードする人材

には、プロジェクト／プログラム／ポートフォリオのマネジメントの能力が求められます。このような状況を踏まえて2019年末を目指したビジョンを以下の通り定め、多面的な活動を展開して参ります。

日本支部の活動によって、プロジェクトマネジメント／プログラムマネジメント／ポートフォリオマネジメントの必要性や重要性が広く認識され、企業の事業価値達成の手段として活用されている。



ビジョンステートメント達成に向けたアプローチ

新会員オリエンテーション

新規入会者にPMI日本支部の活動を知っていただき、積極的に活動していただくことを目的に、12月に2回に分けて新入会オリエンテーションを開催しました。過去1年以内に新規入会された会員の内、計49名が参加されました。

当日は、①PMIの各種標準、タレント・トライアングル、②PMI日本支部の会員特典、主催セミナー、③PMI日本支部の部会の構成、活動内容、参加方法などを紹介した後、Q&A、交流会を行いました。

多様な部会があり、毎晩、多くの会員が時間を工面してPMI日本支部の会議室に集まり、さまざまなテーマについて議論されていることをお伝えできた結果、それらの活動に非常に興味を持ったという意見を多数いただきました。初めての試みでしたが、日本支部への期待も感じることができ、非常に有意義なオリエンテーションとなりました。

今後は、3カ月に1回のペースで定期開催する予定です。

月例セミナー

セミナープログラムのメンバーが講師選定・折衝・当日運営の全てを務めるセミナーで、現役PMをはじめ将来PMを目指す方々に、PMBOK®にとらわれない広い分野のテーマでスキルアップの機会を提供しています。

2016年も、メール・コミュニケーション術、人間心理(ウソ)を見抜くスキルの伝授、防衛装備庁におけるプロジェクト管理強化事例、全体最適マネジメント理論、TOCによる実践的ノウハウなど多岐にわたるテーマで各界の専門家に登壇いただきました。計8回の聴講者は延べ1,000人近くに上り、90%の方々から高い評価を得ています。また、8回の全てに参加いただいた方11名には年末のセミナー冒頭で表彰させていただきました。

PMI日本支部・インドネシア支部共催セミナーの思い出

IRC研究会では2016年9月にインドネシア支部との共催セミナーを初開催しました。経緯としては、IRCの元メンバーのアンナ・コーディジャさんがキーパーソンとなり先方と調整、快諾が得られ実現の運びとなりました。

事前調整についてはインドネシア支部のハンディ・マトゥンリさんが、現地側のもろもろを調整・準備頂きました。事前準備はほぼメールと週一のSkypeのやり取りで進めました。



事前訪問の記念撮影。中央がインドネシア支部会長のアリスマンさん。左から2人目がIRC副代表のスペカルさん。

当日の場所は、ジャカルタ中心部からやや南のクニンガン・シティ地区のさる会社事務所を借りて行われました。当初40名程度の想定に対し最終的に約60名の参加になりました。

どの講演でも参加者が熱心にメモをとり、質疑応答で活発な質問・意見が飛び交いました。パネルディスカッションでは、日本とインドネシアの共同プロジェクト成功の秘訣について討議が行われ、ここでも質疑応答のセッションが盛り上がり、予定時間を超えての議論が行われました。

IRC研究会
坂本 健太郎



イベントの開催目標として以下を掲げましたが、大盛況のうちに閉幕、ほぼ達成できたと考えています。

- ・外国のPMI支部との交流を通じて、海外情報の収集と日本の情報の発信。
- ・海外PMI支部との協力活動を通じて、長期的な友好関係の構築。
- ・IRC研究会での今までにない活動を通じて、所属メンバーのモチベーション向上と新規メンバーへのアピール。

反省点としては、短時間で実現しようとしたために予算の確保やプロジェクト推進に苦勞、一部のメンバーに負荷が集中してしまいました。次回からは予算化の段階から、多くのメンバーが参加するよう調整・改善したいと思います。



イベント終了後の集合写真。メンバー・ボランティアとも若い人が大変多いです。

2017

- 教育国際化委員会本格稼働開始
- 国際関係・協業の推進
- PMBOK®第6版発売開始
- 地域にとらわれない均等サービス実施

激変するビジネス環境に先手をとれる標準・実践ガイドの拡大と情報発信

主要活動		PMI本部動向	国内の動き	海外の動き
組織	教育国際化委員会を中核としたアカデミック・プログラムの活動を本格化	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトマネジメント専門家の求人需要が今後10年で加速すると予測 (Job Growth and Talent Gap 2017-2027) ・PMBOK® Guide 6th EditionがAgile Practice Guideとセットで発行される ・The PMI Guide to Business Analysis 1st Edition発行 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレミアムフライデー ・働き方改革 	<ul style="list-style-type: none"> ・トランプ大統領就任 ・北朝鮮がミサイルを乱発
	新規会員向けのオリエンテーションを拡充			
戦略運営委員会				
教育国際化委員会				
標準・出版	組織のチェンジマネジメント:実務ガイド PMBOK® ガイド第6版翻訳・監訳 (2018年1月発行)			
セミナー	PMI日本フォーラム2015 (リーダーシップ~幾多の困難を乗り越えて成功に導くために~) 7/11-12			
	PMI Japan Festa 2015 (Lead the Way to New Frontiers ~未開の地へ踏み出し、未来を創造するリーダーたち~) 11/7-8			
	アジャイル実践セミナーの詳細版追加、ファシリテーションセミナー復活			
イベント	新入会オリエンテーション (東京で4回、大阪で1回開催)			
	リーダーシップミーティングLM2017開催 9/2-3			
	部会リーダー交流会を3-4か月間隔で開催開始			

アカデミック・プログラム活動の本格化

アカデミック分野における活動は「プロジェクトマネジメント (PM) に関する知識・素養が、今後社会に求められる人材のジェネリックスキルであることを広く発信し、PM教育の普及を推進する」ことをミッションとして、活動をより発展させるために新たに教育国際化委員会を設置し、2017年1月に産学メンバー15名によって本格的に活動を開始しました。



ワークショップ

コアとなる教育機関向けにアカデミック・スポンサー制度を推進してきましたが、2017年末時点で36の大学院、大学、高等専門学校から、40部門の登録を得ています。

PMIリソースとグローバルネットワークの活用分野では「PMI教育財団 (PMIEF) の Liaison Chapter 登録と活動開始」が特記事項です。

PMI教育財団は小・中・高の教育機関、NPOを対象にPMI本部から独立した財団としてPM教育の普及に努めています。日本支部として長年の懸案だったPMIEFにリエ



アカデミックSP会議

ゾーンに登録することができ、新たに5名のメンバーを委員会に迎え本格的な活動が開始されました。最初の成果としてPMIEFの中のPMの考え方を伝える児童向け冒険小説、「Project Kids Adventure (PKA) シリーズ:全5巻」を翻訳、完成させました。



PMBOK®ガイド第6版発売開始

2017年はPMI®標準類の歴史の中でも画期的な年でした。5種類ある基本標準のうち4種類がほぼ同時に発刊されたのです。最初に「PMBOK®ガイド第6版」が「アジャイル実務ガイド」とのパッケージとして発刊されました。

PMBOK®ガイド第6版の特徴として第一に「プロジェクトは事業計画達成のための手段である」という位置づけを前面に押し出して、そのためにプロジェクト・マネジャーに必要なコンピテンシーと役割を拡張しました。それを

表現したのがタレント・トライアングルです。次いで「プロジェクトマネジメントの中に具体的な開発アプローチを取り入れて拡張」したことが挙げられます。その一つであるアジャイル・アプローチは、ウォーターフォール型とも呼ばれる従来のアプローチでは対処しきれない変化や不確実性の高い領域におけるプロジェクトのひとつの手法として、2000年代の初めに開発され発展してきたものです。

PMBOK®ガイド第6版ではこのアジャイル・アプローチを全面的に取り入れ、プロジェクトマネジメントにおける必須のスキルと定めています。

アジャイル・アプローチは単にモノつくりのためだけのプロセスではありません。それを導入し成功させるためのマネジメント領域として、組織改革まで考慮に入れています。

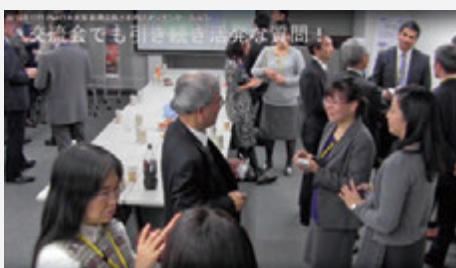
そのためにPMIはアジャイル・アライアンスとの協業で「アジャイル実務ガイド」を作成し、アジャイル・アプローチについて「PMBOK®ガイド第6版」との親和性を確保しながら詳述して、組織へのアジャイル・プロジェクト導入の手引きとしています。



新入会オリエンテーションの立ち上げ

新しく日本支部に加入いただいた個人会員の皆さまに、新入会オリエンテーションを実施しました。この施策はNA-LIMにて他国の支部が実施している事を参考に、日本でも展開する形となりました。毎月多くの方々が入会されており、PMI本部、日本支部、部会活動などご理解いただく機会を設けて、会員である価値を最大限活用して、ご理解いただくことを目的としています。

2017年度は東京で4回、大阪で1回の計5回開催しました。コンパクトに45分の説明と15分のQ&Aに続き、高評価



なネットワーキングがあります。ネットワーキングでは理事、事務局、ボランティア

組織拡大委員会
担当理事
森田 公至



を含めてオープンなコミュニケーションの場が提供され、人との繋がりが拡大することができます。Q&Aなどでも聞けない事など皆さんが積極的にコミュニケーションすることがとても有意義なネットワーキングとなります。またPMP取得にはPDUも発行されます。

今後は新入会者だけでなく、未参加の方々も参加できるよう継続的に開催していきます。

オリエンテーションを通じて、PMI日本支部を支えていただくボランティア拡大に寄与できればと考えています。新入会された方々はぜひ新入会オリエンテーションに参加をお願いします。



第二代事務局長
永谷 裕子

PMI日本支部のマイルストーンに寄せて

私は、長年いくつかの多国籍企業で数多くのICTグローバル・プロジェクトを経験し、PMPを取得しました。自己の経験を活かし、日本のプロジェクトマネジメント力の向上に貢献できる活動をしたと考えるようになり、2005年からほぼ5年間PMI日本支部で事務局長を務めました。当時のPMI東京支部はまだ黎明期であり、支部活動の基盤の整備、PMI本部との連携、日本の企業やPM実務者への支部活動の周知など、多くの事案に向き合い、当時の会長の瀬尾氏や理事の方々と一緒に、試行錯誤しながらも前に進めてきました。

中でも一番苦労したのは、PMI本部との連携でした。PMI本部にとっては、日本支部は世界中の多くの支部の中の一つの支部であり、我々の要求にきめ細かく対応してくれる体制が整っていませんでした。会長や理事と共に粘り強く本部との交渉を重ねていき、少しずつですがPMI日本支部の認知と本部からの協力の取り付けを進めていきました。支部の基盤づくりに多少は貢献できたと思っはいるものの、私の力不足から後に続く方に引き取っていただいた点多々ございました。今はメンバーの一人として、PMI日本支部の発展と20周年というマイルストーンを身近に見ることができるのは嬉しい限りです。

日本のプロジェクトマネジメント力はまだまだ世界の水準には届いていません。毎年、PMIのグローバル・コンGRESSに参加していますが、そこで触れる世界のプロジェクトマネジメントの動向から、日本は多くのものを学び、実践していかなければと痛感しております。

私は東京地方裁判所のIT調停・専門委員として、長年IT紛争に関わっておりますが、紛争に至る主要因は、発注者、ベンダー、双方のプロジェクトマネジメントの実践力の欠如です。そして日本企業がグローバル環境で競争力を保つには、今一度プロジェクトマネジメント(欧米で浸透しているポートフォリオ、プログラム、アジャイル、PMOなど)に真剣に向き合わなければいけません。また女性を含めるダイバーシティを促進する企業文化の変革も急務です。日本には固有のビジネス商習慣があり、欧米式のプロジェクトマネジメントの導入は難しい点が多々ありますが、日本にとって現実的なプロジェクトマネジメントの方法論を提示し、啓蒙するのが、PMI日本支部が果たすべき大きな役割と思います。PMI日本支部には日本のビジネスの発展のために更なる活躍を望んでおります。



第三代事務局長
田坂 真一

事務局長時代を振り返って

2010年4月から2015年12月まで約6年の、支部事務局長としての活動を振り返りたいと思います。現在の日本支部は理事を中心として組織の見直し強化が一層図られ整合性のとれた組織運営がなされていると思いますが、私が事務局長時代は委員会、研究会などの役割が曖昧でした。

私は着任後、8月に現在のセンタービルへ転居しましたが、私の最初の仕事は前ビルのオーナーからの利用方法に対するクレーム処理から始まりました。ほとんど毎日6階のオーナー居住フロアに呼び出され、昨日は電灯がついたままだったとか、施錠後窓に白板がおりてあり居室内が外から確認できなかったなど細かなことを叱られたことが印象に残っています。事務局長って仕事とはこれなの?と思ったものです。引越し後の原状回復でまた揉めてしまい、支部が顧問弁護士と契約するきっかけともなりました。センタービルのオーナーとは私の着任中トラブル・フリーだったことを思えば前ビルのオーナーは特異な方だったのでしょう。

さて本来の事務局長の仕事として以下を目標にして活動しました。日本支部会員を2,800名から3,000名超できれば4,000名に(残念ながら4,000名にはほど遠かったですが3,000名は超えることができました)、法人スポンサー数を安定的に100社超とし(これは達成)、会員・スポンサーへのサービスも改善することでした。追加で各種収支バランスを改善し、継続してプロジェクトマネジメントの啓発活動ができる基盤固めをすることです。

例えば、研究会や委員会活動でボランティアとして貢献している支部会員のPMI日本フォーラム参加費を大きく抑えてベネフィットを感じてもらえるようにしたことや、安定運営を考え同じ会場(学術総合センター)で毎年開催できるように2年先の予約を取るようにしたこと。また、当時のセミナー委員会が主催していたフェスタをボランティア活動として無理のない運営へ検討してもらい、複数トラックから1トラックで提供する形態としてもらったこと。PMI標準書の日本語版の販売価格を支部会員のメリットを享受できる価格とし一般価格との違いを大きくしたこと。法人スポンサー連絡会の参加費を有料から無料としスポンサー・メリットを感じてもらえるようにしたことなどです。最後に関係者の継続的な改善活動をお願いし振り返りとさせていただきます。

PMI日本支部の歴史にNTTデータを重ねて

1998年、PMI東京支部が設立された年、NTTデータも変革を迫られていました。メインフレームからオープンシステムへ事業の軸足を移す決断の年でした。

この変化の中で、プロジェクトマネジメント、そしてPMBOKとPMPが注目を集めました。PMの育成と技量の向上を目的として、PM社内資格制度を立ち上げ、基本知識の確認はPMPを利用することにしました。世界に通用する知識体系と資格制度を利用することで、成長に向けた社員の意欲を引き出し、社内制度に対する信用を高めることができました。以来、PMP日本最多企業の地位を守っています。当初はPMP取得に必要な費用を全面的に会社が負担し、強制に近い圧力も掛けました。現在は、自然体で臨んでいますが、PMP保有者数があまり減らないのは、取得した人達はその価値を認識しており、またお客様からも評価して頂けるからでしょう。

2003年11月に発足したSIコンピテンシー本部は、プロジェクト管理施策の全社推進組織となりました。PMCDF初版が発行された翌年、当時としては聞きなれない「コンピテンシー」を組織名称に掲げて、PMの能力向上を推進しました。上級PMによるメンタリング、社外有識者の講演と社内事例発表を組み合わせたPMセミナーなど、PMI日本支部の施策に倣った育成施策を充実していきました。PMPの数に留まらず、PMの社内コミュニティを通じた質の充実も図ってきました。上級PM社内資格者が講師、メンター、資格認定の審査員を務めるなど、後進育成に積極参加するボランティア精神が高揚したことも、専門家団体たるPMI日本支部に触発されたものと思います。

NTTデータグループは、現在、世界200都市以上に展開し、7割の社員が日本以外に勤務するグローバル企業グループに変貌を遂げました。世界中のお客様に一貫したサービスを提供する上で、PMBOKは共通言語の役割を果たしています。2017年、グローバルに開発方法論を統合し、NTT DATA Core Methodologyを確立しましたが、プロジェクトマネジメント部分はPMBOKに基づいています。PMBOKが当社のグローバル化を支援してくれました。

PMI日本支部の発展と歩調を合わせるように、NTTデータのプロジェクトマネジメントは成熟し、世界に通用する強みとなっています。当社が受けた多くのタイムリーな刺激に感謝し、PMI日本支部設立20周年のお祝いに代えさせていただきます。

PMI東京支部元理事澤源太郎に捧ぐ（2018年3月17日永眠、享年67歳）



PMI日本支部
副会長
端山 毅
(株)NTTデータ

笑ってる場合ですよ！

新任のプロジェクト・マネジャーがオフィスに着くと、前任者に言われました。「君に3通の手紙を書いた。机の引き出しに入れてある。プロジェクトが苦境を迎えたら、1通ずつ開けて、アドバイスに従え」。プロジェクトはやがて納期遅れが問題となり、彼は進捗会議で説明を求められました。思いあぐねて、1通目の手紙を開けました。すると「すべて前任者のせいにしろ」と書いてあります。彼はそのアドバイスに従い、なんとか会議を乗り切りました。翌月、今度は予算オーバーが顕在化し、会議で説明しなければなりません。そこで2通目の手紙を開けると「すべてチーム・メンバーのせいにしろ」と書いてあります。それに従い、今度も会議を乗り切りました。翌月、品質が問題になり、また説明を求められました。そこで3通目の手紙を開けると、そこにあったアドバイスとは、「そろそろ、3通の手紙を用意しろ！」

こんなケースを減らしたいと考え、20年前、プロジェクトマネジメントの研修・コンサル会社を起し、『PMプロジェクトマネジメント』という本を出版しました。『星の王子さま』風にいうと、「日本語のPM本、第1号」です。たまたまPMIのわが国での活動の開始と重なり、多くの人が手に取っていただき、都心の書店でも売り上げ上位にランクされました。

PMIの活動では『PMBOK®ガイド』の邦訳(2-6版)に参加しています。そこでのある委員の述懐が、とりわけ印象に残っています。「あのプロジェクト(第2次銀行オンライン)はきつかった。でも、あの5年間、俺は最高に輝いていた!」。プロジェクトの真髄を物語るメッセージでしょう。

『PMBOK®ガイド』第6版の翻訳は去年、9つの言語の翻訳委員が一堂に会し、欧州で行いました。そこで気づいたことがあります。日本チームの作業がいちばん遅いのです。速いのはラテン系の人たちです。背景に2つの要因があるようです。まず、日本チームは、(私以外)頭脳明晰で、詳細にこだわり、議論を尽くそうとします。対照的なのが(失礼ながら)ラテン系の人たちです。さらに、日本語の語順は、英語と全く違います。その点、ラテン系言語(例えば、フランス語)の語順は英語とほぼ同じで、単語を一語ずつ順に置き換えれば済むという面があります。

PMIで活動する人は、能力とやる気が高く、人間的にも素晴らしい。そんな人たちと刺激し合いながら活動できるのは大きな喜びです。その多くが手弁当(ボランティア)で行われており、これも誇ってよいことと思います。



標準推進委員会
理事
中嶋 秀隆

PMI日本支部 理事・監事・顧問 (2018年度-2019年度)



木下 雅裕 顧問
杉村 宗泰 顧問
平石 謙治 監事
渡辺 哲也 理事
木南 浩司 理事
斉藤 学 理事

井上 雅裕 理事
岩岡 泰夫 理事
高橋 正憲 顧問
森田 公至 理事
麻生 重樹 理事
池田 修一 理事
除村 健俊 理事
福本 伸昭 理事
水井 悦子 理事
鈴木 安而 理事
伊藤 衡 理事
中嶋 秀隆 理事
三嶋 良武 理事
武上 弥尋 理事
渡辺 善子 監事
端山 毅 副会長
片江 有利 副会長
奥澤 薫 会長
浦田 有佳里 副会長
神庭 弘年 監事

PMI日本支部 事務局

プロジェクトマネジメント実践組織や社会の発展に貢献すべく皆様の支援活動をしています。PMI日本支部の最大イベントフォーラムでは全員一丸となり前泊して準備から運営まで担っています。明るく楽しく個性的なメンバーです。



三島 邦彦 Webサイトなどのインフラや、標準書籍の出版、その他いろいろ担当しています。
内橋 勤 アカデミック分野で知恵熱を出し、予算管理でエクセルと格闘しています。
豊田 ちづる 皆様のおかげで日本支部も大人(二十歳)になりました。ありがとうございます。
小藤田 實 法人スポンサー様のお世話係です。
下村 陽子 書籍担当をしています！
石松 浩子 実は経理担当です。
加野 治房 フォーラムと一部の部会セミナーを担当しています。
田中 洋一郎 法人スポンサーと受託研修を担当しています。お客様からの難題に対し、皆様の知恵をお借りしてしのいでいます。
吉田 謙一 20周年記念プログラムPMOと記念誌編集を担当しています。
吉田 一弥 ジャパン DOZEN(12人)の隊長です！
中谷 光夫 セミナー開催に関わる雑用一式を承っています！
西山 かおり 国際関係担当およびサーベイモンキーを使い倒しています。

20周年の節目を迎えて

PMI本部同様に数名のボランティアによって生まれた「PMI東京支部」が20年目を迎えたことを支部会員の皆様と一緒に祝いしたいと思います。設立当初ACTEC様の事務所を間借りして発足、以来沢山のボランティアメンバー、理事、事務局員が一丸となって日本の企業にプロジェクトマネジメントを浸透させるべく活動して参りました。諸先輩方による日々の活動の積み重ねのおかげで、2018年5月には支部会員が4,200名を超え、年間延べ3,000名以上が参加するセミナーを40回以上開催するまでになりました。引き続き、様々な産業界・企業でプロジェクトマネジメントが周知され、その結果日本でのPMP有資格者・支部会員が更に増えるように普及活動を行って参りますのでご支援、ご協力の程お願い申し上げます。



第四代事務局長
吉田 一弥

2

第2章
20周年記念プログラム
内容紹介

20周年記念プログラム
プログラム・マネジャー

浦田 有佳里

20周年記念プログラム

1998年1月16日に日本でPMIの支部が誕生しました。当時は、PMI東京支部という名称でした。2018年の今年がPMI日本支部の創立20周年となります。

2017年4月から20周年記念プログラムの準備を進めることになりました。まずは、ワーキンググループが立ち上がり、片江副会長、森田理事、麻生理事、武上理事、吉田事務局長、私の6名でどのような施策を実施し、体制を作り、進めるかの検討を行いました。他国のPMIの支部では、このような記念の年にどのようなことを行っているか、ほかの日本の団体はどうか、といった情報も踏まえ、これからのPMI日本支部として、会員やPMPの方々にもどのようなことが提供できるかも議論しました。

プログラムの目的は、「プロジェクトマネジメントに関して20周年の機会を広く活用して加速化する」とし、要求事項を作成し、7つの施策を企画しました。

記念誌・記念イベント・記念出版・アクティブメンバー海外動向調査・フォーラム&フェスタの統一テーマ・記念ロゴ・記念グッズです。

体制としては、各施策のリーダーを理事・事務局長が担い、事務局の支援を得て、必要であれば、ボランティアメンバーの募集を行い、進めることとしました。各施策の担当理事は、以下の表のとおりです。

施策	概要	リーダー
記念誌	PMI日本支部の20年を振り返る	片江副会長
記念イベント	20周年を記念し、セミナー、各種イベントを開催	森田理事
記念出版	これからのプロジェクト・マネジャーに求められるコンピテンシーとして、タレント・トライアングルをテーマに書籍出版を行う	斎藤理事 (武上理事)
アクティブメンバー 海外動向調査	海外のPMIイベントにアクティブメンバーが参加する機会を作り、動向調査、帰国後のフィードバックを行う	武上理事
フォーラム&フェスタ (統一テーマ)	フォーラムとフェスタ、20周年として統一テーマにより開催する	麻生理事
記念ロゴ	20周年のロゴを作成し、活用する	吉田事務局長
記念グッズ	20周年を記念したグッズを作成し、進呈・配布を行う	吉田事務局長
予算担当	20周年プログラムと支部全体予算の精査を行う	三嶋理事
20周年プログラム全体	20周年記念プログラム全体を推進する	浦田副会長 吉田(謙) PMO

各リーダーを中心としたステアリング・コミッティーを開催し、20周年記念プログラムをスピーディに進めることとし、理事会へは連携のための報告を行い、必要であれば審議事項として、議題をあげることにしました。

各施策の概要です。

◆記念誌

PMI日本支部の20年を振り返り、時代ごとのトピックを関係者に執筆いただきます。

歴代会長にも支部運営のトピックを執筆いただき、他団体の方々からの祝辞もいただき、掲載します。多数のアクティブメンバーにも執筆いただきます。また、PMIのこれからの10年というテーマでアンケートに回答いただいたアクティブメンバーから選出させていただいた方で座談会を開催し、内容を掲載します。PMI日本の20年が詰まった記念誌は電子版にて配布し、紙媒体でも配布を予定しております。

◆記念イベント

20周年を記念し、記念セミナーの開催、各種イベントの開催を行います。記念セミナーは2018年5月20日に開催し、募集から3日程度で満席となり盛況に進みました。秋には、多くの方々とのコミュニケーションが取れるようなイベントを企画しておりますので、たくさんの方々のメンバーの方々に参加いただければと考えております。

◆記念出版

PMIが提唱するPMI Talent Triangle®をテーマとして、PMIの理事やアクティブメンバーがTalent Triangle®を紐解きます。プロジェクトが単にQCD(品質・コスト・期日)を守るだけでなく、価値を創出することが求められる時代になり、今後のプロジェクトを実行するプロジェクト・マネジャーに必要なコンピテンシー・スキルについて訴求しています。書籍での出版を行います。

◆アクティブメンバー海外動向調査

PMIで実施している海外のイベントにアクティブメンバーが参加する機会を作り、最新の動向調査を

行い、日本にフィードバックする施策です。海外では多数のイベントが開催されていますが、時間、コストの問題があり、なかなか参加することが難しい状況だと思われます。20周年を機会に日本のアクティブメンバーが海外のイベントに参加し、自身のスキルアップのみならず、最新動向の持ち帰りをを行い、日本のプロジェクトマネジメントのレベルアップに貢献します。アクティブメンバーはPMI日本フォーラムの優秀研究会から選出されます。今後も継続して、このような機会を作れればと考えています。

◆フォーラム&フェスタ統一テーマ

フォーラムとフェスタにて20周年の統一テーマを設定し、これからのプロジェクト・マネジャーに必要なセッションを行います。統一テーマは「新しい潮流へのチャレンジ ～境界を越えて～」に決まり、未来に向かって変わり、チャレンジしていく必要性を表現しています。

◆記念ロゴ&記念グッズ

20周年を記念し、これからも飛躍を続けるイメージで羽を模したロゴを作成しました。今年のイベントやお知らせ、グッズにはこのロゴが使われます。記念グッズも多数準備し、会員の皆様やイベントに参加した方々に配布できるよう進めています。また、歴代会長や事務局長へのセレモニーも行います。

以上のような施策を理事・事務局が進めております。皆さまのご参加をお待ちしています。この20周年を記念の年とし、今後のPMI日本支部の発展につながればと考えています。

記念出版プロジェクトを担当して

記念出版プロジェクトは、20周年事業として「PM(プロジェクト・マネジャー)のこれから」に関する情報発信・提言をしていこうという思いから始まりました。

そして書籍のテーマを決める際には「PMIのグローバルでの活動」「日本支部としての強み」「国内のPM実践者のニーズ」を取り込むことを柱に議論を行い、最終的には「Talent Triangle®」に関する書籍にしようということになりました。

Talent Triangle®は、近年PMIがプロジェクト・マネジャーの必須スキルとして提言している概念です。しかしPMIが示しているのはその概要のみであり、概念の詳細や具体的な実践例については関連資料で断片的に紹介されているのが現状です。そこで、日本支部の主要メンバーによりTalent Triangle®を多角的に咀嚼し「次世代プロジェクト・マネジャーの必須スキル」について、PMP取得者をはじめとするPM実践者あるいは多くのビジネス・マネジャーに提言する書籍を出版することになった次第です。

従いまして今回の書籍は「PMI日本支部の英知を結集する」という視点から理事、部会リーダーをはじめとする多くの支部会員の方々にご協力いただいております(執筆者の数も30名以上となりました)。

また書籍としても、検討の際の自由度を高めるという観点から、自主企画としてプロジェクト側で書籍内容を具体的にまとめた上で、出版社と交渉・ご協力頂くという形態をとっております。

実際の作業では、11月の発行に向け、4名のPMOメンバーを中心に約40名のプロジェクトメンバーへの説明、執筆依頼と質問対応、作業進捗の管理を行い、原稿受領後も内容精査や出版社への原稿入稿後の編集作業のリードから販売促進策の企画と実行なども手がけています。まさにひとつの本の「プロデュース」を担当させて頂いたことになりました。

メンバーそれぞれが本業を抱えるなか、多数の執筆者の方々や出版社と様々な調整を行いながら進めたプロジェクト作業はなかなかタフなものではありましたが、一方で、献身的に活動いただいたPMOメンバー、そして書籍の趣旨を理解いただき積極的にご協力いただいた執筆者および関係部会のお力添えのお陰で本書の出版を実現することができました。

この機会を通じて、私自身またひとつ貴重な経験をすることができましたし、PMI日本支部のコミュニティとしての凄さを改めて認識できる機会ともなりました。



組織拡大委員会
担当理事
齋藤 学



PMI日本支部 創立20周年記念セミナー

PMI日本支部は2018年1月16日で創立20周年を迎えました。これを記念してプロジェクト・マネジメントの価値や認知度をさらに高めていくために、『新しい潮流へのチャレンジ～境界を越えて～』をテーマとする記念セミナーを、2018年5月20日(日)に学術総合センター 一橋講堂にて開催いたしました。



当記念セミナーは、PMI日本支部会員・PMI本部会員に限定せず、非会員のみならず、日本国内の36,000名のPMPホルダーの方々にも無料でご参加いただけるよう企画し、ご案内をいたしました。その結果、PMI日本支部公式ホームページにてオンライン受付を開始してから即日で定員に達するなど、多くの皆様にご興味、ご関心を持って頂きながら当日を迎えました。会員と非会員の皆様からそれぞれ240名ずつ、合わせて計480名の方々にご応募をいただき、多くの皆様にPMI活動について広く知っていただける機会となりました。

現在の社会に目を向けると、労働環境の改善は企業のみならず今や国全体の国家的課題となっており、プロジェクトマネジメントを遂行するリーダー自身を含め、プロジェクトに関わる人材についても適切な見直しが必要とされています。一方、産業の発展の礎となる技術ではAIを筆頭に日々変化を遂げるデジタル時代を迎え、プロジェクト・マネジャーはその変化をチャンスと捉え、ビジネスに活かしていく姿勢が求められています。今回の記念セミナーでは、今の時代を代表する前述の2つのテーマについて、第一線で活躍されている方をお招きしてご講演をいただきましたのでご紹介いたします。

まず開会に先立ち、PMI日本支部の奥澤薫会長より、PMI日本支部の成り立ちとPMI日本支部の活動内容、当セミナーのテーマについて話しました。PMI日本支部の会員数はこの20年間で順調に増え続けてい



ますが、設立当初の少人数からスタートして地道な活動を重ねてきた過去を振り返りました。さらには、これからのプロジェクト・マネジャーが期待されることとして、「デジタル社会への対応」や「働き方改革」に先駆けて取り組むこと、そのために考え方やマインドシップをいかに変えていけるかの重要性について触れました。そして当セミナーでは、そのためのヒントを持ち帰っていただけるよう各分野の専門家をお呼びした講演プログラムを実施すること、PMI日本支部として変革の波に乗れるプロジェクト・マネジャーを引き続き支援していくことを開催の挨拶といたしました。

初めの基調講演として、株式会社NTTデータの岩本敏男代表取締役社長に、テーマ「デジタル時代のプロジェクトマネジメント」についてご登壇いただきました。講演ではNTTデータのこれまでの成長と軌跡を辿りながら、社会のデジタル



化が加速していること、テクノロジーがさらなる進化を続け、社会のあらゆる面で恩恵をもたらしている現状が示されました。ビジネスにおいても、これらの要因が様々な変貌を引き起こし、従来の常識では考えられない変化が起り続けていることに触れ、日々変化を遂げるデジタル時代において、テクノロジーの進化をいかに捉えてビジネスに活かすかが今後のカギを握っていると岩本氏は話されました。そして、「例えば、今までのデジタル化の主流であったSMACSでは不十分であり、IoTやAIといったテクノロジーを組み合わせた新たな価値を創造していくことが求められています。特に、2020年には非構造化データが爆発的に増加すると想定されており、単なる「Data」からIoTを利用して「Information」に、そしてAIを組み合わせることで感知・意思決定ができる「Intelligence」を生み出していくことが今後のデジタル化社会の重要なポイントとなります。そのような時代の中でプロジェクト・マネジャーに求められるものとは、『自分は今、何をすべきか?』を常に考えて行動し、挑戦し続けることではないか」とのメッセージが投げかけられました。

続いて、麗澤大学経済学部の下田健人教授より、テーマ「プロジェクトマネジメントと働き方改革」についてご登壇いただきました。現在、国の政策目標に「働き方改革」が定められておりますが、依然として長時間労働が無くならない現状があります。各企業においては、少子高齢化などの環



境変化に対応しながら競争力強化を図っているにも関わらず、この問題は長期化しており解決に至っていません。「労働経済」と「人的資源管理」を専門分野に研究してきた下田氏は、その理由の一つに、生産性が成果のみによって評価される「エグゼンプト」の考慮がないためと強く主張します。長時間労働を統計的に示す指標として労働時間がありますが、エグゼンプトの労働時間を測る術はなく、長時間労働に関する統計結果の読み解きにはこの点で解釈に注意が必要とのことです。また、IT業界においては、長時間労働を生み出す問題点に「不明確な仕様」「プロジェクト途中での仕様変更」「大規模すぎる案件」「短期間の案件」「チャレンジングな案件」「ウォーターフォールモデルに内在する問題」などが主な原因であると下田氏は分析しています。これらの問題を解決するために、仕様変更時のルールをユーザと合意することやRedmineを活用したプロジェクトの見える化などの施策を行っているとの調査結果を下田氏は得ており、変化の激しい社会環境下ではウォーターフォールモデルの限界からアジャイルモデルで開発を行うなどの対応が求められているといいます。今後の働き方改革をさらに推進するためには、厚生労働省が提唱する「働き方・休み方改善ハンドブック」を活用し、エグゼンプトに配慮した取り組みをトップダウンで進めてほしいとの提案が示されました。

3番目の講演では、PMI日本支部の**武上弥尋**理事が、テーマ『「成果を生み出す」という仕事、Disruptive eraを生き抜くPM力』について登壇しました。新時代でのプロジェクト・マネジャーは、AIや関連技術、データ価値の理解、新ビジネスの立案などのスキルが求められます。AIの開発からみれば、従来のウォーターフォールモデルでの開発とは異なる、「変更は是」を前提としたアジャイルモデルでの開発の有効性が認められてきており、「AIにより新しいことをしたい」というユーザが年々増加している傾向があります。そこで、AIの開発において特に押さえておくべき3つのポイントについて武上氏は紹介しました。そのポイントとは、

- ① AIにより得られる顧客のベネフィットを追求し続けること
- ② ベネフィットのロードマップを作成すること
- ③ 定義・実行・維持を繰り返すこと

の3点です。また、成果を生み出し続けるためには、変化は常態として捉え、今までの枠を取り払って柔軟かつ迅速な意思決定が行えるマネジメント力と自律的なチーム作りが不可欠となる点も強調しました。PMI日本支部では、そのような環境を生き抜く力を与える様々なアセットや機会を豊富に提供しており、大いに活用して挑戦してほしいと



のメッセージを伝えました。

最後の講演として、トリプル・ウィン・パートナーズの**目黒勝道**代表より、テーマ「スターバックスで学んだ真のリーダーシップ～チームのパワーを最大限に発揮させるには～」についてご登壇いただきました。スターバックスコーヒージャパンに



て人事開発マネジャーを務めた目黒氏によれば、スターバックスのスタッフの強さは、自ら考え、判断し、行動し、お客様に感動体験を提供することにあります。一人一人が同じビジョンを持って人と人とのつながりを大切にすることで、スタッフ自身の士気が高まり、それがお客様へのサービス向上へとつながっています。ここでとても大切なことは、スタッフが高い満足度をもって取り組んでいるかどうかです。スタッフの満足度が低くはお客様の満足度を高めることが難しく、お客様満足度を上げるためにはスタッフの満足度を高めることが重要です。満足度を高める方法として、

- ① 仕事に対する意義を再確認すること（自分の仕事は何をもたらすかを考える。）
- ② 共に働く仲間として認め合うこと（お互いに尊敬と威厳を持ち、存在を認め合う。）
- ③ 目標達成のためのオーナーシップを持つこと（自律したチームとして強みを発揮できる環境を作る。）

が挙げられます。特にチームを束ねるプロジェクト・マネジャーの立場であるならば、真のリーダーシップを発揮することが求められます。しかしながら、チームパワーを引き出せない多くのプロジェクト・マネジャーにありがちなこととして、ヒト・モノ・カネ・情報をControl（管理）することがリーダーシップであると誤解してしまう点があります。モノ・カネ・情報はControlできて、ヒトをControlで動かすことはできません。真のリーダーシップとは、その言葉通り、ヒトをLead（支援）することを意味します。つまり、チームパワーを最大限に引き出すプロジェクト・マネジャーとは、スタッフの想いを支援し、スタッフの行動をサポートして個の自信、チームの自信へとつながられるマネジャーであることを、真のリーダーシップを発揮するためのヒントとしてお話しいただきました。

閉会の挨拶として、PMI日本支部の浦田有佳里副会長より、本セミナーの総括と20周年プログラムの案内を話し、大盛況のまま幕を閉じました。

また、PMI日本支部のこれまでの活動を振り返ってご紹介させていただき、第一線で活躍されるプロジェクト・マネジャーのみなさまを、PMI日本支部はこれからも引き続き応援し続けることを宣言いたしました。

記念イベントの取り組み

PMI日本支部の創立20周年を記念して、我々は特別プログラムを立ち上げ、様々な記念事業を計画しております。今回の記念セミナーは、その1つとして開催させていただいた最初の記念プロジェクトになります。

当記念セミナーでも講師の方々よりお話しがありましたが、昨今の加速度的な技術進歩には驚かされ、中でも人工知能の発達をもたらす影響は計り知れません。人間の仕事が



コンピュータやロボットに取って代われ、今ある多くの仕事が無くなり、同時に新しい仕事が登場すると予想されます。今後このような局面においても、おそらく人工知能に代替されない仕事の多くは、マネジメントと創造に関わる仕事ではないでしょうか。なぜならば、多様な価値観を理解し、総合的な判断を下し、その責任を引き受けることができるのは機械ではなく人間だからです。PMI日本支部は、新しい時代に求められるプロジェクトマネジメントに向き合い、これからも様々な活動を通して皆様を支援していきます。当記念誌では、PMI日本支部20周年記念プロジェクトの活動報告といたしまして、記念セミナーの開催結果報告をさせていただきました。



20周年記念セミナー
プロジェクトリーダー

川崎 健

ボランティア・パワー

20周年記念セミナー開催にあたり、29名のボランティアの方々、記念プログラム担当理事、事務局の皆様をはじめ多くの方々にご支援いただき、無事開催することができました。記念イベント担当理事として、心より厚く御礼申し上げます。またご登壇いただきました株式会社NTTデータの岩本敏男代表取締役社長、麗澤大学経済学部の下田健人教授、PMI日本支部の武上弥尋理事、トリプル・ウィン・パートナーズの目黒勝道代表には素晴らしいご講演をいただき本当にありがとうございました。

年初より、趣旨に賛同していただいたボランティアの皆さんとプログラム構成、講演内容を検討し、正味3カ月という短い期間にも関わらず成功裏に開催することができたのもグローバルと同様にボランティアパワーの素晴らしさを痛感いたしました。記念イベントとして、家族で参加できるバーベキュー、20周年記念ゴルフコンペ、アクティブメンバーによる記念パーティーなどこれからも多くのイベントを企画中です。ステークホルダーの皆様の参加をお待ちしております。



PMI日本支部を含むPMIの活動は、すべてがボランティアに支えられており、会員ならびに法人スポンサー、関係各位皆様の多大なるご協力・ご尽力のおかげにほかなりません。厚く御礼申し上げますとともに、引き続き当活動へのご理解と温かいご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



20周年記念イベント
担当理事

森田 公至

3

第3章

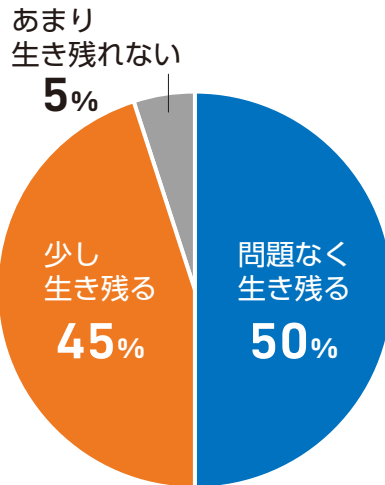
これからの10年アンケート 座談会

AIやロボット時代に

これからのプロジェクト・マネジャーは 生き残れるか？

「生き残れない」プロジェクト・マネジャー

- 自己研鑽しない人
- 現状を変えることに抵抗する人
- AIを上手く活用できないPM
- 既存のやり方を踏襲するだけのプロマネ
- 人間関係が理解できない人や現場の匂いがわからない人
- 頭の固い 思い込みの激しい 自己中心的な 権利主義的なPM
- 従来のやり方や過去のプロジェクトにこだわり変化できない人
- 即断即決できないプロジェクト・マネジャー
- 少ない情報で意思決定できないプロジェクト・マネジャー
- 自分の意思を持たず、ステークホルダーに言われるがままにプロジェクトを遂行するプロジェクト・マネジャー
- 数値データのみで判断するPM コミュニケーション能力の低いPM (顧客、メンバー、メーカー、ベンダーに対して)
- 従来のやり方に固執する人、過去の成功体験にしがみつく人、新しいことにチャレンジしない人
- データを集め分析し、進捗管理と状況報告をするだけなら、生き残れない。
- スケジュールやコストにばかりとらわれて、あまりメンバーの変化などに気付けないマネジャー
- 変化に柔軟に対応できないマネジャー、人の心が理解できないマネジャー、心身ともに不健康なマネジャー
- 組織・業務を把握できない、人を動かすことができない、自己満足、パワハラ的な発言のある方は、メンバーから共感を得られないので生き残れない。
- 火消し、調整役ばかり行うPM。つまり受動的なPMは生き残れません。先見の明を持ち自ら進んで調整したりイノベーションを起こせないPMもおそらく生き残れないでしょう。
- テキスト通り、マニュアル通りでしか考えられない人 自分の考え、軸を持たない人 人間が好きでない人 何でも答えがあると思っている人 お尻の重い人 過去の成功体験に固執している人 権威や権限偏重の人 セクハラ、パワハラに関して自分は大丈夫だと思い込んでいる人 他人を思いやることが出来ない人 (自分は出来ていると思い込んでいる人も)



「生き残れる」プロジェクト・マネジャー

- 変化に対応出来る人
- 経営視点を持つPM
- グローバル環境でイノベーションを創出できるプロジェクト・マネジャー
- コミュニケーション能力が高く、ヒトとヒトを結びつけることができる人
- 人間関係を理解できて、現場の匂いがわかれば生き残れます。
- 不確実な状況においてもベネフィット実現を追求するためにチャレンジできるプロジェクト・マネジャー。なぜならAIやロボットはその実現手段。必要なのはベネフィット実現。

単なるマネジメントだけに特化せず、個々の対話を持ってリーダーシップを発揮していくプロジェクト・マネジャー (AIでは実現出来そうにない)

組織を超えた、またはルーチンワーク以外の業務として、プロジェクトという業務が存在する限り存在しうる。必要な職種。

プロジェクトはどうしても「曖昧さ」「想定外のリスク」を排除できないので、そこはAI等の対応が難しい。

コンサルティングの発想で、クライアントが求める成果は何かを常に考えてプロジェクトを導くPMのみが生き残っていきける。

時代や顧客・社会の変化・ニーズをとらえて、自ら進化し続けることができる人。そしてその進化を周囲に伝搬できる人。

プロジェクトのアウトプットだけでなく、ステークホルダーと共有するアウトカムやベネフィットを理解でき、実現するための実行力を持つPM

人の心を動かせたり、行間を読めるようなマネジャーが生き残ると思う。

柔軟な発想、組織の慣例に囚われない (組織に頼らない)、多様なメンバーを理解できる、これまでを忘れることができる。

機械では判断できない事案に対して、ひらめきと行動力、統率力、ネゴシエーション力をフルに駆使してプロジェクトを纏める力があり、プロジェクトを成功に導けるPM

プロジェクト・マネジャーの3つのスキルのうち、リーダーシップを担うのは、人間にしかできないのではないかと思う。

先を読む力を有し、プロジェクト関係者を巻き込みながら推進できるコミュニケーション能力や胆力を兼ね備えたPM

周りを巻き込み、スコープを変えていけるPM。ゴール設定や人の反応を見て対応するところはAIに置き換えづらいため。

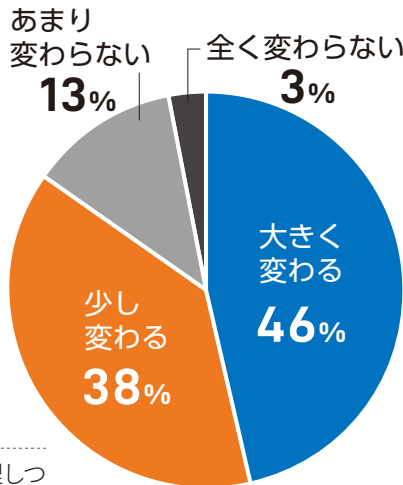
数値には現れない洞察力を有するマネジャーが必要とされる時代になる。

今後の10年でプロジェクト・マネジャーやプロジェクトマネジメントがどう変わるのか展望する座談会実施に先立ち、PMI 日本支部の委員会・研究会・部会・Study Group のアクティブメンバー約120名の回答結果をまとめたものです。女性が13%。
実施期間：2018年3月19日～4月9日

プロジェクトマネジメントは変わるか？

変わらない

古代から続く普遍的な職種だから
機能を生かしてシステムを構築する考えは変わらない。
常に先を想像して動くことはいつの時代でも変わらず、重要
市場のデジタル革命によって、プロジェクトに求められるものの方が変化していく。
プロジェクトは人によって運営されるものであるため、テクノロジーが進んでも俗人的な部分は残っていく。
スケジュールを決め、課題やリスク等を管理しつつ、関係者と会話・調整し、決められたリソースの中で期日までに目標を達成させるという基本的な考え方は変わらないと思うから。



変わる

ほとんどの、陳腐なPMはいらない！
データをもとにした予測は、機械にかなわない。
AIがプロジェクトをマネジメントし、AIをPMがコントロールする。
より経営的なセンスが求められて、時代に対応したプロジェクトマネジメントになると思います。
アジャイルの度合いが強まる。AIを駆使したPM手法が発展する。
期待をこめて。旧来のプロジェクトマネジメントは、人を幸せにする観点が薄いと思うので。

プロジェクトマネジメントはどうなってほしいか？

こうなってほしい

もっと社会の中で重要性が認知されてほしい。
人間の本质に近づいてほしい。
ビジネスの価値や成果を高める手段になりたい。
楽しい人気職種であってほしい。
一般社会にその重要性が認知される。
専門職として、より社会的な地位を向上、確立してほしい。
人対人、人の気持ちをわかることを中心にマネジメントする。
モノづくりの観点の良さに加え、企画力、スピード、柔軟性を兼ね備えることが求められる。
時代によって、変化して行ってほしい。また、プロジェクトマネジメントができる人は次のプログラム、ポートフォリオマネジメントができるように1つのステップアップしてほしい。
日本スタイルから脱却して、魅力ある職業で若手や女性があこがれる（かつ、能力を発揮して活躍できる）ものになってほしい。

むしろ、大きく変わらなければならない。受けるだけのPMだけではなく、世の中や組織を変革することが求められる。

組織を超えた「共創」が中心になり、試行錯誤を許さない限り先に進めなくなる。「計画駆動」が有効な領域は極めて限定的になる。

コンサル/サービス業の色合いが強くなる。平凡な発想だが、顧客のビジネスを理解してプロジェクトにより達成される価値を中心に考えるようになる。

プロジェクト・マネジャーの業務の一部はRPA等に置き換えられる可能性があり、プロジェクトの変化への柔軟な対応や不確実性を前提としたマネジメント手法を適用する必要があるから。

アジャイルに適用できるPM: 広い知識を持ち、組み合わせで新たな価値を創出できるPM: コンセプチュアルスキルが高いPMといったPMの価値が高くなる

活用されるといいな^{思う}もの

このように活用されるといいな

政治 日本という国の運営 政府の予算執行、国際問題の解決手段
健康管理/体調管理データを活用したリソース管理
過疎地域の再活性化、高齢化社会の諸問題の解決
全ての企画局面。これまでは企画以降の局面？
10代前半くらいからの人生設計、生きる目的、目標達成
子育て、介護・リハビリ、終活
地球外に住むこと
家事、但し除く育児
旅行です。音楽や芸術関係などの一見PMと関係なさそうなところも
教育分野。学校行事や研究など様々なところでプロジェクトマネジメントが活用できるので、基礎教養としても取り入れてほしい。

10年後のプロジェクト・マネジャー、プロジェクトマネジメントは どうなるか？

20周年を迎えるにあたり、日ごろ活発に部会活動いただいている方々に集まって頂き、上記テーマで、座談会を実施いたしました。

2018年4月に2回、それぞれファシリテーター2名（松本さん、鬼束さん）と14名の参加者にて活発な意見交換を行いました。

4月19日 第1回座談会



佐藤 賢治郎	大久保 剛	芦名 みちる	山中 良文	川本 貴之	足立 康子	野村 和哉	鬼束 孝則	松本 弘明
PMタレント コンピテンシー 研究会	ソーシャル・ プロジェクト マネジメント 研究会	女性 コミュニティ WomenOBF	プロジェクト マネジメント 研究会	ポートフォリオ/ プログラム 研究会	リスク マネジメント 研究会	PMツール 研究会	ファシリテーター セミナー プログラム	ファシリテーター PMコミュニティ 活性化委員会/ セミナー プログラム

まずは“10年先も残っていくプロジェクト・マネジャー（PM）とはどういう人なのか”を伺いました。



佐藤さんの「新しいPMはビジネスのベネフィットから考えて、そのプロジェクト全体をデザインし色々な状況を見ながらスコープを柔軟に調整していくことができる人。ここはやはりビジネス理解だったり人のハレーションの調整だったりというところで人が介在するとマネジメントが必要になります。そういったところでプロジェクトマネジメントは必要になっていくから、その領域は必ず生き残っていくと思っています。」という意見を皮切りに、複雑な問

題やより多くのステークホルダーをマネジメントする能力に優れている人・広い視野をもって考えられる人などの意見が出ました。

次に“AIのPMはあり得るのか”という問いについて、**川本さん**には「私は無いかな、と。人間だからこそできるクリエイティブなところで、今立ち向かっている問題に対して今回の問題にはこのやり方、この問題にはこのやり方、というように方法論を選ぶ人が私は残ると思います。」と答えて頂きました。他にも、PMがAIを使いこなすという



のはあると思う・各エンジニアを管理するAIマネジャーはあり得るのではないかという意見が聞かれるなか、足立さんと野村さんは、AIマネジャーを使いこなす上で、PMOの業務はまさしく人が行うもので、今まで以上に大事になるという見解を示されました。

“生き残ってほしいPM像はあるか”という質問には、ビジネス感覚を持って戦略に整合してちゃんと考えられる人・技術のわかる人・お客様と対等に接することのできる人といった意見が出ました。

“近年、非常に高度な要求を求められるプロジェクトが増えていますが、マネジメントをする上で重要だと思ふことを、複雑性・スピードの2つのキーワードを用いて



答えてください”という問いに関して、**芦名さん**は「人との繋がり、関わりというのは、凄く大事なことで、複雑でもステークホルダー、キーマンをおさえていくことがスムーズにやれる要素かなと思います。」という返答。他には、いろいろ考えてスピード感をもって対応する能力・経験、常にスピード感を持ったコントロールが必要などの意見が出ました。

次に、“10年後のプロジェクトマネジメントが、具体的にどうなっていると思うか”を伺いました。**野村さん**は「10



年先になると、発注者が全然いなくなって、いるのはステークホルダーばかり。そうなってくると、プロジェクトマネジメントではなくて、リーダーシップがものすごく重要になってくる時代になるのかなと思っています。」のご意見。ツールが変わってAIやRPA (Robotic Process Automation) が

でてくる・ビッグデータを活用した教訓管理が進んでいく、などの意見も聞かれました。

続いて“プロジェクトマネジメントのスキルを、仕事以外の分野に適用・拡大できないのか”という点について話を伺いました。対象者の視点で平易な言葉で教え



れば広がる・PMBOKもよくよく分解してみれば一般的なビジネススキルが書いてあるので、かみ砕けば理解が進むはず、などさまざまな意見が飛び交うなか、**足立さん**からは

「私はよく主婦の友達と旅行に行くことがあり、その計画を立てるのですが、結構リスクを考えないんです。タイムマネジメントはできていないし。そういう方々に具体的なケーススタディとして適用できると思います。」という話も。

“どうすればリーダーシップが高まっていくか”という問いには、**山中さん**が「自分がどういう人間か、そしてこの人にどういうことを言えばアクションを起こすかちゃんと観察しながら、話をする、説得をすることができるかどうかなんです。具体的にどうすればよいかというのは練習でしょうね。」と答えました。他にも、リーダー思考を意識してもらう環境づくり、役割の与え方、自分が何をしたいか明確に語れること、などの意見が出ました。



最後に、“ご自身はこの先10年、プロジェクトマネジメントにどう関わっていききたいか”をお聞きました。

大久保さんは「自分自身の知識とかスキルもアップデートしながら業務に邁進していこうかなと思っています。だんだん成熟化した社会になってシニアも増えていきますし、自分自身もシニアになっていきますから。そうなってくると、そういった領域でもプロジェクトマネジメントの知識やスキルが活用できるような社会になっていって、社会をよくしていくようなことに関わっていけたらいいなと思っています。」と語ってくれました。最後にファシリテーターのお二人からもご意見をいただきました。



鬼束さん「新しいことにチャレンジするコンサル業務をしていく中で、納得のいくトランスフォーメーションで、プロジェクトマネジメントにも関わっていったらいいなと思います。」



松本さん「AIを駆使したセキュリティサービスを生み出し、攻撃者の先回りができる世の中にしたいと思っています。今はセキュリティ業界にいますが、セキュリティとPMの知見を違う領域に活かしていきたいとも思っています。」



4月26日 第2回座談会



吉川 洋太郎	山内 美佐子	谷 徹也	西村 理恵	伊熊 昭等	野々市谷 有里	泉澤 聖一	松本 弘明	鬼束 孝則
プロジェクト マネジメント 研究会	PMO 研究会	ビジネス アナリシス 研究会/ プロジェクト マネジメント 研究会	組織的 プロジェクト マネジメント 研究会	PMコミュニティ 活性化委員会	セミナー プログラム	統合 プロジェクト・ パフォーマンス・ マネジメント (IPPM) 研究会	ファシリテーター PMコミュニティ 活性化委員会/ セミナー プログラム	ファシリテーター セミナー プログラム

最初のお題はプロジェクト・マネジャー (PM) についてです。「生き残る人とはどういう人か」「その理由は」また「AIのPMはあり得るのか」といった観点で、皆さんのお話を伺いました。



吉川さんは「コミュニケーション能力やステークホルダーの管理能力などどれも繋がる場所は『心』なのではないか、だからこそAIがプロジェクトマネジメントそのものをするのは無理なのではないかと思えます。」と述べました。他には、AIを活用してプロジェクトを効率良く回すということはあると思うが、PMはリーダーとして「成功させるぞ!」という“情熱”がとても重要だと思っていて、その点はまだAIは及ばない、AIは今後、同僚になって一緒にやっていけばいいという感覚・社会背景を考えるとPMはどんどん減っていく、生き残るためにどうするかを真剣に考えなくてはいけない、などの声が聞かれました。

これら意見を受けて、「心があり情熱を持っているPMを育成するにはどうしたらいいのか」という問いについて**野々市谷さん**は「PMの育成となると、何かを皆で作りに上げて、成功に向かって頑張っていくのは楽しいよな、という経験を積み重ねていけばそういうPMになるかもしれないですが、育てるとするのは難しいかなと個人的には思っています。」と話されました。他



には、ついてきてくれるのを基本的には待つしかない、教育でどうかしようと思ってもコスト効率が悪い、PMを教育するというのは子供を躾するのと似ている、失敗から学ぶだけでは育たない、ほめて教育する、成功事例を真似したりすると雰囲気が変わってくる、などの意見が出されました。

今後、AIのテクノロジーが発達して、例えばAIのPMとリアルPMを選択できるようになるとして、“AIのPMにメンバーがついて行こうという気になるのか、リアルPMを選ぶのか”を質問しました。

谷さんは「その人達に『憧れ』を持つかどうかだと思えますよね。昨今は、AIで感情分析もできるのでAIのPMも結構いい感情を読んでいるかもしれない。人が動くのが感情で動いて考えるなら、そこに憧れを持つかどうかなのではないかなというのが私の考えです。」とのこと。それを受けて**鬼束さん**は「絶妙な心を読んで、感情を読んで指示をくれるAIのPMができるかもしれないですね。そういう時におそらくそこでまたPMを目指す人、今PMをやっている人間は将来を考えた時に生き残ろうと思うのか、ここからは任せ方がいという風に思うのか、更に分岐点がある。その辺りが今後生き残るPMに求められる要素かなというのが今のお話ですね。」と答えました。





松本さんが「そもそもPMのなり手が出てくるのか」という点で言うと、PMってもちろん大変なこともあるけれど、すごく価値のある・やりがいのある職業ですよ、みたいなアピールができればいいのかな。人がPMをやること自体なくなってくるのでは、という極論な話もあり得るのかな。」という疑問から別角度からの質問。「PMを人がやる価値はあるのか」というところを伺いました。



山内さんからは「最後の意思決定や責任を取るための判断は人間がやらざるを得ない。他に想定外のことについてはAIでは対応できないと思われるので人がやるPMは必要。」という意見が出ました。

次は“プロジェクトマネジメントそのもの、手法について、どう変わっていくか”話を聞きました。

伊熊さんは、「PMBOKというすばらしい知識体系ができたことにより共通のうまく行くやり方・技法は増えてきました。今後も手法や知識はどんどん変わっていくし進化していくと思います。ただ、ヒューマンスキル、とりわけステークホルダーとの円滑なコミュニケーションなどは変わるものではなく、重要。」



西村さんは「技術や手法はプロジェクトによって全然違うし、題材にしているものは違うのですが、でも成果物にビジネス価値を持たせて提供するという点について



は一緒だし、コミュニケーションのとり方などは変わらないと思います。」との意見。他の方々からは、今の会社ではプロジェクトマネジメントという概念がようやく浸透し初めているところなので、変わっていくというよりは、浸透していったほしい、というような意見が出ました。泉澤さんは「AIに雑用的なことはやらせておいて、PMとPMOは意思決定だけ行い、残った時間でビジネス的なことを考える時間に割り振るというようにプロジェクトマネジメントにもビジネス思考が入ってくる。」という見解を示してくれました。



最後に皆さんに“今後プロジェクトマネジメントにどう関わって行きたいか”を伺いました。

伊熊さんは「2016年から760所帯の町内会長になったのですが、年間で60くらいイベントがあったんです。そしてコアな役員が20名、中堅役員が50名いるんですよ。それらをすべて掌握しなければいけなかったので、プロジェクトマネジメント手法を使い、役割分担表とかを作ったので、それを次の会長に引き継ぐのが一つ。もう一つは今ある町内の小学校にプロジェクトマネジメントを教えること。でも教育要綱という大きな壁がある。そして教える人もいない。でもそこに関わって行きたいですね。」とのこと。他にもマンションの管理組合員をやらなくてはいけなくなってしまったので、そこでPMのスキルを使っていこうと思った。プロジェクトマネジメントという手法はすごく良いものだと思いますし、自分の中で活かしているところもあるのですが、周りはそうでないところもあって、そういうところは自分発信で良いところを与えていきたい、などの意見が聞かれました。

皆さん、貴重な意見ありがとうございました。

20周年記念誌 アンケート+座談会の総括

世の中が目まぐるしく変化する中、プロジェクト・マネジャー (PM) に求められるスキルや役割も大きく変化してきています。

今回は、次の10年どう変化していくか?という視点で会員の皆様へアンケートと座談会を行いました。AI元年とも言われる2018年。キーワードとしては、AIによるPM、アジャイルやBRM (Benefits Realization Management)。ビジネス環境の変化への柔軟な対応やAIをうまく活用するといった新しいスキルが必要とされるのでは、という意見が多かったです。顧客期待値の1歩も2歩も先を行く、新しい価値創造ができるPMが求められているのではないのでしょうか。

プロジェクトのQCDを守り、自社(自部門)の都合にばかり目を向けるのではなく、顧客(利用者)の真のビジネス課題の解決にフォーカスする、PM自身の考え方の変革が求められているのだと思います。そして20年後には、AIが真のビジネス課題解決のできるPMとして、人と新しい価値創造のアイデアを競い合う時代が来るかもしれません!

日本では、これまでIT業界を中心としたニッチな世界でプロジェクトマネジメントを使ってきましたが、今やプロジェクトマネジメントは、ある特定の人たちのものではなく全ての人に必要な知識・スキルといえます。専門家である我々がもっと広範囲の方のプロジェクトマネジメントスキル育成に取り組むことも、これからのPMとして必要なアクションではないのでしょうか。



PMコミュニティ
活性化委員会
松本 弘明

20周年、30周年、100周年のOutcome

短期:20周年Outcome

- 全都道府県からの参加
- 東名阪+北+四+九 同時中継のイベント
- 出席者がご当地カップ麺(又はおやつ)を持参、わいわい味見
- PMI会費完全無料化(政府の支援)
- 部会の成果物DBを作り、他の部会メンバーも参照できるようにする
- 全てのWGが有機的につながっている
- 30周年にむけてPMPプラクティショナーのCDMのロードマップが作られる
- Life Shift Management
- PMI更新料コンビ二払い
- 会員全員がSNSやSlackなどで繋がっていて自由にチームを作れる環境
- PMI会員が政府調達の入札要件になる
- PgMP保持者がいることが調達条件
- オンライン専用の研究会
- VR PMIフォーラム
- PMIフォーラムのInternet On Demand
- 行政への提言
- 成人式つながりで行政連携
- PMIJ Agenda 20 発表
- 山手線ジャック(広告)
- 超ローカル線ジャック ➡ 話題作り
- PMIJが人材派遣の認可を受けて全国プロジェクトにPMを派遣するサービス開始
- Webinar In Japan Start!
- PMI日本支部20周年がマスコミに取り上げられる
- ロボット(着ぐるみ)がお出迎え ➡ 30周年は本物ロボット
- プロジェクトマネジメントコンテスト
- PM For Kidsの実現・実施 ☆ASAP
- 子供PM教育セミナーに家族を招待
①マシュマロタワー②運動会、学芸会
☆ASAP(裏面に、“PMief”とお名前6名の記載)
- 部会参加でPDU 12ポイントをプレゼント
- コント・プロマネあるある ブラックITとか
- PMIJ会員総会開催(←ホントに全員だよ)
- 同伴必須(非PMI会員)
- Project of the Year in Japanの募集+日本フォーラムで表彰
- PMIJ Fellowを作る
- エバンジェリスト(伝承者)が全国行脚
- お祭りにPM適用 ➡ ボランティアにPMナレッジ伝授
- PMI総選挙
- PMPファンクラブができ、追っかけがニュースになる
- 新垣結衣がキャンペーンガールに
- アイドルの社会活動を支援 ➡ PMP取得
- 林家たい平がキャンペーンボーイに
- アクティブメンバーの認定基準を明確にし、認定者には名刺を発行する
- 2枚目の名刺を会員に持たせる(役職は問わない)
- (ASAP) ベネフィット提供
- おもしろお祭り
- 存在価値up PMI
- キャリア形成 個人
- 20周年でなくてもやれ
- 40歳以下の理事誕生(比率30%以上)
- シニア割引(65歳以上?)
- 高年齢割増
- シニアPMは労働で会費を支払い(SPM研のシニアPMの集い)
- ボランティア・ポイントでPDU/年金+
- 資格試験の日本語化!!(全て)
- PMI全出版物の全日本語化(1カ月で)
- ゆるキャラ作る
- LINEスタンプ(情報処理学会の真似)
- 年表の発表
- SiriがPM関連の質問に答えてくれる

中期:30周年Outcome

- 全国にランチがある
- 全国の駅にランチがある(駅はコミュニティ、人の交差点)
- 全国ランチをネットで繋いで実施
- PMI AIロボット+PMSサービス
- PM大学設立
- PMPを国際ライセンスにしてパスポートフリーになる
- PMI Orbital Chapter
- PMI Global Chapterの設立
- PgMBOK PfMBOKがPMI日本支部で編纂される
- 国民総PM
- PMI日本フォーラムの参加者 ユーザーが50%以上!
- 人工知能による即時翻訳(出版物)
- Life Managementのコモディティ化
- プロジェクトマネジメントRPGゲームを開発、サービス開始
- PMPホルダー日本で3千万人突破
- プロジェクトマネジメントを義務教育科目に!
- 小学生向け資格を作る
- PMPがプロジェクトマネジメント プラティックショナーになっている
- 20周年にウイスキーを仕込み、30周年に売る
- 全業種拡大
- 50周年も考えて欲しい
- 政府が全ての施策をPPPMで実施
- PMPはFAIになっている(会社に属しない)
- 親子で参加
- 森の教室
- PMIJがPMI-HQになる
- P5MI ①プロジェクト ②プログラム ③ポートフォリオ ④プラティックショナー ⑤ピープル
- 中高校の教材にPMBOKガイドが使われている
- スターPM(PMIの社会的成功者)
- 若手向けPM学習ガイド
- PMが子供が将来なりたい職業No.1になる
- フォーラムが仮想現実化

“20周年で終わらせない”

長期:100周年Outcome

- 普通の人がPMIJに寄付するようになる
- PM脳育成プログラム
- 5名/ランチメンバーの参加
- PMI無料オンライン教育プログラムの提供
- PMIJがブランドになる
- 日本の人口の50%がPMPホルダー
- 神庭元会長、奥澤元会長に“文化勲章”授与される
- 初の人類外メンバー入会
- PMI出身者が国会議員になる (PM普及させる)
- 小学校のカリキュラムにProject Managementが必須になる
- 企業の社員に取らせたい資格ランキング PMP第1位
- PMオリンピック (仕事、スポーツ、料理、学校、あらゆる分野別)
- PPPMが経営学を内包
- 経産省とのつながりを持つ
- PMに代わる新しい考えが生まれる
- 昇進者が続出 (メンバーでいることがステータスになる)
- 会員が5,000人を超える
- PMIJ Officeビルを持つ
- 事務局50名体制
- 年間30冊の本を発刊
- 世界のリーダー、イノベーションの発信基地となる
- 運営・企画はロボット
- メディアに取り上げられる
- 海外からの参加
- イベント参加者が毎回増加
- 日本支部が世界で2番目にメンバーが多い
- PMI日本支部のランチが200カ所達成
- Life Management Professional
- PM業務の過半をAIで実行
- PM普及しすぎてPMI解散 (やることなくなりました)
- プロジェクトマネジメントがあたりまえの普遍的知識になり、PMI・PMIJが不要になる
- PMI Mars Chapter
- PMI電脳Chapter
- テレパシーを使ったPM
- 100歳以上の現役PM
- 地球外生命体とのコラボ!?
- LM2017が伝説になる

この展望は「PMI日本支部リーダーシップミーティングLM2017」で、参加者65名から集まったアイデアをまとめたものです。ワークショップの休み時間や夕食時間に、参加者全員でいろいろなアイデアを出しました。アイデアはどんどん膨らみ、夜遅くまで議論は尽きませんでした。





20周年記念誌
編集委員長

片江 有利

20周年記念誌の編集に携わって

今回20周年記念誌発刊に当たり、PMI日本支部の発展に多くの方のご尽力があったことを記録として残せたこと、さらに「20周年史」に加え次の10年を見据えたアクティブメンバーアンケートや座談会を掲載できたことは、20周年記念事業として意義深いものとなったと自負しております。編集長としてご寄稿いただいた皆様に改めて感謝申し上げます。特に資料が散逸している創設期については、当時の資料をご提供いただき、原稿作成にもご尽力いただいた初代事務局長 清水計雄氏には重ねて御礼申し上げます。

20年の節目は創設にかかわった皆様の高齢化が進む現在、資料や記憶をまとめるには良い機会であったと思います。ご寄稿いただきたかった方、吉沢正文様、澤源太郎様、大久保賢吉郎様、他何名の方は鬼籍に入られて叶わなかったことが残念です。またご依頼しましたがご多用で執筆を見送られた方もいらっしゃる、思い出、コラムの執筆者もすべてを網羅していないのご意見もあるかもしれませんがご容赦いただきたく存じます。

今回記事執筆に当たり、過去の資料を紐解いたことは、支部の歴史を振り返るとともに自分が支部とどのように関わってきたかを振り返る機会ともなりました。

私と支部との関りは、初代会長の西野弘氏と長年の友人であったことから、彼が支部創設に関心を持った時代に遡ります。マイクロソフトのビル・ゲイツ氏と成毛眞氏との会話からプロジェクトマネジメントに興味を持って、米国の大会に参加した直後に、PMIの説明資料やPMBOK®1996年版を見せられ、熱心に説明を受けたことを思い出します。西野氏は日本に欠けているマネジメント、特にIT関連のマネジメントの日本への導入に向け尽力しており、PMI東京支部だけでなくitSMF Japan設立にも参画されました。西野氏はいきなり支部設立に進んだ訳ではなく、まず研究会を設立して必要性等を検証することにしました。研究会メンバーには、西野氏のプロシードのパートナーである西健氏や当時は電機メーカーに在籍後にプロシードに転じた大川氏などが参加されていました。確か2年程研究会をやっていたと記憶しています。この研究会メンバーが東京支部設立、黎明期の理事として活躍することになります。私は残念ながら損保が生保に進出するプロジェクトの繁忙期で研究会には参加できず、議事録を参照する程度でした。しかしこの研究会の実績を梃に支部設立に動いている等の情報には接しており、1998年に支部設立に漕ぎつきました。その後の経緯は20周年史の通りです。

私は縁あってプロシードに転職後、2006年の後半からPMI東京支部の理事となりました。情報宣伝委員会、ミッション委員会、企画委員会に参画し歴史の一端を担ってきました。

私の思い出としては、情報宣伝委員会担当の時は、メンバーと一緒に、ニューズレターの企画、記事執筆、編集、校正を行いました。創設当時のニューズレターを制作されていた喜多河さんもメンバーにおられ、貴重なお話を伺うことができました。支部設立当初からニューズレターは発行されており、会員への情報提供を担ってきました。情報宣伝委員会のメンバーとは、編集会議後の飲み会、逗子の合宿等多くの思い出があります。次のミッション委員会では、2013年から15年までの中期計画を策定しました。広範な施策を盛り込んだ中期計画であったため、その実現を図るためには、委員会の機能見直しや再編が必要ということで、後を引き継いだ端山副会長等と協力し現在の組織に改編を行いました。また支部のリーダーシップミーティングを企画したことも思い出に残っています。PMIAPに交渉しプレゼンをお願いしたり、初回の企画の骨格を作り、PMコミュニティ活性化委員会、ボランティアによる実行委員会の皆様に運営をお願いしました。その後回を重ね順調に発展しています。いままたミッション委員会を担当して、2019年からの中期計画を策定しなければなりません。今回20周年を振り返って支部の足跡を確認し、次の10年に向けてアクティブメンバーの皆様の支部への思いをアンケートや座談会としてまとめ直接触れることができたことは、中期計画策定にとっても意義ある企画となりました。

最後にこの20周年記念誌の編纂に当たっては、事務局の吉田(謙)さん、豊田さんに事務局業務に加え、多大な作業をお願いしました。またPMコミュニティ活性化委員会の松本さん、セミナー研究会鬼束さんにはこれからの10年アンケート、座談会の企画、運営をお願いしました。この他20周年記念セミナーについてはボランティア記者の方に記事を執筆いただきました。皆様のご協力に感謝して編集後記に代えさせていただきます。

PMI日本支部 理事および事務局長一覧

年度	会長	副会長	理事(顧問※)			監事(前会長*)	事務局長
1998	西野 弘 (1月~4月) 山根 孟 (5月~)		花市 穎悟 大川 清人 松井 大悟	酒井 孝 西 健 大浦 博久	田村 宥 水谷 敏則	西野 弘* (5月~)	
1999	山根 孟		西野 弘 田村 宥 西 健	花市 穎悟 酒井 孝 大浦 博久	松井 大悟 大川 清人 水谷 敏則	西野 弘*	清水 計雄 (10月~)
2000	山根 孟		花市 穎悟 大川 清人 小野 和日児	酒井 孝 西 健 澤 源太郎	瀬尾 恵 水谷 敏則 瀬戸口 静美	西野 弘*	清水 計雄
2001	山根 孟		花市 穎悟 大川 清人 小野 和日児	酒井 孝 西 健 澤 源太郎	瀬尾 恵 水谷 敏則 瀬戸口 静美	西野 弘*	清水 計雄
2002	瀬尾 恵		青木 富夫 玉田 博亮 斉藤 博	大川 清人 徳永 礼 高階 寛雄	河村 秀夫 水谷 敏則 安田 和司	山根 孟*	清水 計雄
2003	瀬尾 恵		青木 富夫 玉田 博亮 斉藤 博	大川 清人 徳永 礼 高階 寛雄	河村 秀夫 水谷 敏則 安田 和司	山根 孟*	清水 計雄
2004	瀬尾 恵		青木 富夫 豊田 高司 川村 敏郎 大小田 隆	中矢 弘明 島崎 理一 渡辺 善子	大久保 賢吉郎 水谷 敏則 西田 寿起	山根 孟*	清水 計雄
2005	瀬尾 恵		青木 富夫 豊田 高司 寺尾 実 大小田 隆	中矢 弘明 島崎 理一 渡辺 善子	大久保 賢吉郎 水谷 敏則 西田 寿起	山根 孟	清水 計雄 (~7月) 永谷 裕子 (8月~)
2006	瀬尾 恵		青木 富夫 島田 求 島崎 理一 渡辺 善子 本間 利久	中矢 弘明 片江 有利 水谷 敏則 清水 計雄 品川 正典	大久保 賢吉郎 端山 毅 寺尾 実 神庭 弘年 渡辺 裕	山根 孟	永谷 裕子
2007	瀬尾 恵		青木 富夫 島田 求 寺尾 実 神庭 弘年	中矢 弘明 片江 有利 渡辺 善子 本間 利久	大久保 賢吉郎 端山 毅 清水 計雄 品川 正典	山根 孟	永谷 裕子
2008	神庭 弘年		青木 富夫 平石 謙治 寺尾 実 瀬尾 恵 品川 正典	上阪 恒雄 片江 有利 渡辺 善子 本間 利久 畑 義和	高橋 正憲 端山 毅 清水 計雄 加納 敏行	大久保 賢吉郎	永谷 裕子
2009	神庭 弘年		青木 富夫 平石 謙治 寺尾 実 瀬尾 恵 畑 義和	上阪 恒雄 片江 有利 渡辺 善子 本間 利久	高橋 正憲 端山 毅 清水 計雄 加納 敏行	大久保 賢吉郎	永谷 裕子
2010	神庭 弘年		片江 有利 会田 雄一 加納 敏行 本間 利久 平石 謙治 奥澤 薫	端山 毅 青木 富夫 当麻 哲哉 高橋 正憲 川本 芳信	弓削 公樹 三嶋 良武 杉村 宗泰 渡辺 善子 上阪 恒雄	大久保 賢吉郎	永谷 裕子 (~3月) 田坂 真一 (4月~)

PMI日本支部 理事および事務局長一覧

年度	会長	副会長	理事(顧問※)			監事(前会長*)	事務局長
2011	神庭 弘年		片江 有利 会田 雄一 加納 敏行 本間 利久 平石 謙治 奥澤 薫	端山 毅 青木 富夫 当麻 哲哉 高橋 正憲 松井 慶康	弓削 公樹 三嶋 良武 杉村 宗泰 渡辺 善子 上阪 恒雄	大久保 賢吉郎	田坂 真一
2012	神庭 弘年	奥澤 薫 (2月~) 本間 利久 (7月~)	片江 有利 福島 博文 加納 敏行 本間 利久 平石 謙治 奥澤 薫	端山 毅 福本 伸昭 当麻 哲哉 高橋 正憲 徳永 幹彦	弓削 公樹 三嶋 良武 杉村 宗泰 渡辺 善子 除村 健俊	大久保 賢吉郎	田坂 真一
2013	神庭 弘年	奥澤 薫 本間 利久	片江 有利 福島 博文 加納 敏行 本間 利久 平石 謙治 奥澤 薫	端山 毅 福本 伸昭 当麻 哲哉 高橋 正憲 徳永 幹彦	弓削 公樹 三嶋 良武 杉村 宗泰 渡辺 善子 除村 健俊	大久保 賢吉郎	田坂 真一
2014	奥澤 薫	片江 有利	端山 毅 福本 伸昭 当麻 哲哉 高橋 正憲 徳永 幹彦	麻生 重樹 三嶋 良武 杉村 宗泰 竹内 正興 除村 健俊	中嶋 秀隆 木下 雅裕 本間 利久 武上 弥尋 神庭 弘年	大久保 賢吉郎 渡辺 善子	田坂 真一
2015	奥澤 薫	片江 有利	端山 毅 福本 伸昭 当麻 哲哉 高橋 正憲 徳永 幹彦	麻生 重樹 三嶋 良武 杉村 宗泰 竹内 正興 除村 健俊	中嶋 秀隆 木下 雅裕 本間 利久 武上 弥尋 神庭 弘年	渡辺 善子 平石 謙治	田坂 真一 (~9月) 吉田 一弥 (10月~)
2016	奥澤 薫	片江 有利 端山 毅	麻生 重樹 三嶋 良武 杉村 宗泰 竹内 正興 除村 健俊 木南 浩司	中嶋 秀隆 森田 公至 鈴木 安而 武上 弥尋 井上 雅裕 斉藤 学	福本 伸昭 当麻 哲哉 高橋 正憲 徳永 幹彦 浦田 有佳里	神庭 弘年 渡辺 善子 平石 謙治	吉田 一弥
2017	奥澤 薫	片江 有利 端山 毅	麻生 重樹 三嶋 良武 杉村 宗泰 竹内 正興 除村 健俊 木南 浩司	中嶋 秀隆 森田 公至 鈴木 安而 武上 弥尋 井上 雅裕 斉藤 学	福本 伸昭 当麻 哲哉 高橋 正憲 徳永 幹彦 浦田 有佳里	神庭 弘年 渡辺 善子 平石 謙治	吉田 一弥
2018	奥澤 薫	片江 有利 端山 毅 浦田 有佳里	麻生 重樹 三嶋 良武 岩岡 泰夫 池田 修一 除村 健俊 斉藤 学 高橋 正憲※	中嶋 秀隆 森田 公至 鈴木 安而 武上 弥尋 井上 雅裕 杉村 宗泰※	福本 伸昭 伊藤 衝 水井 悦子 渡辺 哲也 木南 浩司 木下 雅裕※	神庭 弘年 渡辺 善子 平石 謙治	吉田 一弥

スポンサー一覧

法人スポンサー (104社)

アイアンドエルソフトウェア株式会社
アイシंक株式会社
株式会社アイ・ティ・イノベーション
株式会社アイ・ティー・ワン
株式会社アイテック
株式会社アイ・ラーニング
アクシスインターナショナル株式会社
株式会社アジャイルウェア
伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
株式会社インテック
株式会社インテジテクノスフィア
株式会社HS情報システムズ
株式会社HGSTジャパン
株式会社エクサ
SCSK株式会社
NECネクサソリューションズ株式会社
株式会社NSD
NCS&A 株式会社
株式会社NTTデータ
株式会社NTTデータ アイ
株式会社NTTデータ関西
株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・フロンティア
株式会社NTTデータユニバーシティ
NDIソリューションズ株式会社
MS&ADシステムズ株式会社
株式会社エル・ティー・エス
株式会社大塚商会
株式会社オーシャン・コンサルティング
関電システムソリューションズ株式会社
キヤノンITソリューションズ株式会社
クオリカ株式会社
株式会社クレスコ
Kepner-Tregoe Japan, LLC.
株式会社建設技術研究所
株式会社神戸製鋼所
コベルコシステム株式会社
コンピューターサイエンス株式会社
株式会社ジェーエムエーシステムズ
株式会社JSOL
JFEシステムズ株式会社
JBCC株式会社
株式会社シグマクス
株式会社システムインテグレーター
株式会社システム情報
システムスクエア株式会社
株式会社 シティアスコム
情報技術開発株式会社
新日鉄住金ソリューションズ株式会社
住友電工情報システム株式会社
セブンスカイズ株式会社
ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社
ソフトバンク・テクノロジー株式会社
SOMPOシステムズ株式会社
TAC株式会社

株式会社タリアセンコンサルティング
TIS株式会社
TDCソフト株式会社
東芝インフォメーションシステムズ株式会社
東芝テック株式会社
株式会社東レシステムセンター
株式会社トヨタコミュニケーションシステム
株式会社TRADECREATE
日揮株式会社
ニッセイ情報テクノロジー株式会社
日本アイ・ピー・エム株式会社
日本アイ・ピー・エム・ビズインテック株式会社
株式会社日本ウィルテックソリューション
日本クイント株式会社
日本システムウエア株式会社
日本自動化開発株式会社
日本証券テクノロジー株式会社
日本情報通信株式会社
日本電気株式会社
日本電子計算株式会社
日本ビジネスシステムズ株式会社
日本ヒューレット・パッカード株式会社
日本プロセス株式会社
日本ユニカ・システムズ株式会社
日本ユニシス株式会社
株式会社ネクストスケープ
株式会社ネットラーニング
株式会社野村総合研究所
ビジネステクノクラフツ株式会社
日立INSソフトウェア株式会社
株式会社日立インフォメーションアカデミー
株式会社日立産業制御ソリューションズ
株式会社日立システムズ
株式会社日立製作所
株式会社日立ソリューションズ
日立物流ソフトウェア株式会社
株式会社富士ゼロックス総合教育研究所
富士電機株式会社
プラネット株式会社
株式会社マネジメントソリューションズ
三菱スペース・ソフトウェア株式会社
三菱総研DCS株式会社
株式会社三菱総合研究所
三菱電機株式会社
ラーニング・ツリー・インターナショナル株式会社
株式会社ラック
株式会社リクルートテクノロジーズ
株式会社リコー
リコー・ジャパン株式会社
株式会社ワコム

行政スポンサー (2組織)

滋賀県大津市役所 市民部
三重県桑名市

アカデミック・スポンサー (42組織)

青山学院大学 国際マネジメント研究科
明石工業高等専門学校建築学科大塚研究室
愛媛大学工学部および大学院
理工学研究科工学系
大阪大学 大学院工学研究科
ビジネスエンジニアリング専攻
大阪府立大学 21世紀科学研究機構
産学協同高度人材育成センター
岡山大学 教育研究プログラム戦略本部
戦略的プログラム支援ユニット (URA)
鹿児島大学産学官連携推進センター
金沢工業大学
川崎医療福祉大学 医療福祉マネジメント学部
医療秘書学科および大学院医療秘書学専攻
九州大学 大学院芸術工学科
デザインストラテジー専攻
京都光華女子大学
京都工芸繊維大学
ものづくり教育研究支援センター
慶應義塾大学 大学院
システムデザイン・マネジメント研究科
慶應義塾大学・理工学部・管理工学科・飯島研究室
神戸女子大学 家政学部家政学科
サイバー大学
札幌学院大学
サレジオ工業高等専門学校
一般教育科 物理教育学研究室
産業技術大学院大学
芝浦工業大学
就実大学 経営学部 経営学科
国立高等専門学校機構 仙台高等専門学校
千葉工業大学 社会システム科学部
プロジェクトマネジメント学科
中央大学 文学部 社会情報学専攻
中京大学 情報センター
学校法人 中部大学 経営情報学部
筑波大学 大学院 システム情報工学研究科
コンピュータサイエンス専攻
東京工科大学 大学院 コンピュータサイエンス専攻
公立大学法人 公立ほこだて未来大学
国立高等専門学校機構 八戸工業高等専門学校
広島修道大学 経済科学部
公立大学法人 広島市立大学 情報科学部
法政大学 専門職大学院
イノベーション・マネジメント研究科
北陸先端科学技術大学院大学
知識マネジメント領域
北海道情報大学
北海道大学 サステイナビリティ学
教育研究センター
北海道大学 大学院情報科学研究科
山口大学 工学部知能情報工学科
山口大学 大学院技術経営研究科
国立研究開発法人 理化学研究所
多細胞システム形成研究センター
早稲田大学ビジネススクール
早稲田大学 理工学術院 基幹理工学部
情報理工学科

PMI日本支部 (PMI東京支部) 発行の出版書籍一覧

No.	書名	原著	著者	監訳	発行	出版
1	PM用語 英和对訳集 第1版		プロジェクトマネジメント学会 研究委員会		PMI東京(日本)支部	1999年10月
2	PM用語 定義辞典 第1版		PMI東京(日本)支部 用語辞典編纂委員会		PMI東京(日本)支部	2000年4月
3	プロジェクトにおける決定分析	Decision Analysis in Projects	John R. Schuyler	PMI東京(日本)支部	PMI東京(日本)支部/ (財)先端建設技術センター	2000年6月
4	プロジェクトマネジメント 知識体系ガイド(PMBOK®ガイド) 2000年版	A Guide to the Project Management Body of Knowledge 2000 Edition	Project Management Institute, Inc.	PMI東京支部	Project Management Institute, Inc.	2002年12月
5	アーンド・バリューによる プロジェクトマネジメント 第2版	Earned Value Project Management, Second Edition	Quentin W. Fleming / Joel M. Koppelman	PMI東京(日本)支部	日本能率協会 マネジメントセンター	2004年5月
6	PMP教科書 問題集 Project Management Professional	Project Management Professional	Craudia Baca	PMI東京(日本)支部	翔泳社	2004年6月
7	PMP教科書 直前対策 Project Management Professional	Project Management Professional	David A. Francis	PMI東京(日本)支部	翔泳社	2004年8月
8	PMBOK®問題集 PMBOK®ガイド 2000対応	Q & As for the PMBOK® Guide 2000 Edition	Project Management Institute, Inc.	PMI東京(日本)支部	PMI東京(日本)支部/ 株式会社アイテック	2004年9月
9	プロジェクトマネジャー コンピテンシー開発体系	Project Manager Competency Development Framework	Project Management Institute, Inc.	PMI東京(日本)支部	株式会社テクノ	2004年11月
10	PMP教科書 Project Management Professional 第2版	PMP:Project Management Professional Study Guide, 2nd Edition	Kim Heldman	PMI東京(日本)支部	翔泳社	2004年12月
11	プロジェクトマネジメント 知識体系ガイド(PMBOK®ガイド) 第3版	A Guide to the Project Management Body of Knowledge Third Edition	Project Management Institute, Inc.	PMI東京支部 PMI TVC	Project Management Institute, Inc.	2005年2月
12	PMBOKガイド第3版レファレンス		PMI東京支部		PMI東京支部	2005年8月
13	プロジェクトマネジメント オフィス・ツールキット	The Project Management Office Toolkit	Jolyon Hallows	PMI東京支部	株式会社テクノ	2005年11月
14	プロジェクトマネジメント用語集	Project Management Terminology	Project Management Institute, Inc.	PMI東京支部 PMI TVC	Project Management Institute, Inc.	2006年
15	PMP教科書 Project Management Professional 第3版	PMP:Project Management Professional Study Guide, 3rd Edition	Kim Heldman	PMI東京(日本)支部	翔泳社	2006年1月
16	PMBOK®問題集 PMBOK®ガイド第3版対応	Q & As for the PMBOK® Guide Third Edition	Project Management Institute, Inc.	PMI東京支部	PMI東京支部/ 株式会社アイテック	2006年4月
17	プロジェクトマネジメント プリンシプル	The Principles of Project Management	Project Management Institute, Inc.	PMI日本支部	株式会社アイテック	2006年9月
18	ソフトウェアプロセス改善のROI	ROI of Software Process Improvement	David F. Rico	PMI東京支部	株式会社テクノ	2006年10月
19	ダイナミック・スケジューリング	Dynamic Scheduling With Microsoft Office Project	Eric Uyttewaal	PMI東京支部	株式会社テクノ	2006年11月

No.	書名	原著	著者	監訳	発行	出版
20	プロジェクトマネジメント・ツール・ボックス	Project Management ToolBox Tools and Techniques for the Practicing Project Manager	Dragan Z. Milosevic	PMI東京支部	鹿島出版会	2007年3月
21	ポートフォリオマネジメント標準	The Standard for Portfolio Management	Project Management Institute, Inc.	PMI東京支部	PMI東京支部	2007年9月
22	アーンド・バリュー・マネジメント実務標準	Practice Standard for Earned Value Management	Project Management Institute, Inc.	PMI東京支部	PMI東京支部	2007年11月
23	プロジェクト・マネジャーの人間術	Essential People Skills for Project Managers	Steven W.Flannes / Ginger Levin	PMI東京支部 / 吉沢正文	株式会社アイテック	2007年11月
24	プログラムマネジメント標準	The Standard for Program Management	Project Management Institute, Inc.	PMI東京支部	PMI東京支部	2008年3月
25	OPM3 組織的プロジェクトマネジメント成熟度モデル基本知識	Organizational Project Management Maturity Model Knowledge Foundation	Project Management Institute, Inc.	PMI東京支部	PMI東京支部	2008年8月
26	ワーク・ブレイクダウン・ストラクチャー実務標準 第2版	Practice Standard for Work Breakdown Structure Second Edition	Project Management Institute, Inc.	PMI東京支部	新技術開発センター	2008年8月
27	戦略的PMO		PMI日本支部		オーム社	2009年5月
28	プログラムマネジメント標準 第2版	The Standard for Program Management Second Edition	Project Management Institute, Inc.	PMI日本支部	PMI日本支部	2009年10月
29	ポートフォリオマネジメント標準 第2版	The Standard for Portfolio Management Second Edition	Project Management Institute, Inc.	PMI日本支部	PMI日本支部	2009年10月
30	プロジェクト・マネジャー・コンピテンシー開発体系 第2版	Project Manager Competency Development Framework Second Edition	Project Management Institute, Inc.	PMI日本支部	PMI日本支部	2009年10月
31	組織的プロジェクトマネジメント成熟度モデル (OPM3®) 第2版	Organizational Project Management Maturity Model (OPM3®) Second Edition	Project Management Institute, Inc.	PMI日本支部	PMI日本支部	2009年10月
32	スケジューリング実務標準	The Practice Standard for Scheduling	Project Management Institute, Inc.	PMI日本支部	PMI日本支部	2009年10月
33	プロジェクトマネジメント知識体系ガイド (PMBOK®ガイド) 第4版	A Guide to the Project Management Body of Knowledge Fourth Edition	Project Management Institute, Inc.	PMI日本支部 PMI TVC	Project Management Institute, Inc.	2009年12月
34	PMBOK®問題集 PMBOK®ガイド第4版対応	Q & As for the PMBOK® Guide Fourth Edition	Project Management Institute, Inc.	PMI日本支部	PMI日本支部 / 株式会社アイテック	2010年5月
35	PMBOK®第4版レファレンス		PMI日本支部		PMI日本支部	2010年5月
36	プロジェクト・リスクマネジメント実務標準	Practice Standard for Project Risk Management	Project Management Institute, Inc.	PMI日本支部	PMI日本支部	2010年6月
37	プロジェクト・コンフィギュレーション・マネジメント実務標準	Practice Standard for Project Configuration Management	Project Management Institute, Inc.	PMI日本支部	PMI日本支部	2010年10月
38	PMBOKセミナー副読本 第二版 PMBOK®ガイド対応		PMI日本支部		PMI日本支部	2011年5月

PMI日本支部 (PMI東京支部) 発行の出版書籍一覧

No.	書名	原著	著者	監訳	発行	出版
39	PMツールの実践的活用法		PMI日本支部		鹿島出版会	2011年7月
40	PMBOKガイド活用法 日本の企業文化に適應させるためのヒント		PMI日本支部		オーム社	2012年1月
41	プロジェクト見積り実務標準	Practice Standard for Project Estimating	Project Management Institute, Inc.	PMI日本支部	PMI日本支部	2012年3月
42	スケジューリング実務標準 第2版	The Practice Standard for Scheduling Second Edition	Project Management Institute, Inc.	PMI日本支部	PMI日本支部	2012年9月
43	アーンド・バリュー・マネジメント実務標準 第2版	Practice Standard for Earned Value Management Second Edition	Project Management Institute, Inc.	PMI日本支部	PMI日本支部	2012年12月
44	プロジェクトマネジメント知識体系ガイド (PMBOK®ガイド) 第5版	A Guide to the Project Management Body of Knowledge Fifth Edition	Project Management Institute, Inc.	PMI日本支部 PMI TVC	Project Management Institute, Inc.	2014年2月
45	PMBOKガイド第5版レファレンス		PMI日本支部		PMI日本支部	2014年8月
46	ポートフォリオマネジメント標準 第3版	The Standard for Portfolio Management Third Edition	Project Management Institute, Inc.	PMI日本支部	PMI日本支部	2014年11月
47	プログラムマネジメント標準 第3版	The Standard for Program Management Third Edition	Project Management Institute, Inc.	PMI日本支部	PMI日本支部	2014年12月
48	PMBOKセミナー副読本 第5版 PMBOK®ガイド 第5版対応		PMI日本支部		PMI日本支部	2015年2月
49	組織的プロジェクトマネジメント成熟度モデル (OPM3®) 基礎知識 第3版	Organizational Project Management Maturity Model (OPM3®) Knowledge Foundation Third Edition	Project Management Institute, Inc.	PMI日本支部	PMI日本支部	2015年4月
50	PMBOKガイド® 第5版 ソフトウェア拡張版	Software Extension to the PMBOK® Guide Fifth Edition	Project Management Institute, Inc.	PMI日本支部	PMI日本支部	2015年12月
51	実務者のためのビジネスアナリシス:実務ガイド	Business Analysis for Practitioners: A Practice Guide	Project Management Institute, Inc.	PMI日本支部	PMI日本支部	2016年12月
52	教育プロジェクトマネジメント (教育を変える国際標準マネジメント手法)		PMI日本支部 関西ブランチ 医療プロジェクトマネジメント研究会 / 川崎医療福祉大学 医療秘書学科・大学院		大学教育出版	2017年7月
53	組織のチェンジマネジメント:実務ガイド	Managing Change in Organizations: A Practice Guide	Project Management Institute, Inc.	PMI日本支部	PMI日本支部	2017年12月
54	プロジェクトマネジメント知識体系ガイド (PMBOK®ガイド) 第6版	A Guide to the Project Management Body of Knowledge Sixth Edition	Project Management Institute, Inc.	PMI日本支部 PMI TVM	Project Management Institute, Inc.	2017年12月
55	アジャイル実務ガイド	Agile Practice Guide	Project Management Institute, Inc.	PMI日本支部 PMI TVM	Project Management Institute, Inc.	2018年4月

一般社団法人 PMI日本支部 創立20周年記念誌
PMI Japan Chapter 20th Anniversary Book - A celebration of our history

2018年7月14日 発行

編 集： PMI日本支部 20周年記念誌編集プロジェクト

発 行： 一般社団法人 PMI日本支部

〒103-0008 東京都中央区日本橋中洲3-15 センタービル3階

<https://www.PMI-japan.org/>

制作協力： イデコ株式会社

©PMI Japan Chapter, 2018

本書は著作権上の保護を受けています。本書の一部または全部について、一般社団法人 PMI日本支部から文書による許諾を得ずに、いかなる方法においても無断で複写、複製することは禁じられています。
本書のお問い合わせについては、一般社団法人 PMI日本支部 事務局 (info@pmi-japan.org) までご連絡下さい。



PMI Japan Chapter
20th Anniversary Book
A celebration of our history

